

【資料6】

# 大阪府市のプロジェクト一覧

(P1～P21 2017年度事業 期末評価)  
(P22～P37 2018年度事業 中間評価)



資料6 大阪都市魅力創造戦略2020 プロジェクト一覧

目指すべき都市像	施策の方向性	施策名	重点	No.
<b>1. 世界に誇れる自慢の都市</b>				
①世界第一級の文化・観光拠点形成・発信				
	(1)	夢洲でのIRを含む国際観光拠点形成	○	1
	(2)	水と光のまちづくりの推進	○	
		水辺の魅力空間づくり	○	2
		舟運活性化	○	3
		シンボルイベントの実施	○	4
		水辺のランドマークの創出	○	5
		淀川の魅力推進	○	6
		大阪光のまちづくり2020構想の推進		7
	(3)	万博記念公園の魅力創出	○	8
	(4)	百舌鳥・古市古墳群の魅力創出	○	9
	(5)	ストーリー性をもたせた大阪魅力の再編集・発信	○	10
	(6)	大阪城・森之宮・大手前地区の魅力向上		
		歴史拠点の創出	○	11
		世界的観光拠点化	○	12
	(7)	中之島地区の魅力向上		
		新しい美術館の整備	○	13
		大阪市中央公会堂100周年を契機とした魅力発信		14
	(8)	御堂筋地区の魅力向上		
		御堂筋の空間再編	○	15
		御堂筋活性化事業		16
		クオリティの高いにぎわい空間や官民協働によるブランドの創出		17
		御堂筋完成80周年記念事業	○	18
	(9)	天王寺・阿倍野地区の魅力向上		
		天王寺・阿倍野地区の魅力発信・集客促進	○	19
		天王寺公園・動物園の魅力向上	○	20
		大阪市立美術館の魅力向上		21
	(10)	築港・ベイエリア地区の魅力向上		
		クルーズ客船の母港化	○	22
		大阪港開港150年記念事業		23
	(11)	大阪駅周辺地区の魅力向上	○	24
	(12)	なんば駅周辺道路空間再整備	○	25
②大阪ならではの魅力創出・発信				
	(1)	国内外の人々を惹きつけるキラーコンテンツの創出	○	26
	(2)	大阪・光の饗宴の魅力向上	○	27
	(3)	御堂筋活性化事業		16
	(4)	大阪マラソンの魅力向上	○	28
	(5)	スポーツツーリズムの推進	○	29
③大阪の文化を満喫できる魅力創出・発信				
	(1)	大阪の食の魅力の創出・発信	○	30
		民間との連携による食の魅力発信		31
	(2)	天満・天神橋地域の魅力発信		32
④魅力的な景観演出				
	(1)	観光魅力向上のための歴史・文化的まちなみ創出事業		33
	(2)	恒常的なまちの魅力向上支援事業補助金		34
<b>2. 安全で安心して楽しめる24時間おもてなし都市</b>				
①観光客受入環境の充実				
	(1)	Wi-Fi設置の拡充	○	35
	(2)	公共交通機関等と連携した受入環境の整備	○	36
	(3)	観光公衆トイレの整備促進	○	37
	(4)	宿泊施設における「おもてなし」環境の整備事業	○	38
	(5)	歩行者案内標識整備		39
	(6)	「トラベルサービスセンター大阪」の運営	○	40
	(7)	観光案内所の運営		41
	(8)	観光客への情報提供機能の充実	○	42
	(9)	観光案内板等の整備促進	○	43
	(10)	観光案内板等の掲載情報の更新等		44
	(11)	観光ボランティアの育成	○	45
	(12)	観光ボランティアガイドとの連携		46
	(13)	なんば駅周辺道路空間再整備	○	25
	(14)	多言語対応の強化	○	47
	(15)	観光バス乗降場環境整備		48
②旅行者の安全・安心の確保				
	(1)	外国人旅行者の災害時における安全確保	○	49
③旅行者ニーズに配慮した多様なサービスの提供				
	(1)	文化、観光、商業施設等の開館・営業時間の延長	○	50
	(2)	イベント・公演等の開演時間の繰り下げ	○	51
	(3)	大阪・光の饗宴の魅力向上	○	27
	(4)	ランドマークのライトアップの時間延長・創出	○	52

<b>3.多様な人材が集う観光・MICE都市</b>			
①MICE誘致の推進			
MICE誘致の推進	○		53
夢洲でのIRを含む国際観光拠点形成	○		1
②観光マーケティング・リサーチの強化			
(1)大阪観光局運営事業(大阪版DMO推進事業)			54
③観光振興を支える人材等の育成			
(1)大阪観光局運営事業(大阪版DMO推進事業)			54
(2)観光ボランティアの育成	○		45
(3)都市魅力をみんなで支えるネットワークづくり	○		55
(4)大阪市版TID(Tourism Improvement District)モデル創出事業	○		56
<b>4.多様な楽しみ方ができる周遊・滞在都市</b>			
①効果的なプロモーションの強化			
(1)国内外への戦略的なプロモーションの展開			57
(2)各種プロモーションツールを活用した大阪の情報発信の強化			58
(3)大阪ミュージアムの推進			59
(4)大阪都市景観建築賞(大阪まちなみ賞)			60
(5)フィルムカウンシル事業の充実			61
②周遊性を高める利便性の向上			
(1)観光バス駐車場の確保・充実			62
(2)魅力資源の結びつけによる府内各地の周遊性向上事業			63
③大阪に滞在したくなる仕掛けづくり			
(1)ストーリー性をもたせた大阪魅力の再編集・発信	○		10
<b>5.大阪が誇る文化力を活用した都市</b>			
①上方伝統芸能を活用した魅力発信			
(1)世界に発信する「大阪文化の祭典」	○		64
②都市の魅力向上と新たな文化の創造			
(1)アートスポットの魅力創出・発信	○		65
(2)大阪市中央公会堂100周年を契機とした魅力発信			14
(3)新しい美術館の整備	○		13
(4)留学生への大阪文化の魅力発信			66
(5)美術館・博物館の魅力向上			67
③文化プログラムの推進			
(1)文化魅力の情報発信	○		68
(2)大阪らしい芸術文化の魅力の創出	○		69
(3)アーツカウンシルの機能強化			70
<b>6.あらゆる人々が文化を享受できる都市</b>			
①芸術文化を創造し、支える人材の育成・支援の充実			
(1)若手アーティストらの発表機会の提供			71
②将来の社会の担い手となる青少年の育成			
(1)芸術文化を将来へ継承させる青少年の育成			72
③芸術文化拠点の充実と府民意識の醸成等			
(1)都市魅力をみんなで支えるネットワークづくり	○		55
<b>7.アジアをリードする国際・プロスポーツ都市</b>			
①国際的なスポーツイベントの開催			
(1)ラグビーワールドカップ2019の大阪開催	○		73
(2)国際的なスポーツイベントなどの誘致	○		74
(3)オリ・パラ等事前キャンプ誘致の推進			75
(4)ホストタウンへの登録	○		76
(5)オリ・パラ開催に向けた事業の展開	○		77
(6)関西ワールドマスターズゲームズ開催に向けた事業の展開	○		78
②スポーツ都市大阪の魅力発信			
(1)大阪マラソンの魅力向上	○		28
(2)スポーツツーリズムの推進	○		29
(3)プロスポーツとの連携事業			79
(4)スポーツ情報ネットワークシステム推進事業			80
③ラグビーワールドカップ、オリ・パラ、関西ワールドマスターズゲームズの開催を契機としたレガシーの形成			
(1)オリンピック・パラリンピックムーブメント教育の推進	○		81
<b>8.健康と生きがいを出るスポーツに親しめる都市</b>			
①スポーツを「する」機会、「ささえる」力の拡充			
(1)関西ワールドマスターズゲームズ開催に向けた事業の展開	○		78
(2)トップアスリート等との連携事業			82
(3)オリンピック・パラリンピックムーブメント教育の推進	○		81
(4)スポーツボランティア養成及び派遣事業			83
②スポーツを通じた健康増進			
(1)府民スポーツ・レクリエーションフェスティバル			84
<b>9.世界で活躍できるグローバル人材育成都市</b>			
①グローバル人材育成			
(1)グローバル人材育成事業			85
(2)英語イノベーション事業			86
(3)公設民営学校(国際バカロレア等)の設置			87
②外国人留学生の受入と定着支援			
(1)留学生の住まい確保に向けた公的賃貸住宅事業者と大学連携事業	○		88
(2)外国人留学生との連携拡大及び起業支援			89

	③企業における高度外国人材の積極的受入・活用		
	(1) 企業における高度外国人材の積極的受入・活用や留学生の就職支援	○	90
10. 出会いが新しい価値を生む多様性都市			
	①国際都市にふさわしい安全安心の取組みの推進		
	(1) 外国人相談事業の充実		91
	(2) 災害時多言語支援センター設置・運営訓練		92
	(3) 府内大学連携型災害時多言語支援人材確保事業		93
	(4) 在住外国人に対する情報発信の充実		94
	②地域のグローバル化		
	(1) 観光案内板等の整備促進	○	43
	(2) ホストタウンへの登録	○	76
	(3) 多文化共生施策の推進		95
	③国際競争力を有するビジネス拠点としての大阪の魅力向上		
	(1) MICE誘致の推進	○	53
	(2) グローバルイノベーション創出支援事業		96
	(3) 大阪トップランナー育成事業		97
	(4) 水・環境分野における大阪関西企業の海外展開支援		98
	(5) ビジネスパートナー都市交流事業		99
	(6) 外国人留学生の起業支援		89
	(6) 外国企業誘致推進事業		100
	④大都市大阪の活力を統合した都市外交の推進		
	(1) トップセールスによる戦略的プロモーション		101
	(2) JICA（国際協力機構）との連携事業		102

### 大阪都市魅力創造戦略2020 プロジェクト一覧（2018年度新規事業）

目指すべき都市像	施策の方向性	施策名	重点	No.
1. 世界に誇れる自慢の都市	①世界第一級の文化・観光拠点形成・発信			
	(1) 鶴見緑地の再生・魅力向上事業			新規
3. 多様な人材が集う観光・MICE都市	①MICE誘致の推進			
	(1) 2019年G20大阪サミット開催に向けた取組みの推進		○	新規
10. 出会いが新しい価値を生む多様性都市	③国際競争力を有するビジネス拠点としての大阪の魅力向上			
	(1) 2019年G20大阪サミット開催に向けた取組みの推進		○	新規

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

										年度		2017	
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市		
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額			
1	夢洲での I R を含む国際観光拠点形成	大阪市、大阪府、民間事業者	MICE機能や国際的なエンターテインメント機能を備えた統合型リゾート（I R）の誘致など、民間の創意・工夫や意見を取り入れながら、国際観光拠点の形成をめざす。	夢洲での I R を含む国際観光拠点形成	I R 推進会議を7回以上開催 大阪 I R 基本構想（案）を平成29年度中に策定	I R 推進会議を6回開催 大阪 I R 基本構想（案）・中間骨子を取りまとめ	I R 推進会議を5回開催し、そこで検討した内容も踏まえたうえで、8月に大阪 I R 基本構想（案）・中間骨子を取りまとめなど、概ね予定どおり進んでいる。	事業の拡大・継続	I R 推進会議での議論も踏まえたうえで、大阪 I R 基本構想（案）・中間骨子を取りまとめたほか、国に対しても意見等を提出するなど、当初の目標を、ほぼ達成することができた。	統合型リゾートの大阪立地推進事業 （予算：36,875千円、決算：29,386千円）	I R を含む国際観光拠点の形成に向けた立地推進事業 （予算：32,995千円、決算：15,466千円）		
2	水と光のまじぶりの推進 > 水辺の魅力空間づくり	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	・ 舟運をはじめ水辺も楽しめる観光メニューが集結するターミナルの整備 ・ 水辺魅力の向上や、舟運活性化に資する空間・景観整備	水都大阪の更なる「成長」へ向けた取組みを着実に推進	舟運利用者数：90万人	舟運利用者数：120万人	八軒家浜を舟運拠点空間とするための基本計画策定にかかる業務委託を10月に行った。船から見える景色、船が行き交う景色を意識したアート空間などの整備について、船寄施設は11月に工事着手、アート空間は12月の工事着手へ向け、関係機関と調整を行っていることから、おおむね計画どおり事業進捗している。 また、本町橋周辺の拠点整備にかかる設計業務委託を7月に契約し、次年度工事発注に向けて関係機関と調整を行っていることから、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	舟運拠点やアート空間などの整備については、一部で関係機関との協議に日時を要したことで、翌年度に継続して実施するもの、おおむね計画どおりに実施し、当初の目標は達成した。 また、本町橋周辺の拠点整備については、次年度工事発注に向けて関係機関と調整を行いながら、設計業務を完了させており、計画どおり実施した。	水辺にぎわい空間づくり事業 （予算：85,953千円、決算：36,700千円、H30への繰越：49,253千円）	水辺の魅力向上（東横堀川 本町橋周辺の拠点整備） （予算：10,000千円、決算：10,000千円）		
3	水と光のまじぶりの推進 > 舟運活性化	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	舟運の共同運航体制の構築や係留環境の充実などによる旅行者ニーズに対応した観光メニューとしてのクルーズ商品の多様化促進	水都大阪の更なる「成長」へ向けた取組みを着実に推進	舟運利用者数：90万人	舟運利用者数：120万人	魅力ある舟運の創出に向け、民間のアイデアやノウハウを活用するため、「水都大阪舟運創造推進事業」を創設し、受託者の公募・選定を9～10月に行った。また、水辺のイベントと連携したクルーズ開発支援により、観光メニューとしてのクルーズ商品化促進に向け、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	水の回廊を中心とした水辺拠点などをつなぐクルーズの開発など、魅力ある舟運の創出を図ることで、水都大阪の魅力と認知度を向上させ、水都大阪の更なる「成長」へ向けた取組みを着実に推進した。	水都大阪コンソーシアム事業 （予算：35,500千円、決算：34,335千円）	水と光のまじぶり推進事業 （予算：35,500千円、決算：34,335千円）		
4	水と光のまじぶりの推進 > シンポールの実施	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	オリバイヤーに水辺を舞台にしたシンポイルイベントを開催し、水都大阪の魅力を国内外へ発信、ブランディングと集客力を強化	水都大阪の魅力国内外へ発信、ブランディングと集客力を強化	舟運利用者数：90万人	舟運利用者数：120万人	「水都大阪フェス2017」の開催を通じて、効果的なイベントのあり方について、関係者の共通認識を深めると共にシンポイルイベントについてオール大阪で機運醸成を図っていることから、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	「水都大阪フェス2017」の開催を通じて、効果的なイベントのあり方について、関係者の共通認識を深め、シンポイルイベントについてオール大阪での機運醸成を図り、水都大阪の魅力を国内外へ発信し、ブランディングと集客力を強化した。	予算事業なし	予算事業なし		
5	水と光のまじぶりの推進 > 水辺のランドマークの創出	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	水の回廊ならではのランドマークやコンテンツを創出し、回廊全体の集客力アップや、クルーズをはじめとした観光メニューにおける新たな付加価値による魅力の向上	水の回廊全体の集客力アップや、クルーズをはじめとした観光メニューにおける新たな付加価値による魅力の向上	舟運利用者数：90万人	舟運利用者数：120万人	舟運活性化、イベント開催などの実施を通じ、水の回廊ならではのランドマークやコンテンツ創出について、関係者の共通認識を深めている。	事業の拡大・継続	舟運活性化、イベント開催などの実施を通じ、水の回廊ならではのランドマークやコンテンツ創出について、関係者の共通認識を深め、観光メニューにおける新たな付加価値による魅力の向上に努めた。	予算事業なし	予算事業なし		
6	水と光のまじぶりの推進 > 淀川の魅力推進	大阪府、市町村、経済団体、民間事業者	淀川舟運の活性化に向けた沿川地域の魅力づくり	淀川沿川などにおいて、広域連携型のまちづくりの推進に向けた取組を進める。	淀川・沿川の広域連携型のまちづくりに向けた推進方策の取りまとめや仕組づくり	淀川沿川まちづくりプラットフォームを設置し、民間主導による広域連携事業を実施するとともに、民間主導による「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」をとりまとめた。	淀川沿川で実施されるまちづくり活動等の関係者で、舟運の視点も含めて自由闊達な意見交換を行うことにより、民間主導による広域連携事業の実施や情報発信をすることを目的として、淀川沿川まちづくりプラットフォームを設置した。	事業の拡大・継続	淀川沿川まちづくりプラットフォームにおいて、民間主導による「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」をとりまとめた。	予算事業なし	-		

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

								年度		2017	
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額	
7	大阪光のまちづくり2020構想の推進	経済団体、民間事業者、大阪府、大阪市	「水と光のまちづくり推進会議」のもと、公民連携による圧倒的な光景観の形成により一層の魅力と賑わいに満ちた「水と光の首都大阪」の実現に取組む「光のまちづくり推進委員会」が策定した「大阪光のまちづくり2020構想」の情報共有を図り、大阪における光のまちづくりを推進	「水と光の首都・大阪」の実現	「大阪光のまちづくり2020構想」アクションプランの第3フェーズ（2017～2019年）の策定・推進	2017年12月26日開催の「水と光のまちづくり推進会議」において、光のまちづくり推進委員会の活動として、同アクションプランの第3フェーズに関する活動状況を報告した。	「第1回光のまちづくり推進委員会」（7月）において第3フェーズのアクションプランを承認、民主導のまちづくり、賑わいづくりについて概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	「大阪光のまちづくり2020構想」アクションプランの第3フェーズ（2017～2019年）の取組を推進していくため、総括小委員会並びにガイドライン部会、プロモーション部会による推進体制を構築した。また、2018年4月13日開催の「光のまちづくり推進委員会」においても同アクションプランの活動状況について報告があり承認された。	予算事業なし	予算事業なし
8	万博記念公園の魅力創出	大阪府	「太陽の塔」の耐震化、塔内のオブジェ「生命の樹」の再生及び地下展示室の増設（「地底の太陽」再生）等により、新たな魅力づくりを行う。	公園の魅力・観光価値を高め、来訪者が増加。	自然文化園入園者数：300万人（2020年度）	自然文化園入園者数：約225万人（2017年度）	「太陽の塔」耐震工事及び内部公開に向けた取組みについては、順調に進捗。2018年3月の一般公開に向けた取組みを引き続き進める。	事業の拡大・継続	「太陽の塔」耐震工事及び内部公開に向けた取組みについては、予定通り進捗し、平成30年3月19日より一般公開を開始。積極的な広報PR及び記念イベントの実施により、4ヶ月先まで観覧の予約が取れない状況となるほどの申込みがある施設となった。	太陽の塔耐震改修工事事業（予算：1,314,378千円） 太陽の塔内部展示制作委託事業（予算：220,320千円）	-
9	百舌鳥・古市古墳群の魅力創出	大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市	2010年に世界遺産暫定一覧表に記載された「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録の早期実現に向けた取組みを進める。	2019年度の世界文化遺産登録	2017年度の国内推薦獲得に向け、地元や首都圏における機運の醸成を図り、世界文化遺産登録の早期実現に向けた取組みを進める。	2017年7月31日に開催された国の文化審議会世界文化遺産部会において、世界文化遺産推薦候補に選定され、2018年1月にユネスコへ推薦された。	2017年7月末に今年度の世界文化遺産推薦候補に決定し、世界文化遺産登録に向けて、大きく前進した。	事業の拡大・継続	2018年1月に世界文化遺産としてユネスコへ推薦され、目標を達成した。	百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進事業（予算：20,148千円、決算：18,874千円）	-
10	ストーリー性をもたせた大阪魅力の再編集・発信	大阪府、市町村、民間事業者	大阪の魅力スポットやそれらを巡るルートにストーリー性を持たせて再編集し、地域における観光資源の磨き上げや受入環境の整備等を支援する事業を実施。	国内外からの集客・周遊性の向上をめざした環境整備	構築するストーリー数：2本程度（2017年度）	構築ストーリー数：4本	補助金の公募を行った結果、7事業の申請があり、審査の結果全事業に対し9月末に交付決定を行った。現在、補助事業の進捗管理を行いながら、申請団体と共にストーリーの作りこみを行っており、概ね当初の予定どおりに進んでいる。	事業の拡大・継続	1団体6市村から事業申請があり、最終的に4本のストーリーとしてとりまとめることで、当初の構築ストーリー数の目標を達成できた。今後は、ストーリーを効果的に発信するなどの取組みを行い、観光誘客につなげていくことが必要である。	大阪ストーリープロジェクト事業（予算：24,829千円、決算：26,602千円）	-
11	大阪城・森之宮・大手前地区の魅力向上 > 歴史拠点の創出	大阪市（経済戦略局、建設局）	・豊臣時代に築かれた初代大阪城の石垣を掘り起こし、公開する施設を整備 ・特別史跡大坂城跡保存管理計画を推進し、文化財を整備・活用 ・難波宮跡公園のハード・ソフト両面からの魅力向上等	まちの魅力向上	【大阪城公園関連】豊臣石垣公開施設の整備に向けた実施設計業務 【難波宮跡公園関連】年度内に「史跡等保存活用計画」を作成する。	【大阪城公園関連】豊臣石垣公開施設の整備に向けた実施設計を行った。 【難波宮跡公園関連】史跡等保存活用計画」にかかる基本方針を定めた。	【大阪城公園関連】 ・豊臣石垣公開施設の整備に向け、施設、展示の実施設計を発注し、おおむね計画通り進めている。 【難波宮跡公園関連】 ・難波宮跡整備計画検討委員会にはかりながら、府市連携して「史跡等保存活用計画」の作成を進めている。	事業の拡大・継続	【大阪城公園関連】 ・豊臣石垣公開施設の施設、展示の実施設計を予定どおり行った。 ・特別史跡大坂城跡整備計画検討会議を4回開催し、本丸地区の計画を暫定的に取りまとめた。 【難波宮跡公園関連】 ・今後の公園整備にあたり、難波宮跡の保存と今後の活用方針を定めた「史跡等保存活用計画」を作成する必要がある。	-	経済戦略局大阪城観光拠点化事業（予算：113,027千円、決算：34,753千円） 建設局 難波宮跡公園整備事業（予算：269,000千円、決算：204,300千円）
12	大阪城・森之宮・大手前地区の魅力向上 > 世界的観光拠点化	大阪市	・2015年度に導入した大阪城公園PMO事業を推進し、民間活力を活用した公園の新たな魅力を創出	大阪城公園の魅力向上	各施設の利用者（件）数：天守閣237万人、野球場800件、西の丸庭園30万人、豊松庵70件、音楽堂100件 満足度調査：85%	各施設の利用者（件）数：天守閣275万人、野球場1,006件、西の丸庭園46.5万人、豊松庵123件、音楽堂95件 満足度調査：84%	計画通り進んでいる。	事業の拡大・継続	・既存改修事業、新規施設整備とともに、計画どおり実施した。 ・利用者（件）数、満足度ともに、成果指標をおおむね達成した。	-	大阪城エリア観光拠点化事業（予算：113千円、決算：131千円）

大阪市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

								年度		2017		
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市	
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額		
13	中之島地区の魅力向上 > 新しい美術館の整備	大阪市	大阪市が所蔵する第一級のコレクションを活用して、市立美術館や東洋陶磁美術館とは異なる新たな魅力にあふれる「(仮称)大阪新美術館」を、2021(平成33)年度の開館をめざして整備する。 また、「(仮称)大阪新美術館」の整備に取り組むことにより、中之島地区の魅力向上に貢献していく。	中之島地区の魅力向上に貢献し、来訪者が増加	開館後の年間入場者数 約60万人	-	-	・2021年度の開館に向け、基本設計業務を完了するとともに、運営型PFIスキームの検討やコレクションの魅力向上をすすめており、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	・2021年度の開館に向け、基本設計業務を完了するとともに、PFI導入可能性調査やコレクションの魅力向上を実施し、計画どおり事業進捗している。	-	新しい美術館の整備事業(予算: 209,623千円、決算: 197,812千円)
14	中之島地区の魅力向上 > 大阪市中央公会堂100周年を契機とした魅力発信	大阪市	2018年に開業100周年を迎える国指定文化財・大阪市中央公会堂の魅力を広く伝える行事を実施することで、引き続き大阪の誇る資産として魅力を発信していく。	中央公会堂開館100周年の機運醸成による中之島地区の魅力向上	連携事業数 5件 開館100周年記念イベント参加者数 500人	連携事業数 6件 開館100周年記念イベント参加者数 1300人 (特別見学会・フォーラム)	専門家や中之島エリアのイベント・企業等からヒアリングを重ね、2018年も見据えたプレ・イヤーとして効果的なPRをおこなっている。	事業の拡大・継続	事業実施を通じ、メディア(情報番組、雑誌等)での紹介件数も増加しており、開館100周年の機運が高まりつつある。引き続き、更なる施設来訪者増加と中之島エリアのにぎわい創出をめざす。	-	予算事業なし(既存事業の範囲内で実施)	
15	御堂筋地区の魅力向上 > 御堂筋の空間再編	大阪市、民間事業者	側道を利活用した御堂筋の歩行者空間化に向けた道路空間再編を行う。	御堂筋における歩行者の安全性向上	整備後の御堂筋を通行することに満足している歩行者の割合(歩行者の安全性向上): 2013年度 45%→2021年度 55%	御堂筋のモデル整備区間(難波~難波西口間東側)における歩行者の安全性向上が確認できた。	御堂筋における歩行者の安全性向上に向けたモデル整備後の効果検証を実施し、現在は調査結果とりまとめ並びにデータ分析中。	事業の拡大・継続	御堂筋における歩行者の安全性向上に向けたモデル整備後の効果検証を実施した結果、整備前後で「歩行者と自転車が歩道内で輻輳している状況が改善されている」ことが明らかとなった。検証結果などを踏まえ、側道歩行者空間化に向けた継続的な検討を行っていく。	-	御堂筋の活性化(予算: 40,500千円、決算: 39,659千円)	
16	御堂筋地区の魅力向上 > 御堂筋活性化事業	大阪府、大阪市、国土交通省近畿地方整備局、経済団体、大阪観光局	大阪のシンボルストリートである御堂筋を歩行者に開放し非日常的なイベントを実施。御堂筋・大阪の魅力を国内外に発信する。	御堂筋を国内外に発信できる集客装置として活用して、国内外からの話題を集め、御堂筋・大阪の魅力を発信する。	・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 80回以上 ・Web掲載回数 600回以上	・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 88回 ・Web掲載回数 560回以上	完成当時の御堂筋の街並み再現、漫才、ジャズバンド、合唱団、ダンスパフォーマンス、飲食・出展ブース、ケータリングカー等が楽しめる「にぎわい出展エリア」を開催。来場者から好評を得られた。	事業の拡大・継続	完成当時の御堂筋の街並み再現、漫才、ジャズバンド、合唱団、ダンスパフォーマンス、飲食・出展ブース、ケータリングカー等が楽しめる「にぎわい出展エリア」を開催。イベント開催前からマスコミ等で大きな話題となり、来場者が30万人となった。テレビ・新聞・雑誌の掲載回数は昨年を上回る結果を得られた。	御堂筋開放事業(予算: 18,000千円、決算: 17,936千円)	御堂筋活性化事業(予算: 18,000千円、決算: 17,986千円)	
17	御堂筋地区の魅力向上 > クオリティの高いにぎわい空間や官民協働によるブランドの創出	大阪市、民間事業者	御堂筋地区計画に沿って、きめ細かな建築デザイン、にぎわい用途等を誘導するとともに、御堂筋80周年を契機に、歩道の彫刻を生かした芸術性の高い通りの実現や、エリアマネジメント活動の促進、定着を図る。 また、市内の御堂筋・梅田・中之島地区を中心とするエリアマネジメント団体の交流や情報交換を目的とする会議を開催し、大阪都心部のエリアマネジメント活動の推進を図ることを目的としたガイドラインの策定に向けた検討を行う。	・上質なにぎわい空間の創出と、芸術性の高い通りの実現 ・ガイドラインに基づく民間事業者等の取組の促進	・沿道美化活動の継続(年1回以上) ・プランナー整備38基以上(エリアマネジメント団体による日常管理) ・大阪エリアマネジメント活性化会議の開催(2回)	・沿道美化活動を2回実施(春、秋)した。 ・御堂筋沿道の彫刻脇にコンテナガーデン(プランター新設38基)を整備し、エリアマネジメント団体が日常管理を実施した。 ・大阪エリアマネジメント活性化会議において、エリアマネジメント活動のさらなる活性化に向け、ガイドラインの検討を進めた。	・彫刻脇のプランターの整備や、エリアマネジメント団体と連携したイベント等の取り組みを支援した。 ・大阪エリアマネジメント活性化会議を2017年7月に開催し、各団体の活動事業等の情報共有を行った。	事業の拡大・継続	・御堂筋完成80周年記念事業として、彫刻を彩るべく御堂筋コンテナガーデン(プランターによる草花の設置)を2017年12月に整備し、エリアマネジメント団体が日常管理を実施した。また、沿道企業と協力して彫刻周辺の美化活動を春と秋の2回実施したことにより、上質なにぎわい空間の創出と芸術性の高い通りの実現が可能となった。 ・大阪エリアマネジメント活性化会議を2017年7月と2018年3月に開催し、各団体間で活動事業等の情報共有が図られた。	-	建築美観誘導関係事務(予算: 1,411千円、決算: 1,117千円) 御堂筋の景観整備(彫刻ストリート)(予算: 3,874千円、決算: 2,360千円) 御堂筋の彫刻修景整備(彫刻脇のプランター整備)(予算: 9,850千円、決算: 4,226千円) エリアマネジメント活動促進制度関係事務(予算: 4,000千円、決算: 3,802千円)	

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

										年度	2017
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
18	御堂筋完成80周年記念事業	大阪市、民間事業者	御堂筋が完成して80周年を迎える年を契機として、人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方や、民間と連携したまちづくりのあり方を議論し、公民連携による新しい御堂筋づくりをスタートさせることを目的に記念事業を実施する。	公民の緊密な連携関係の構築、エリアマネジメントの活性化やまちづくりの推進	シンポジウム、ワークショップ等の各種記念事業の実施	シンポジウム、ワークショップ等の各種記念事業の実施ができた。	シンポジウムやワークショップ等の各種記念事業を通じて今後の御堂筋のあり方や民間と連携したまちづくりのあり方などの議論を行っている。	事業の拡大・継続	シンポジウムやワークショップ等の各種記念事業を通じて今後の御堂筋のあり方や民間と連携したまちづくりのあり方などの議論を行い、年度末には御堂筋完成80周年記念事業推進委員会としての御堂筋の将来像を示した御堂筋将来ビジョン(案)をとりまとめた。	-	御堂筋完成80周年記念事業(予算:49,850千円、決算:57,886千円)
19	天王寺・阿倍野地区の魅力向上 > 天王寺・阿倍野地区の魅力発信・集客促進	大阪市	天王寺公園・動物園を核として、周辺観光施設等と連携しながら、地区全体の魅力発信・集客促進に取り組む	天王寺・阿倍野地区の魅力向上	地区の魅力発信の手法の検討	インバウンド向けフリーペーパーの活用を調整	現時点では、戦略上のスケジュールどおり事業進捗が図られている。	事業の拡大・継続	魅力発信・集客促進に向けて戦略上のスケジュールどおり事業進捗が図られている。	-	予算事業なし
20	天王寺・阿倍野地区の魅力向上 > 天王寺公園・動物園の魅力向上	大阪市	天王寺・阿倍野地区において、地区の核となる天王寺公園・動物園の官民連携等による魅力向上・活性化、ひいては天王寺・阿倍野地区全体の集客力・ブランド力の向上を図る。	天王寺公園・動物園の魅力向上、来園者数の増加	・公園来園者数:2012年度129万人(実績)を2017年度に260万人にする ※ゲートエリア開業に向けて2018年度中に見直し予定。 ・動物園来園者数:2012年度124万人(実績)を2019年度に175万人にする	・エントランスエリア等来園者数:2017年度420万人 ・動物園来園者数:2017年度174万人	ゲートエリアでの新たな官民連携の取組みや動物園での改革・改善の実行など、地区の核としておおむね計画どおり事業進捗が図られている。	事業の拡大・継続	ゲートエリアでの新たな官民連携の取組みや動物園での改革・改善の実行など、魅力向上・活性化に向けて事業進捗が図られている。	-	【経済戦略局】天王寺公園・動物園の魅力向上事業(予算:815千円、決算:228千円) 【建設局】天王寺公園・動物園の魅力向上事業(予算:公園198,000千円、動物園177,432千円、道路13,700千円、決算:公園212,510千円、動物園151,074千円、道路8,813千円)
21	大阪市立美術館の魅力向上	大阪市	・市立美術館は世界的レベルの所蔵作品を誇り、建物は登録有形文化財に指定された日本を代表する美術館で、天王寺・阿倍野地区の観光集客拠点である。80周年を迎え、その役割を十分に果たすために必要な機能強化やサービス向上にむけた大規模改修を実施するにあたり、基本計画の策定や最適な事業手法を検討する。また、大規模改修までに計画的な所蔵作品の修復を進め、鑑賞機会を増加させるとともに、観光集客拠点としての、より一層の魅力向上を図る。	・大規模改修に関する基本計画の策定 ・リニューアル後の展覧会の柱となる美術品の充実(補修)	・大規模改修に関する基本計画の策定 ・リニューアル後の展覧会の柱となる美術品の充実(補修)	・大規模改修に関する基本計画の策定 ・リニューアル後の展覧会の柱となる美術品の充実(補修)	・天王寺・阿倍野エリアの集客拠点として、多くの来館者呼び込みのよう、現代の美術館として必要な機能強化やサービス向上等を内容とした大規模改修基本計画の早期策定に取り組むとともに、計画的な所蔵作品の修復を進め、鑑賞機会の増加や展示品の充実に取り組んでいる。	事業の拡大・継続	・天王寺・阿倍野エリアの集客拠点として、多くの来館者呼び込みのよう、現代の美術館として必要な機能強化やサービス向上等を内容とした大規模改修基本計画を策定した。計画的な所蔵作品の修復を進め、鑑賞機会の増加や展示品の充実に取り組んでいる。	-	大阪市立美術館の魅力向上事業(予算:38,600千円、決算:33,641千円)



大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
22	築港・ベイエリア地区の魅力向上 > クルーズ客船の母港化	大阪市、大阪観光局	・クルーズ客船の母港化により内外集客力を強化 ・新たなウォーターフロントのまわりの挑戦し、集客観光拠点化を図り、世界にアピール	クルーズ客船の母港化に向け、観光客増につながる大阪港への寄港回数増加	2017年度寄港数：50隻	2017年の寄港実績：50隻（前年28隻） ※実績は暦年による	予定どおり進んでいる。	事業の拡大・継続	クルーズ客船の寄港実績、寄港予約ともに伸びている。引き続き、客船会社へのセールスなど、客船誘致活動を継続していくとともに、クルーズ客船母港化に向けた施設整備を進めていく。	天保山客船ターミナル整備事業補助金交付事業（予算：14,400千円、別途、債務負担行為993,026千円 決算：12,754千円）	天保山客船ターミナル整備事業（予算：42,918千円、別途、債務負担行為3,708,000千円 決算：25,509千円） クルーズ客船の誘致・受入事業（予算：14,635千円、決算：18,399千円）
23	築港・ベイエリア地区の魅力向上 > 大阪港開港150年記念事業	大阪市	大阪港開港150年という記念すべき年を、多くの市民の皆様と共に祝いするとともに、大阪港の港勢伸長及びベイエリアの魅力向上・臨海地域の活性化の契機とする。	大阪港の港勢伸長及びベイエリアの魅力向上・臨海地域の活性化	・大阪港が身近な存在と感じる市民の割合（70%以上） ・港への集客力向上または臨海地域の活性化に寄与する新規事業の創出件数（5件以上） ・大阪港開港150年記念事業協賛金の獲得（2017年11月末までの目標額：10,000千円）	・大阪港が身近な存在と感じる市民の割合（約74%） ・港への集客力向上または臨海地域の活性化に寄与する新規事業の創出件数（19件） ・大阪港開港150年記念事業協賛金の獲得（54,235千円 ※物品による寄附を除く）	新聞広告をはじめとした様々な媒体で事業のPRを積極的に展開した結果、多くの事業者から賛同いただき、目標額を大幅に上回る51,235千円（物品による寄付は除く）もの協賛金を獲得することができた。また、アンケートを聴取したイベントに参加した約74%の方が大阪港を身近な存在であると回答するなど、本事業を通じて、市民レベルでも港に対する理解度の向上を図ることができた。他方、新規事業の創出については、事業の実施結果等を踏まえながら、効果検証を行い、引き続き検討を行っていく。	事業のスクラップ	民間事業者や団体、官公署などの協力により、当初計画を大幅に上回る数の記念事業（79件 ※プライベートを除く）を実施することで、臨海地域におけるにぎわいを創出するとともに、大阪港のPRを行うことができた。今後は、開港150年を機に醸成された大阪港の港勢伸長及びベイエリアの魅力向上・臨海地域の活性化に向けた機運にこたえるべく、港湾行政の推進に努めていく。	大阪港開港150年記念事業（予算：95,100千円、決算：110,731千円） 大阪港開港150年を契機としたベイエリア魅力向上事業（予算：1,596千円、決算：1,437千円）	
24	大阪駅周辺地区の魅力向上	大阪市、大阪府、民間事業者	うめきた2期まちづくりの推進 ・世界の人々を惹きつける魅力を持った「みどり」と、世界をリードする「イノベーション」の融合拠点形成に向けた取組みの実施	うめきた地区の魅力向上、にぎわい創出 うめきた2期まちづくりの機運醸成	うめきた2期みどりイノベーションの融合拠点形成推進協議会の設立 うめきた2期区域暫定利用にかかる事業：18事業、参加者数：前年度以上 基盤整備事業の着実な推進	経済界等とともに、「うめきた2期みどりイノベーションの融合拠点形成推進協議会」を設立し、イノベーションイベント等を実施。 うめきた2期区域のまちづくり実現に向け、都市再生緊急整備協議会第1回幹事会を開催し、民間関係事業者の募集を開始。暫定利用事業として18事業を実施し、約22万人が参加・来場。（平成28年度：21万人） 基盤整備について、新駅設置事業及び東海道線支線地下化事業、土地区画整理事業を着実に推進。	うめきた2期みどりイノベーションの融合拠点形成推進協議会を設立し、8月に開催した設立記念シンポジウムでは250人を超える方に参加頂いた。また暫定利用事業も継続して実施しており、まちづくりの機運醸成、にぎわい創出が図られている。基盤整備事業についても順調に進捗しているところ。	事業の拡大・継続	「うめきた2期みどりイノベーションの融合拠点形成推進協議会」の設立のほか、暫定利用事業やプロモーション活動等を通じて、うめきた地区の賑わい創出や2期まちづくりの機運醸成を図ることができた。また、基盤整備についても、円滑な事業進捗が図られている。	うめきたまちづくり推進事業（予算：5,000千円、決算：5,000千円） ※参考 その他うめきた2期土地区画整理事業費（17,330千円）	うめきた2期「みどり」と「イノベーション」の融合拠点実現に向けた推進体制の構築（予算：5,000千円、決算：5,000千円） ※参考 その他うめきた2期区域基盤整備事業費（10,879百万円 上記、大阪府事業費を含む全体事業費）
25	なんば駅周辺道路空間再整備	民間事業者、経済団体、大阪市、大阪観光局、大阪府	なんば駅周辺の道路空間を、車中心の空間から人中心の空間へと再編し、地元組織等のエリアマネジメント活動により、世界を惹きつける観光拠点として上質で居心地の良い空間の創出を図る。	大阪のおもてなし玄関口として、世界をひきつける観光拠点を整備し、居心地の良い空間を生み出すとともに回遊性を高める。	なんば駅周辺道路空間の再編に係る実施計画（整備概要・事業スキーム・運営スキームの方向性）を作成する。	なんば駅周辺道路空間の再編に係る実施計画（整備概要・事業スキーム・運営スキームの方向性）を作成した。	地元協議会、関係機関と整備概要について合意済み。引き続き、事業スキーム・運営スキームの方向性について協議中であり、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	地元協議会、関係機関と実施計画（整備概要・事業スキーム・運営スキームの方向性）について合意を得ており、おおむね計画どおり事業進捗している。	拠点地区開発計画策定調査（予算：13,000千円、12,426千円） ※他地区との合算	

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

						年度		2017			
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額	
26	国内外の人々を惹きつけるキラコンテツの創出	大阪府	国内外に発信できる集客装置である御堂筋を活用して、非日常的なオンラインコンテンツを通じて大阪の魅力を内外へ発信し、多くの方に大阪に来ていただくための起爆剤となるイベントを開催。	御堂筋を国内外に発信できる集客装置として活用して、国内外からの話題を集め、御堂筋・大阪の魅力を発信する。	・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 80回以上 ・Web掲載回数 600回以上	・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 88回 ・Web掲載回数 560回	御堂筋から未来へ繋がるスポーツとパフォーマンスの祭典を開催。スポーツ、エンターテインメント、クリエイションをひとつに融合させた1日限りのサブライズな豪華共演で実施した。イベント開催前からマスコミ等で大きな話題となり、来場者が30万人となった。テレビ・新聞・雑誌の掲載回数は昨年を上回る結果を得られた。	事業の拡大・継続	国内外からの誘客促進事業 (予算：60,000千円、決算：60,000千円)	-	
27	大阪・光の饗宴の魅力向上	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	「御堂筋イルミネーション」と「OSAKA光のルネサンス」をコアプログラムとし、地域の活性化に取り組む団体等が大阪府内各エリアで展開する光のプログラムをエリアプログラムとして、一体的にプロモーション展開することにより、大阪の冬を代表する観光コンテンツとして、官民の連携・協働により都市魅力の創造・発信や都市ブランドの向上や国内外からの多くの観光誘客を図り、大阪の活力向上につなげる。	御堂筋イルミネーションの中央エリアを圧倒的な光空間を創出する事業として新たに構築し、大阪・光の饗宴の魅力向上を図る	大阪・光の饗宴全体の来場者数：1,350万人以上 大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数：17団体	大阪・光の饗宴全体の来場者数：約1,367万人(前年度比約74万人増) 大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数：19団体(前年度比3団体増)	コアプログラムのうち「御堂筋イルミネーション」は、中央エリアを圧倒的な光空間を創出する事業として新たに構築し、11月12日から実施。「OSAKA光のルネサンス」は11月12日から一部プレビュー点灯を行い、12月14日から12月25日まで実施予定。エリアプログラムについては、19団体23プログラムが参加。	事業の拡大・継続	ナイトカルチャー魅力創出事業(大阪・光の饗宴事業) (予算：248,578千円)	大阪・光の饗宴事業 (予算：179,939千円)	
28	大阪マラソンの魅力向上	大阪府、大阪府、民間事業者	世界トップレベルの市民マラソンを目指すためのさらなる魅力づくりを目指すとともに、大会の国際化を推進	大阪マラソンの魅力向上を図り、海外ランナーのエントリー数を増加	海外ランナーエントリー数：前年度並み(9,000人)	海外ランナーエントリー数：13,962人	大阪マラソン公式ホームページでの多言語ページ(英語・ハングル・中国語(繁体字・簡体字))の作成など、海外ランナーの誘客増加につながる取り組みを行った結果、エントリー数は前年度より3,630人増加した。また、9月26日には、上海国際マラソンと広報協力に関する覚書を締結することができた。	事業の拡大・継続	大阪マラソン公式ホームページでの多言語ページ(英語・ハングル・中国語(繁体字・簡体字))の作成など、海外ランナーの誘客増加につながる取り組みを行った結果、エントリー数は前年度より3,630人増加した。また、9月26日には、上海国際マラソンと広報協力に関する覚書を締結することができた。	大阪マラソン開催事業 (予算：97,500千円、決算：97,500千円)	大阪マラソン開催事業 (予算：90,000千円、決算：97,500千円)
29	スポーツツーリズムの推進	大阪府、大阪府、大阪観光局、民間事業者	ランドマークなど大阪のブランド力を活用したスポーツイベントを誘致・開催する。また、プロスポーツチームと連携した都市魅力の発信、観光振興につながる取組を推進	・観光集客を通じて地域を活性化させる<府・市> ・スポーツを活かした都市魅力創出、誘客促進<市>	・大阪にゆかりのあるプロスポーツチームの年間主催試合での観客者合計数300万人<府・市> ・国際競技大会・イベント等の誘致・開催：2件以上<市>	・大阪にゆかりのあるプロスポーツチームの年間主催試合での観客者合計数280万人<府・市> 国際競技大会・イベント等の誘致・開催：5件<市>	・プロスポーツチームと連携したイベントやポスター等の配布は完了。今後も、様々な機会を通じて、スポーツを大阪の都市魅力として発信する。<府> ・国際競技大会等を計画どおり開催するとともに、プロスポーツチームと連携し主催試合の招待や舞洲プロジェクト事業としてスポーツ教室を実施するなど、都市魅力の創出及び観光振興に寄与している。引き続き、スポーツ都市大阪の魅力を発信するため、事業を実施していく。<市>	事業の拡大・継続	・プロスポーツチームと連携したイベントや、様々な機会を通じてポスター等の配布等を行ったものの、観客者合計数について目標数値は達成できなかった。スポーツを大阪の都市魅力として発信できる機会をさらに増やし、目標数値達成に向け取り組んでいく。<府> ・国際競技大会等を計画どおり開催し、目標を上回る実績を残すことができた。また、プロスポーツ3チームと大阪市の4者が議論を行い、4者協働による付加価値の高い事業を実施することができた。<市>	予算事業なし	スポーツ競技大会の開催(予算：35,700千円、決算：35,636千円) 舞洲スポーツ振興事業(予算：15,000千円、決算：15,000千円)
30	大阪の食の魅力の創出・発信	大阪観光局、民間事業者、経済団体、大阪府	府内の飲食店が利用できる多言語メニュー作成支援システムを構築し、多言語メニュー設置店を増やすことで外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える。	・外国人旅行者の利便性向上	・府内の飲食店のシステム登録数：2,500件(府内の飲食店の5%以上)	-	システム構築については、当初スケジュールより若干遅れているものの、1月の運用開始に向け、現在事業者と調整中。	事業の拡大・継続	開設が年度末に近い時期となったため、当該年度においては、目標店舗数の登録とならなかった。	食でおもてなし・多言語メニュー作成支援事業費 (予算：15,487千円、決算：9,890千円)	-

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
31	民間との連携による食の魅力発信	大阪市、民間事業者	民間事業者等との連携により、大阪の食の魅力を活用した新たな大阪ならではの観光コンテンツを開発する。	観光魅力の向上	・株式会社ぐるなびとの包括連携協定に基づく協働事業の実施 ・食を活かした着地型観光コンテンツの実施	「インバウンド対策&健康・ヘルシーメニューセミナー」、市内小中学校における食育教室を実施。また、食を活かした着地型観光コンテンツのモデル事業として「あじわい大阪」を実施。	株式会社ぐるなびとの包括連携協定に基づく協働事業や、食を活かした着地型観光コンテンツの実施	事業の拡大・継続	株式会社ぐるなびとの包括連携協定に基づく協働事業や、食を活かした着地型観光コンテンツの実施により、大阪の食の魅力を発信できた。	-	食を活用した観光魅力開発事業（予算：3,000千円、決算：2,902千円）
32	天満・天神橋地域の魅力発信	大阪市	大阪天満宮・大阪くらしの今昔館・天満天神繁昌亭・天神橋筋商店街など、地域の都市魅力資源を活かし、天満・天神橋地域の魅力を広く発信する。	観光客の誘致強化	大阪くらしの今昔館入館者数：500千人	大阪くらしの今昔館入館者数：587千人	・天満・天神橋地域の特性を活かした様々なイベントを実施するとともに、大阪くらしの今昔館では、インバウンドの受入環境を整備するなど、観光客の誘致強化に向けておむね順調に進んでいる。	事業の拡大・継続	マスメディアや来館者を通じたソーシャルメディア等により、今昔館や周辺地域の魅力情報が国内外に向けて広く発信された。また、地域特性を活かした様々なイベント開催や、大阪の歴史文化をよりわかりやすく体感するための受入環境の充実などにより、観光客の誘致強化を図ることができた。	-	住まい情報センター事業のうち今昔館分経費（予算：63,746千円、決算：63,755千円）
33	観光魅力向上のための歴史・文化的まちなみ創出事業	大阪市	船場地区において、歴史的・文化的な建築資源周辺の無電柱化や周辺景観と調和した道路整備を実施するとともに、回遊性向上の取組み等を実施する。	観光魅力の向上	・芝川ビル周辺、大阪倶楽部周辺の2箇所の無電柱化や周辺景観と調和した道路整備 ・道修町通の1箇所の設計を実施 ・民間団体によるイベント等、周遊性を促す事業の実施を支援	・芝川ビル周辺、大阪倶楽部周辺の2箇所の工事が順調に進捗 ・道修町通の1箇所の詳細設計を実施 ・NPO法人主催のまち歩きイベントを、市として後援	・芝川ビル周辺、大阪倶楽部周辺の2箇所の無電柱化工事を実施 ・道修町通りの設計を実施 ・有識者会議を11月27日に実施	事業の拡大・継続	2箇所の無電柱化工事を進めるとともに、道修町通りの道路整備にかかる詳細設計を実施し、地元のみちづくり協議会と協働し、地域調整・検討を実施。また、回遊性向上の取組みとしてNPO法人主催のまち歩きイベントを後援し、概ね予定通り進捗できている。	-	観光魅力向上のための歴史・文化的まちなみ創出事業（予算：350,500千円、決算：227,971千円） 【参考】経済戦略局（予算：0千円、決算：0千円） 建設局（予算：350,500千円、決算：227,971千円）
34	恒常的なまちの魅力向上支援事業補助金	大阪府	大阪ミュージアムの取組みの一環として、住民参加によるまちの魅力向上とホスピタリティの向上に資することを目的に、地域が主体となった恒常的なまちの魅力向上及び景観形成の取組みを支援する。	住民参加によるまちの魅力向上・景観形成	補助事業実施団体数：2団体以上	補助事業実施団体数：3団体	概ね当初の予定どおりに進んでいる。	事業の拡大・継続	補助事業実施団体には、成果指標（数値目標）を設定させており、概ね目標は達成できている。また、補助対象物は、補助事業のほか当該団体の属する自治体や民間事業者等において実施される都市魅力向上の取組みなどにも、幅広く活用されている。	大阪ミュージアム推進事業（うちまちの魅力づくり支援）（予算：4,467千円、決算：4,440千円）	-
35	Wi-Fi設置の拡充	大阪府、大阪市、大阪観光局、民間事業者、市町村	大阪観光局において、Osaka Free Wi-Fiの整備を促進する。また、府においては、大阪観光局が設置を促進しているOsaka Free Wi-Fiについて、府内で外国人旅行者をはじめ、多数の旅行者を呼び込む意欲のある地域について、エリアを限定して集中的に整備を実施するため、補助金を交付する。	・まちの魅力向上 ・観光客の利便性・回遊性の向上	・2018年3月終了時 予算300拠点（府域内）	・2018年3月終了時 予算248拠点（府域内）	府の補助事業については、Osaka Free Wi-Fiの設置促進に係る補助制度を創設し、補助金の交付決定を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	Osaka Free Wi-Fiの拠点数は、2017年3月終了時から248拠点増加し、観光客の利便性の向上につながったが、目標のプラス300拠点には及ばなかった。今後、その要因把握とともに、現在の整備状況を精査しながら、次年度の整備目標を検討する。 府の補助事業については、Osaka Free Wi-Fiの設置促進に係る補助制度を創設し、Osaka Free Wi-Fiの整備にかかる補助金の交付を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	Osaka Free Wi-Fi設置促進事業（予算：126,688千円、決算：29,649,000円）	大阪観光局事業（予算：320,000千円、決算：320,000千円）の一部
36	公共交通機関等と連携した受入環境の整備	大阪府、民間事業者	乗継利便性の向上を図るため、乗継ぎ駅における案内モニターの設置や経路床面における表示等、旅行者の利便性向上に向けた環境整備を促進。	外国人利用者の利便性が向上し、来訪者が増加	目標補助実施箇所数 3 駅	補助実施箇所数 4 駅	鉄道事業者により、乗継利便性向上を図る案内モニターや床面案内表示等を整備中。	事業の拡大・継続	鉄道乗継駅4駅において、多言語による案内モニターや経路床面案内表示が完了し、国内外の観光客の乗継利便性向上が図られた。今後、観光客に対して、より一層の利便性向上を図るため、案内表示以外の改善メニューについて、鉄道事業者と協議を行いながら拡充する等、検討が必要。	公共交通機関等と連携した受入環境整備事業（予算：24,000千円）	-

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

										年度		2017	
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市		
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額			
37	観光公衆トイレの整備促進	大阪府、民間事業者、市町村	市町村が実施する観光公衆トイレの設置及び洋式化のための改修に係る経費について補助金を交付する。	・まちの魅力向上	・来阪外国人旅行者数 1,045万人 ・延べ宿泊者数：3,275万人	・来阪外国人旅行者数 1,110万人 ・延べ宿泊者数：3,321万人	市町村が実施する観光公衆トイレの設置及び洋式化のための改修に係る経費について、補助金を交付する補助制度を創設し、補助金の交付決定を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	市町村が実施する観光公衆トイレの設置及び洋式化のための改修に係る経費について、補助金を交付する補助制度を創設し、補助金の交付を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	市町村観光振興支援事業 (予算：80,000千円、決算：45,107千円)	-		
38	宿泊施設における「おもてなし」環境の整備事業	大阪府、民間事業者	府内の宿泊施設を対象に、施設内の案内表示等の多言語化やトイレの洋式化など、宿泊客の利便性や満足度の向上に繋がる取組みに対し支援を行うとともに、特区民泊施設については、認定促進につなげるため、消防設備の整備等についても支援を行う。	・宿泊客の利便性や満足度の向上	・来阪外国人旅行者数 1,045万人 ・延べ宿泊者数：3,275万人	・来阪外国人旅行者数 1,110万人 ・延べ宿泊者数：3,321万人	本事業については、9月に補助事業者に対する交付決定を実施しており、概ね予定どおり進んでいる。また、補助金の交付決定にあたっては、予定数以上の事業者に交付決定を行うことができた。	事業の拡大・継続	交付決定件数：97件（宿泊施設：29件、特区民泊施設62件、取下げ：6件）の実績があり、予定数以上の交付となった。	宿泊施設のおもてなし環境整備促進補助金 (予算：50,000千円)	-		
39	歩行者案内標識整備	大阪市	鉄道駅から主要集客施設までのルート上に歩行者案内標識を整備するとともに、集客施設内の案内看板など関係先と調整して案内施設を整備することで回遊性の向上を図る。	来街者の回遊性・利便性の向上	歩行者案内標識の整備に関する事業計画の策定	歩行者案内標識の整備に関する事業計画の策定	大阪城周辺地区における歩行者案内標識整備が2017年5月末に完了。事業計画の策定に向け検討及び関係者との調整を実施中。	事業の拡大・継続	事業計画を策定したことから、歩行者案内標識整備に向けておおむね計画どおり事業進捗している。なお、天王寺阿倍野地区等の一部地域は、地域特性を考慮した回遊性向上を図ることが必要。	-	交通安全施設等整備（歩行者案内標識） (予算：8,000千円、決算：17,330千円)		
40	「トラベルサービスセンター大阪」の運営	大阪府、大阪観光局、民間事業者	来阪旅行者の多様化するニーズに応えるため、民間が実施するサービスと連携し、観光案内のみならず旅行時のトラブルにも対応するなど、旅行者の利便性向上と安心・安全をワンストップで提供する「トラベルサービスセンター大阪（愛称：おもてなしステーション）」をJR大阪駅構内において運営。	・観光客の利便性や満足度の向上、府内各地への誘客 ・リピーターの確保	・「トラベルサービスセンター大阪」の円滑な運営	来所数（2月時点） 2016：161,343人 2017：289,754人	2017年3月開設（運営継続）	事業の拡大・継続	来所数が前年比79%増となるなど、観光客の利便性に資することとなった。	トラベルサービスセンター大阪運営事業 (予算：36,027千円、決算：31,991千円)	-		
41	観光案内所の運営	大阪府・大阪市・大阪観光局・民間事業者・市町村	大阪観光局において、観光案内所（大阪観光案内所・難波観光案内所）の運営を行うとともに、府内の観光案内所のネットワーク化に向けた検討を行う。	観光案内機能の充実	大阪観光案内所及び難波観光案内所の機能充実による来所件数の増加	来所件数（大阪及び難波観光案内所の合計） 2016：1,010,017件 2017：1,128,690件	大阪案内所については、2017年3月に「トラベルサービスセンター大阪」として移転拡張を行い、運営している。難波案内所については、難波駅周辺の空間開発に合わせた方向性を検討するため、11月に大阪観光局及び鉄道事業者との意見交換を実施した。	事業の拡大・継続	2017年3月に大阪観光案内所の移転拡張、営業時間の延長により来所者が増加し、観光客の利便性の向上につながっている。引き続き、難波案内所のスペース確保を含めたあり方の検討が必要である。	大阪観光局運営事業（予算：179,883千円、決算：180,000千円） 大阪観光局運営事業（大阪版DMO） (予算：140,000千円、決算：140,000千円) トラベルサービスセンター大阪運営事業（予算：36,027千円、決算：31,991千円）	大阪観光局事業（予算：320,000千円）の一部		
42	観光客への情報提供機能の充実	大阪府	日本人旅行者を含む多くの来阪旅行者に、自国語若しくは使用言語による観光マップを見ていただくことで、大阪の「おもてなし」精神を伝えるとともに、大阪府内全域をスムーズかつ安心して移動してもらうため、多言語マップを作成・配布する。	・観光客の利便性や満足度の向上、府内各地への誘客 ・リピーターの確保	・多言語マップの発行	大阪観光局において、多言語観光マップを作成、案内所等に配布。	多言語観光マップにつき、大阪観光局と作成に関する協定を締結（6月）。 ・対応言語数：6言語（7種類）	事業の拡大・継続	6言語の多言語観光マップ作成、府内26案内所配布などにより、観光客の利便性向上に資することとなった。今後は大阪観光局事業として継続実施。	多言語観光マップ作成事業 (予算：41,523千円、決算：19,606千円)	-		

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額	
43	観光案内板等の整備促進	大阪府、市町村、民間事業者	市町村が実施する多言語による観光案内板の設置・改修に係る経費について補助金を交付する。	・まちの魅力向上	・来阪外国人旅行者数 <b>1,045万人</b> ・延べ宿泊者数： <b>3,275万人</b>	・来阪外国人旅行者数 <b>1,110万人</b> ・延べ宿泊者数： <b>3,321万人</b>	市町村が実施する多言語による観光案内板の設置改修に係る経費について、補助金を交付する補助制度を創設し、補助金の交付決定を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	市町村が実施する多言語による観光案内板の設置改修に係る経費について、補助金を交付する補助制度を創設し、補助金の交付を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	市町村観光振興支援事業 (予算：80,000千円、決算：45,107千円)	-
44	観光案内板等の掲載情報の更新等	大阪市	外国人観光客にとって需要のある場所に設置した観光案内板を、より分かりやすく、利便性の高いものと更新し、観光情報の提供や周辺案内の充実を図る。	観光客の回遊性・利便性の向上	観光案内表示板の地図等掲載情報を適宜更新	地下鉄駅に設置していた案内板の撤去箇所(2箇所)の原状復帰・補修工事の完了	地下鉄駅に設置していた案内板の撤去箇所(2箇所)について、年度末の完了に向けて、年内に工事発注予定。	事業の拡大・継続	地下鉄駅に設置していた案内板の撤去箇所(2箇所)の原状復帰・補修工事の完了した。	-	観光案内表示板の整備事業 (予算：3,044千円、決算：103千円)
45	観光ボランティアの育成	大阪府、民間事業者	市町村が実施する観光ボランティアの育成事業(研修等)に係る経費について補助金を交付する。	・まちの魅力向上	・来阪外国人旅行者数 <b>1,045万人</b> ・延べ宿泊者数： <b>3,275万人</b>	・来阪外国人旅行者数 <b>1,110万人</b> ・延べ宿泊者数： <b>3,321万人</b>	市町村が実施する観光ボランティアの育成に係る経費について、補助金を交付する補助制度を創設し、補助金の交付決定を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	市町村が実施する観光ボランティアの育成に係る経費について、補助金を交付する補助制度を創設し、補助金の交付を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	市町村観光振興支援事業 (予算：80,000千円、決算：45,107千円)	-
46	観光ボランティアガイドとの連携	大阪市	大阪観光局及び大阪観光ボランティアガイド協会との連携により、大阪城公園内での観光案内を行い、大阪のホスピタリティの醸成を図る。	ガイド利用の促進	大阪城内外ガイド利用人数 前年度比同数以上 (2016年度：155,154人)	2017年度：184,158人	大阪観光ボランティアガイド協会による、通常ガイド・イベントガイドの継続実施のほか、歴史街道推進協議会との連携による定点ガイド案内を実施(10月1日～11月5日)。	事業の拡大・継続	まち歩きガイド、公開講座などによりガイド利用人数が前年度比約20%増加した。	-	大阪城エリア観光拠点化事業 (大阪城公園内特設案内所における観光案内業務の分担金) (予算：2,200千円、決算：2,200千円)
47	多言語対応の強化	大阪府、民間事業者、大阪観光局	府内の宿泊施設等を対象に、施設内の案内表示等の多言語化などの取組みを支援するとともに、府内の飲食店が利用できる多言語メニュー作成支援システムを構築し、多言語メニュー設置店を増やすことで外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える。	・外国人旅行者の利便性や満足度の向上	・来阪外国人旅行者数 <b>1,045万人</b> ・延べ宿泊者数： <b>3,275万人</b> ・府内の飲食店のシステム登録数： <b>2,500件</b> (府内の飲食店の5%以上)	・来阪外国人旅行者数 <b>1,110万人</b> ・延べ宿泊者数： <b>3,321万人</b>	宿泊施設に対する補助制度については、交付決定を行うなど、概ね予定どおり進捗。多言語メニューのシステム構築については、当初スケジュールよりは若干遅れているものの、1月の運用開始に向け、現在事業者と調整中。(⇒観光施設等の国際化支援事業については、宿泊税の税収動向を踏まえ、実施について検討していく。)	事業の拡大・継続	宿泊施設等への補助については、交付決定総数が97件(宿泊施設：29件、特区民泊施設62件、取下げ：6件)となり、予定数以上の交付となった。	宿泊施設のおもてなし環境整備促進補助金 (予算：50,000千円) 食でおもてなし・多言語メニュー作成支援事業費 (予算：15,487千円、決算：9,890千円)	-
48	観光バス乗降場環境整備	大阪市	観光バスを利用して中央区ミナミエリアを訪れる国内外からの観光客が、ミナミアリアを円滑に周遊できるよう、日本橋観光バス乗降スペース付近に観光案内表示を設置し、案内を充実する。 また、観光客の滞留スペースや安全・安心を確保するため、日本橋において歩道拡幅を行う。	観光客の利便性・安全性の向上	日本橋乗降場付近に観光案内板を設置(2017年度末)	日本橋乗降場付近に観光案内板を設置(2018年3月)	日本橋歩道拡幅工事について、計画通り工事契約決定し、今年度末に工事完了予定。案内表示については、公募により業者を決定し、今年度末に設置予定。	事業の拡大・継続	歩道拡幅工事については、関係機関との調整に時間を要したため、2018年8月末に完了予定となっている。 日本橋歩道拡幅にあわせ、観光案内板を設置した。観光案内表示には、タッチ式モニタを活用した多言語対応の地図や観光情報の発信だけでなく、Osaka Free Wi-Fiの設置や防災情報等緊急情報が表示される仕組みも備えている。	-	外国人等観光客受入環境整備事業 ・経済戦略局：観光案内表示設置費(予算：6,462千円、決算：6,382千円) ・建設局：日本橋歩道拡幅工事費(予算：80,000千円、決算：41,290千円、繰越額：28,064千円)

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

								年度		2017	
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額	
49	外国人旅行者の災害時における安全確保	大阪府・市町村・民間事業者	外国人旅行者が災害発生時に必要な情報を入手できる環境の整備及び行政、観光施設・宿泊施設等、関係者の役割分担によるサポート体制の構築	災害情報を入力しやすい仕組みづくりとともに、災害時の円滑な支援体制を構築し、外国人旅行者が安心して旅行できる環境づくりをめざす	「外国人旅行者安全確保マニュアル（仮称）」の作成	「外国人旅行者の安全確保・帰国支援に関するガイドライン」の策定	観光事業者向けの支援マニュアルの作成等の業務を行う民間事業者を公募型プロポーザル方式で選定、8月に契約を締結した。ポータルサイトに国土交通省の防災情報サイトを掲載するための作業を進めるとともに、広報強化のためのグッズを製作し、今年度中に観光案内所等に設置する予定としている。	事業の見直し・精査	大阪市内の観光関連事業者等が参画するワークショップを開催し、その意見を踏まえ、「府内観光関連事業者向け 災害時における外国人旅行者 支援フロー（案）」を更新するとともに、その内容を宿泊施設、観光施設の事業者向けに分かりやすく整理した「外国人旅行者の安全確保・帰国支援に関するガイドライン」を策定した。ポータルサイトに国土交通省の防災情報サイト及び大阪観光局が実施するOSAKA Call Centerを掲載するとともに、広報カードの配布促進のためのカードケースを作成し、府内観光案内所等へ配布した。	外国人旅行者安全確保事業 (予算：4,546千円、決算：3,956千円)	-
50	文化・観光、商業施設等の開館・営業時間の延長	大阪府・民間事業者	国内外からの観光客の要望の多いナイトカルチャーを発掘・創出するため、主にインパウンドの観光客を対象とした夜間公演等のナイトカルチャー事業に取り組む事業者に対し、事業の立ち上げ等に必要経費を補助する。	夜間公演等の充実支援等を通じて、国内外からの旅行者の要望の多いナイトカルチャーを発掘・創出する。	夜間公演等を実施する事業者に対する補助制度を創設	「ナイトカルチャー発掘・創出事業補助金」を創設し、7事業に対し交付決定	「ナイトカルチャーの発掘・創出にかかる検討会」の意見を踏まえ、「ナイトカルチャー発掘・創出事業補助金交付要綱」を策定し、補助の交付決定を行った。	事業の拡大・継続	夜間公演等に積極的に取り組む事業者に対し、事業の立ち上げ等に必要経費を支援することで、国内外からの旅行者の要望の多いナイトカルチャーの発掘・創出を促進した。	ナイトカルチャー発掘・創出事業 (予算：31,000千円、決算：29,891千円)	-
51	イベント・公演等の開演時間の繰り下げ	民間事業者	国内外からの観光客の要望の多いナイトカルチャーを発掘・創出するため、主にインパウンドの観光客を対象とした夜間公演等のナイトカルチャー事業に取り組む事業者に対し、事業の立ち上げ等に必要経費を補助する。	夜間公演等の充実支援等を通じて、国内外からの旅行者の要望の多いナイトカルチャーを発掘・創出する。	夜間公演等を実施する事業者に対する補助制度を創設	「ナイトカルチャー発掘・創出事業補助金」を創設し、7事業に対し交付決定	「ナイトカルチャーの発掘・創出にかかる検討会」の意見を踏まえ、「ナイトカルチャー発掘・創出事業補助金交付要綱」を策定し、補助の交付決定を行った。	事業の拡大・継続	夜間公演等に積極的に取り組む事業者に対し、事業の立ち上げ等に必要経費を支援することで、国内外からの旅行者の要望の多いナイトカルチャーの発掘・創出を促進した。	ナイトカルチャー発掘・創出事業 (予算：31,000千円、決算：29,891千円)	-
52	ランドマークのライトアップの時間延長・創出	大阪府、民間事業者	ランドマークのライトアップの時間延長・創出による夜間のまち歩きやナイトクルージングの魅力向上のため、ランドマークのライトアップの現状把握に努め、民主導の取組みを推進する。	ランドマークのライトアップの時間延長・創出による夜間のまち歩きやナイトクルージングの魅力向上	ランドマークのライトアップの時間延長・創出	ランドマークのライトアップの時間延長・創出について検討を行った。	民間ビルのライトアップ時間の現状把握について光のまちづくり推進委員会で要請（6月）、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	光のまちづくり推進委員会において、総括小委員会並びにガイドライン部会、プロモーション部会による推進体制が構築され、ランドマークの定義の整理とエリアにおけるランドマークの抽出について検討を行った。ランドマークのライトアップの時間延長・創出による夜間のまち歩きやナイトクルージングの魅力向上に向け、引き続き検討を実施する。	-	-
53	MICE誘致の推進	大阪府・大阪市・大阪観光局・経済団体・民間事業者	官民が一体となって、ターゲット等を明確にした方針に基づき戦略的にMICE誘致を展開するとともに、大阪におけるMICE受入体制の充実を図る。	誘客促進	国際会議開催件数等の目標について検討中	G20サミット首脳会議（H31.6.28～29） ツーリズムEXPO2019（H31.10.24～27）の開催決定	5月に大阪MICE推進委員会を立ち上げ、第1回会議を開催するなど、府・市・経済団体と連携した取組みを進めており、「ツーリズムEXPO2019」の大阪開催を実現した。また、グローバルMICE都市・都市力強化対策本部（事務局：観光庁）への参加（11月）など、国、他都市の取組状況など情報収集を行い、大阪への戦略的MICE誘致につなげる。	事業の拡大・継続	府・市・経済団体と連携し大阪MICE推進委員会を立ち上げ（5月）、同委員会を2回開催（5、12月）。MICE誘致に向けて誘致ターゲットの作成やクラスターの連携強化策等について協議を行った。	大阪観光局運営事業 (予算：180,000千円、決算：180,000千円) 大阪観光局運営事業（大阪版DMO） (予算：140,000千円、決算：140,000千円)の一部	大阪観光局事業（予算：320,000千円、決算：-千円）の一部

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
54	大阪観光局運営事業（大阪版DMO推進事業）	公益財団法人大阪観光局（大阪版DMO）	大阪観光局において、観光のプロ組織による観光振興事業を展開し、新たな観光関連産業の振興や地域の活性化、交流を通じたにぎわいづくりに取り組むとともに、大阪観光局を「大阪版DMO」とし、戦略的なマーケティング、情報ネットワークや観光案内機能のワンストップ化、効果的なプロモーションや地域と連携したMICE誘致などの事業に取り組み、大阪への来訪者・宿泊者数を増加させ経済効果の向上を図る。	誘客促進	大阪版DMO戦略に沿ったDMO事業の試行実施	大阪版DMO戦略に沿ったDMO事業の施行実施	国地方創生交付金を活用し、関西国際空港において、来阪外国人旅行者に対するマーケティングリサーチを実施するとともに、Wi-FiのGPSログやSNSの投稿内容を活用した夜間動向調査を実施し、こうした調査結果を公表した。	事業の拡大・継続	大阪観光局が「日本版DMO法人」として登録（2017年11月）されるとともに、国の地方創生推進交付金を活用し、マーケティング強化や24時間多言語コールセンターの開設による案内機能の充実、それぞれの市場旅行情報・形態などに基づいた戦略的なプロモーション活動を行うなど観光客の誘致を推進した。また、マーケティング戦略に基づき、新市場へのプロモーションや「食」「スポーツ」などの新規観光コンテンツを展開するなど、大阪版DMO戦略の本格実施に向けた取組みを推進した。	大阪観光局運営事業（予算：180,000千円、決算：180,000千円） 大阪観光局運営事業（大阪版DMO）（予算：140,000千円、決算：140,000千円）	大阪観光局事業（予算：320,000千円、決算：320,000千円）
55	都市魅力をみんなで支えるネットワークづくり	大阪府、経済団体、民間事業者	文化及び都市魅力創造をみんなで支える仕組みとして、行政、経済界、在阪メディア及び文化・都市魅力創造関係団体が連携し、観光、文化、スポーツ、国際化など様々な都市魅力活動を支えるネットワークづくりの取り組みを行う。	都市魅力活動を支えるネットワークづくり	府城市町村及び関係団体との情報共有・意見交換の場として、おおさか都市魅力・観光ネットワーク会議総会を開催（平成29年度開催実績1回）	おおさか都市魅力・観光ネットワーク会議総会の開催（平成29年度開催実績1回）	府城市町村及び関係団体との情報共有・意見交換の場として、おおさか都市魅力・観光ネットワーク会議総会を開催した（平成29年度開催実績1回）。	事業の拡大・継続	府城市町村及び関係団体との情報共有・意見交換の場として、おおさか都市魅力・観光ネットワーク会議総会を開催した（平成29年度開催実績1回）。	-	-
56	大阪市版TID（Tourism Improvement District）モデル創出事業	大阪府	地域が自らの資金を原資として観光地域まちづくりに取り組む仕組みである「大阪市版TID（Tourism Improvement District）」の構築に向け、モデル創出に向けた事前調査を実施することにより、翌年度以降のモデル事業実施につなげ、将来的に、地域内の滞在者数・宿泊者数の増加及びそれに伴う地域内経済の活性化をめざす。	地域内の滞在者数・宿泊者数の増加及びそれに伴う地域内経済の活性化	事前調査の実施	事前調査を実施し、とりまとめを行った。	・大阪市版TID制度検討会を8月に立ち上げ、2回の検討会を開催し、モデルシミュレーション案を各種検討するとともに、米国の海外事例調査を実施している。おおむね計画通りに進捗している。	事業の拡大・継続	・大阪市版TID制度検討会を8月に立ち上げ、4回の検討会を開催し、米国の海外事例調査を踏まえ、大阪市版TIDのパターンを整理し、当初計画していたとおりモデルシミュレーション案を取りまとめた。	-	大阪市版TID（Tourism Improvement District）モデル創出事業（予算：7,000千円、決算：6,882千円）
57	国内外への戦略的なプロモーションの展開	大阪府・大阪市・大阪観光局	大阪観光局において、マーケティングに基づき、観光客や市場ごとのターゲットに応じた効果的なプロモーション活動を展開し、国内外からの誘客の促進を図る。	誘客促進	来阪外国人旅行者数：1,045万人（2017年）	来阪外国人旅行者数：1,110万人（2017年）	DMO事業戦略に基づき、ターゲット国（16カ国）に対して、現地旅行博への参加やSNSを活用した観光プロモーションを実施した。また、今後は動画を活用したより効果的なプロモーションを行うため、マーケティングに基づく国別のプロモーション動画（13種類）の製作を行っている。	事業の拡大・継続	海外プロモーションについては、DMO戦略に沿って、成長・新興市場である東南アジアへのプロモーションを実施するとともに、欧米豪及びインドなどの経済成長が見込まれる地域について、デジタルマーケティングを活用して、「OSAKA」のブランド化を図った。国内プロモーションについては、鉄道事業者との連携やドラマにおけるタイアップなど、大阪の活性化に向けたプロモーションを実施した。	大阪観光局運営事業（予算：180,000千円、決算：180,000千円） 大阪観光局運営事業（大阪版DMO）（予算：140,000千円、決算：140,000千円）の一部	大阪観光局事業（予算：320,000千円、決算：320,000千円）の一部
58	各種プロモーションツールを活用した大阪の情報発信の強化	大阪府・大阪市・大阪観光局	大阪観光局において、インターネットやSNS、ガイドブックやマップなどの各種プロモーションツールを活用し、多言語による効果的な情報発信を展開する。	誘客促進	来阪外国人旅行者数：1,045万人（2017年）	来阪外国人旅行者数：1,110万人（2017年）	観光情報サイト「OSAKA INFO」については、来年1月のリニューアルに向け作業を行っているところ。また、SNSによる情報発信については、累計フォロー数が582,371人（10月末）となっており、今後は動画を活用したより効果的な情報発信を行うため、マーケティングに基づく国別のプロモーション動画（13種類）の製作を行っている。	事業の拡大・継続	観光情報サイト「OSAKA INFO」のリニューアルや、SNSを活用した6言語による大阪の観光情報の発信を行うなど、より効果的な情報発信に取り組んだ。	大阪観光局運営事業（予算：180,000千円、決算：-千円） 大阪観光局運営事業（大阪版DMO）（予算：140,000千円、決算：-千円）の一部	大阪観光局事業（予算：320,000千円、決算：320,000千円）の一部

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

										年度	2017
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
59	大阪ミュージアムの推進	大阪府、市町村	大阪府全体を屋根のないミュージアムに見立て、魅力あるまちなみや自然、祭りやイベントなどを「展示品」や「館内催し」として登録し、その魅力を磨き、際立たせ、内外に発信し、府域への集客促進を図る。	①ホームページ等での情報発信、コンテンツの充実 ②府域での周遊・集客の促進 ③住民参加によるまちなみの魅力向上・景観形成 (No.34再掲)	①ホームページのアクセス件数：月2万件以上 ②参加者満足度：90%以上 (No.63再掲) ③補助事業実施団体数：2団体以上 (No.34再掲)	①ホームページのアクセス件数：月21,182件 (平均) ②参加者満足度：91% (No.63再掲) ③補助事業実施団体数：3団体 (No.34再掲)	概ね当初の計画通りに進んでいる。	事業の拡大・継続	①季節のイベント情報を充実させるなどの工夫を行ったことにより、目標値を上回った。 ②周遊キャンペーン参加者の91%が、イベント内容について「良かった」「まあまあ良かった」と回答し、当初の目標を達成できた。また、本事業では3,000人の集客を目指しているが、キャンペーンの参加者は延べ6,800人を超え、目標を大幅に上回った。(No.63再掲) ③補助事業実施団体には、成果指標(数値目標)を設定させており、概ね目標は達成できている。また、補助対象物は、補助事業のほか当該団体の属する自治体や民間事業者等において実施される都市魅力向上の取組み等にも、幅広く活用されている。(No.34再掲)	大阪ミュージアム推進事業 予算：32,379千円 決算：29,436千円 ※No.34とNo.63を含む。	-
60	大阪都市景観建築賞(大阪まちなみ賞)	大阪府、大阪市	<目的>美しく、個性と風格のあるまちなみの景観づくりを進めていくために、府民、市民等から周辺景観の向上に質し、かつ、景観上優れた建物や建物を中心としたまちなみを募集し、表彰することで地域資源を生かした大阪の魅力発信及び府民の景観に対する意識向上を図る。(設計者による自薦応募も可) <運営>大阪府・大阪市・(公社)大阪府建築士会・(一社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部・(一社)日本建築協会の共催で行い、運営資金は建築関係団体及び屋外広告物業団体等による協賛による。	・景観に対する意識向上 ・美しく、個性と風格のあるまちなみの景観づくりの魅力向上	景観に対する意識向上を図るため、府民や市民による推薦応募を促進し、賞の周知を図る。	府民や市民による推薦物件から、景観上優れた建物や建物を中心としたまちなみを10件選定し、表彰した。 推薦者総数 153名、推薦物件件数 88件、審査対象物件数 60件、表彰作品 10件 (受賞作品内訳)大阪府知事賞：ダイキン工業テクノロジ・イノベーションセンター、大阪市長賞：新ダイビルのほか8件(審査員特別賞、緑化賞、建築サインアート賞、奨励賞)。	推薦募集に対して広く大阪府下の建物・まちなみに対する推薦があった。新築・大規模な建物だけでなく、リニューアルや小規模な建物などに対しても推薦があり、府民、市民の幅広い関心が感じられる。	事業の拡大・継続	周辺環境の向上に質し、かつ、景観上優れた建物や建物を中心とするまちなみを表彰すること、個性と風格のある都市景観の形成に寄与するとともに、府民、市民等の都市景観に対する意識の高揚を図ることができた。	予算事業なし	予算事業なし
61	フィルムカウンシル事業の充実	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	大阪観光局において、大阪への映画・ドラマ等のロケーションを誘致するとともに、ロケ地紹介やボランティアエキストラを募集する等、各種撮影支援を行う。	大阪の知名度向上	ロケ誘致・支援数目標：147件(2017年度)	ロケ誘致・支援数実績：160件(2017年度)	10月末現在で、71件の映画・TV番組等のロケーション支援を実施するとともに、10月には、映洲庁舎において、府内で撮影を行った映画の公開に合わせたタイアップキャンペーンを実施した。	事業の拡大・継続	160件の映画・TV番組等のロケーション支援や府内で撮影を行った映画の公開に合わせたイベントを実施し、ロケ地としての大阪の魅力を発信した。引き続き、撮影支援に取り組むとともに、関係する自治体や企業などの職員を対象とした撮影支援に関する勉強会等の実施も検討していく。	大阪観光局運営事業(予算：180,000千円、決算：180,000千円) 大阪観光局運営事業(大阪版DMO)(予算：140,000千円、決算：140,000千円)の一部	大阪観光局事業(予算：320,000千円、決算：320,000千円)の一部
62	観光バス駐車場の確保・充実	大阪市	観光バスの利用が多いミナミエリアへアクセスしやすい場所に観光バス駐車場を設け、外国人観光客の急増に伴う受入環境の整備を図る。	外国人観光客の受入環境の整備	観光バス駐車場として確保した交通局所管の幸町用地において、民間事業者による観光バス駐車場運営を行い、10台分の駐車場を確保する。	交通局所管の幸町用地において、民間事業者による観光バス駐車場運営を行い、10台分の駐車場を確保した。	交通局所管の幸町用地について、当初契約が満了後も、新たな民間事業者を選定のうえ運営を継続。	事業の拡大・継続	交通局所管の幸町用地について、当初契約の満了に伴い、公募により新たな民間事業者を選定し、平成29年10月以降も継続して駐車場運営を行った。引き続き、今後の観光バス駐車場需要の変動などを見極めつつ、迅速かつ的確に対応していく。	-	外国人等観光客受入環境整備事業(予算：11,016千円、決算：14,321千円)



大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額	
63	魅力資源の結びつけによる府内各地の周遊性向上事業	大阪府	大阪ミュージアム登録物を活用して、地域魅力を府内外に発信するとともに、府域への集客・周遊を促す事業を展開する「地域魅力発信事業」を実施。	府域での集客・周遊の促進	参加者満足度（良かった、非常に良かった）： 90%以上	参加者満足度（良かった、非常に良かった）： 91%	大阪ミュージアム登録物を巡る冊子「大阪ミュージアム」とつとておき「OSAKA周遊ガイド」を作成（関西圏で157万部配布される読売ファミリーに折込掲載）するとともに、冊子を活用した集客及び回遊を促す事業を実施しており、概ね当初の予定どおり進んでいる。	事業の拡大・継続	周遊キャンペーン参加者の91%が、イベント内容について「良かった」「まあまあ良かった」と回答し、当初の目標を達成できた。	大阪ミュージアム推進事業（うち 地域魅力の発信） （予算：6,977千円、決算：6,965千円）	-
64	世界に発信する「大阪文化の祭典」	大阪府、大阪市、経済団体等	大阪の都市魅力を創造し、文化を核とした大阪発展のムーブメントを起こすため、平成29年度に初開催。府内のホール・劇場や公園に、上方伝統芸能、上方演芸等の国内外のコンテンツを一堂に集め、合わせて実施することで、文化を楽しむ機会を創出するとともに、府内全域に多くの観光客を呼び込む。 大阪が持つ多彩で豊かな文化の魅力を積極的に発信するほか、国内外から注目されるコンテンツを呼び込むなど、国際エンターテインメント都市の実現を目指すとともに、大阪の都市格の向上を図り、2025年大阪万博につなげていく。	大阪の魅力を発信、誘客促進	鑑賞者満足度：80%	主催プログラム：14件・22公演、共催プログラム：8件・28公演 報道実績：556件（新聞、テレビ、ラジオ、Web等） 「イベントを総合的にみて『非常に良かった』『良かった』の割合：77%	経済界等と実行委員会を設置するとともに、在阪放送局9社と連携し、オール大阪の体制を構築して取組むことができた。	事業の拡大・継続	初回となった今年度の実績を踏まえ、来年度に向け、会場数の拡大やコンテンツの充実・強化等、更なる取り組みを進めていく。	大阪文化フェスティバル事業 （最終予算：80,405千円・決算：80,337千円）	-
65	アートの魅力創出・発信	大阪府	公共の空間や施設内において、都市魅力を向上させ、観光集客につながるようなアート作品を設置することにより、大阪に新たな名所（アートの創出を目指す。	大阪の魅力を発信、誘客促進	調査報告書を取りまとめ、2018年度からの事業実施を目指す	委託事業者の調査結果を踏まえた事業計画の策定	アートの背景や行政における取組み、大阪府がアートを設置するにあたっての考え方を事業計画として整理した。	事業の拡大・継続	設置場所は、万博記念公園を候補地とし、設置に当たっては、1970年万博の開催50周年に合わせて検討する。 今後、関係部署との調整を進めながら、作品選定の準備を進めていく。	アートの魅力創出発信事業 （最終予算：5,000千円・決算：4,650千円）	-
66	留学生への大阪文化の魅力発信	大阪府	留学生や海外からの旅行者に大阪文化の魅力を伝えていくためのプログラムを企画し、提供する。	留学生や海外からの旅行者の大阪文化に対する理解の促進	既存の文化事業の中でプログラムを企画し、提供しながら、次のステップに向けて検討を行う	留学生や海外からの旅行者に対する大阪文化に対する理解の促進につながった。	大阪文化再発見事業において、外国人も対象とした「英語落語」を開催した。	事業の拡大・継続	今年度実施事業の検証を行うとともに、引き続き、既存の文化事業の中でプログラム提供できるよう、取り組みを進めていく。	予算事業なし	-

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

										年度		2017	
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府		(参考)大阪市	
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額		
67	美術館・博物館の魅力向上(一部再掲)	大阪市	市立美術館、東洋陶磁美術館、歴史博物館、自然史博物館、科学館において、博物館の魅力向上に向けた展示環境の改善など、計画的な施設の改修整備の取り組みを進める。市立美術館他4館において、『大阪市ミュージアムビジョン』に掲げる、①大阪の知を拓く、②大阪を元気にする、③学びと活動の拠点へを目標に、「都市のコアとしてのミュージアム」を実現することを通じて、都市魅力の向上と新たな文化・人材の創出に貢献する。(No.20「大阪市立美術館の魅力向上」を含む)あわせて、ビジョンの実現に最適な経営形態として地方独立行政法人設立(2019年4月予定)をめざし、その制度設計を行う。	・ミュージアムビジョンに定める戦略やアクションプランの実現による博物館魅力の向上。 ・2019年度からの、対象施設の地方独立行政法人による運営の確実な実現。	・所蔵作品の計画的な修復や展示環境の改善・魅力的な展示の実現を行う。 ・ビジョンの「戦略的な広報を展開する」ため、外部資金による外国人向け情報発信を強化。 ・アクションプランの地方独立行政法人中期計画への反映と、定款及び評価委員会条例の制定。	・定款及び評価委員会条例の制定(平成30年2月)	・文化庁補助金を活用し、多言語化等による外国人利用者への情報発信の強化を図るため、2017年4月に実行委員会を立ち上げ、年度末の完了に向け計画的に進めている。 ・計画的な所蔵作品の修復を進め、鑑賞機会の増加や展示品の充実に取り組んでいる。《再掲》 ・2019年4月1日の地方独立行政法人設立に向け、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	・文化庁補助金を活用し、多言語化等による外国人利用者への情報発信の強化を図るため、2017年4月に実行委員会を立ち上げ、年度末で取り組みが完了。 ・計画的な所蔵作品の修復を進め、鑑賞機会の増加や展示品の充実に取り組んでいる。《再掲》 ・2019年4月1日の地方独立行政法人設立に向け、おおむね計画どおり事業進捗している。(定款及び評価委員会条例の制定)	-	(参考)大阪府 予算事業名・予決額	(参考)大阪市 予算事業名・予決額	
68	文化魅力の情報発信	大阪府、大阪市、経済団体等	「大阪ならではの」リーディング事業の実施等を通じて、大阪文化の魅力発信していく。	大阪文化を発信	大阪文化フェスティバルにおける鑑賞者満足度：80% 「再掲」	【再掲】 主催プログラム：14件・22公演、共催プログラム：8件・28公演 報道実績：556件(新聞、テレビ、ラジオ、Web等) 「イベントを総合的にみて『非常に良かった』『良かった』の割合：77%	「大阪文化芸術フェス2017」において、大阪文化の魅力発信した。	事業の拡大・継続	「大阪文化芸術フェス2017」において、大阪文化の魅力発信した。	大阪文化フェスティバル事業の中で実施(最終予算：80,405千円・決算：80,337千円)	-		
69	大阪らしい芸術文化の魅力の創出	大阪市	国が主導する文化プログラムの動きを踏まえた取組みとして、大阪の文化資源である伝統芸能を観光資源として活用するためのコンテンツ創造、並びに地域の魅力を発信する事業を実施する。	大阪文化の活性化等をめざすとともに、大阪市内へのビジター増による大阪の経済の成長を促す	モデル事業への来場者数500人/年(当初：1,000人/年から事業の再構築による目標数値の変更)	ビジター向けのミニ公演(検証事業)への来場者数：536名 来場者アンケートでまた観に行きたいと答えた人の割合：80%超	今年度は、将来的な旅行事業者による“大阪ならではの”伝統芸能コンテンツを核とした旅行商品の開発のためのモデル公演の実施(3回)および有識者会議の開催を行うこととなり、概ね事業の進捗は図られている。	事業の拡大・継続	事業費の減少により事業の再構築を行ったため目標の達成度は50%となった。しかしながらアーツカウンシルの意見をもとに対象者を当初計画の一般の観光客から旅行事業者や宿泊事業者などの関係者に変更したことにより目標到達できなかったものの今後の観光コンテンツとして成熟させるための意見をはじめとした課題等を充分拾い集めることができ実証実験としての成果を得た。	-		伝統芸能を活用した大阪の魅力開発促進事業(予算：7,170千円)	
70	アーツカウンシルの機能強化	大阪府、大阪市	大阪の文化力の向上につながるため、アーツカウンシルの運営体制強化を図り、府市文化事業を評価・審査するとともに、企画や調査機能を高め、アーティスト等へのサポート、府内での文化プログラムの推進や効果検証等に取り組む。	大阪文化にふさわしい文化施策の推進	アーツカウンシルの機能強化に向けたあり方を取りまとめ	大阪府市文化振興会議において、「大阪アーツカウンシルのあり方について」を取りまとめ(平成29年11月)	大阪府市文化振興会議において、ワーキング部会を設置し、アーツカウンシルのあり方について検討を行い、11月開催の本審議会で取りまとめた。	事業の拡大・継続	「大阪アーツカウンシルのあり方について」に基づき、府市の文化事業や補助事業について評価・審査を実施した。また、平成30年3月末で任期満了となる統括責任者の公募・選考を行った。	大阪アーツカウンシル運営等事業(予算：11,755千円)(決算：8,641千円)	大阪アーツカウンシル等による文化行政の推進(予算：7,063千円、決算：5,287千円)		

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
71	若手アーティストらの発表機会の提供	大阪府、民間事業者	芸術文化の担い手を発掘育成するため、若手プロデューサー等のネットワークの構築や、作品発表の機会の拡大を目指す。	芸術文化の担い手の育成・支援	芸術文化の担い手を支援するための取組について、引き続き検討を行う。	鑑賞プログラム延参加者数：2,190人、育成プログラム延参加者数：433人 参加事業者数（若手プロデューサー）：6者 メディア掲載件数：62件	芸術文化魅力育成プロジェクトを通じて多くの若手プロデューサー等が参加できる育成プログラムを実施し、若手プロデューサーの育成につなげている。	事業の拡大・継続	プロデューサー等が自由に参加できる芸術文化魅力育成プロジェクトの「育成プログラム」を5プログラム実施し、トークセッションなどを通じて若手プロデューサーの育成につなげることができた。	-	-
72	芸術文化を将来へ継承させる青少年の育成	大阪市	大阪市における各区の特性に応じた質の高い芸術文化メニューを青少年対象に実施することを通じて、中長期的に芸術文化にかかる青少年育成が定着することをめざす。	芸術文化を将来へ継承発展させる青少年の育成	8区で文化事業を試行実施し、各区の事業で行うアンケートで、区の特性にあった文化事業であると感じた/再認識した参加者の割合：85%以上	8区で文化事業を試行実施し、各区の事業で行うアンケートで、区の特性にあった文化事業であると感じた/再認識した参加者の割合：87%	計画どおり事業が進捗している。次年度の本格実施に向けて各区へ実施希望を確認したところ、今年度実施区に加え、新たに9区から希望があった。今後、希望区の事業の推進と非希望区へのフォローが課題である。	事業の拡大・継続	これまで芸術文化事業を実施したことがない区において、芸術文化事業の知識やノウハウを得る機会となったほか、区の特性を踏まえた事業を企画することができ、目標を達成することができた。	-	区と連携した芸術文化青少年育成事業（予算：12,000千円、決算：11,783千円）
73	ラグビーワールドカップ2019の大阪開催	大阪府、市町村	ラグビーワールドカップ2019大会準備推進組織を設置し、大会運営に係る関係機関との協議・調整や大会に向けた機運醸成を図るための取組を展開	2019年9月のラグビーワールドカップに向けた開催機運の醸成を図る	トップリーグの試合会場等でのプロモーション活動：20回 ラグビーワールドカップの花園ラグビー場開催に対する府民認知度：60%以上	トップリーグの試合会場等でのプロモーション活動：27回 ラグビーワールドカップの花園ラグビー場開催に対する府民認知度：65.2%	大会2年前となる2017年度については、5月のブル組分け抽選会やトロフィーロードショー、11月の試合日程発表会といった大会に向けたマイルストーンとなるイベントのタイミングを活かした連携・運動型プロモーションを展開。	事業の拡大・継続	大会2年前となる2017年度については、5月のブル組分け抽選会やトロフィーロードショー、11月の試合日程発表会といった大会に向けたマイルストーンとなるイベントのタイミングを活かした連携・運動型プロモーションを展開。	ラグビーワールドカップ2019開催準備事業（予算：450,656千円、決算：447,146千円） ※全国自治体協賛宝くじ収益金に係る組織委員会拠出金（373,332千円）を含む	-
74	国際的なスポーツイベントなどの誘致	大阪府、大阪市、市町村、民間事業者	大阪のスポーツ都市としてのブランド力を高めるため、注目度の高い国際的なスポーツイベントや合宿を誘致	大阪のスポーツ都市としてのブランド力の向上<府・市>	・合宿誘致活動：20件<府> ・国際競技大会・イベント等の誘致・開催：2件以上<市>	・合宿誘致活動：31件<府> ・国際競技大会・イベント等の誘致・開催：5件<市>	・オリ・パラ等事前キャンプ誘致を希望する市町村の活動を適宜支援している。<府> ・国際競技大会やイベント等を計画どおり開催し、大阪のスポーツ都市としてのブランド力向上に寄与している。<市>	事業の拡大・継続	・オリ・パラ等事前キャンプ誘致を希望する市町村の活動を適宜支援した。<府> ・国際競技大会等を計画どおり開催し、目標を上回る実績を残すことができた。<市>	オリ・パラ等事前キャンプ誘致事業（予算：734千円、決算：353千円）	スポーツ競技大会の開催（予算：35,700千円、決算：35,636千円）
75	オリ・パラ等事前キャンプ誘致の推進	大阪府、大阪市、市町村	市町村と連携した事前キャンプの誘致やホストタウン登録を推進するため、競技施設等の情報を掲載した広報媒体を作成するとともに、府内競技団体や総領事館等へプロモーションを実施する。	・事前キャンプ誘致の実現<府、市> ・ホストタウン登録の追加<府>	・合宿誘致活動：20件<府> ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の事前キャンプ地として決定<市>	・合同誘致活動：31件<府> ・今年度新たに事前キャンプ地として決定した国はなかった。	・オリ・パラ等事前キャンプ誘致を希望する市町村の活動を適宜に支援している。<府> ・市町村に対してホストタウンに関する情報を提供したり、国との連絡調整を図った結果、新規登録2件、追加登録1件が実現した。<府> ・事前キャンプ地の視察として、来日したカナダ（陸上）及びアメリカ（水泳）チームへのプロモーション活動を実施。<市>	事業の拡大・継続	・オリ・パラ等事前キャンプ誘致を希望する市町村の活動を適宜支援した。<府> ・市町村に対してホストタウンに関する情報を提供したり、国との連絡調整を図った結果、新規登録2件、追加登録1件が実現した。<府> ・カナダ（陸上）及びアメリカ（水泳）、マレーシア（水泳）チームから問合せがあったが、事前キャンプ地として決定には至らなかった。<市>	オリ・パラ等事前キャンプ誘致事業（予算：734千円、決算：353千円）	予算事業なし
76	ホストタウンへの登録	大阪市、市町村	大阪市において、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加する国・地域のホストタウンとして、国に登録し、相互交流を図る。	スポーツによる地域活性化	ホストタウン登録国とスポーツ分野のみならず、文化や国際交流を行い、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催後も継承し、交流事業の継続などレガシーを創出する	大阪市をホストタウンとして登録したオーストラリアとの交流会を平成30年2月に開催した。	オーストラリアとのスポーツ交流を図るとともに、市内の学校と連携し当該国との国際交流を深めるため事業調整を進めている。	事業の拡大・継続	平成30年2月に開催したオーストラリアとの交流会では、市内の小学生26名、中学生106名及び高校生55名が参加し、オーストラリアについて事前学習した成果や、桃太郎の劇や少林拳法の演舞など日本の文化を紹介し、ホストタウンとしてオーストラリアとの交流を深めることが出来た。	-	ホストタウン関係交流事業（予算：1,000千円、決算：498千円）

大阪市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市	
					目標	実績			予算事業名・予決額	予算事業名・予決額	
77	オリ・パラ開催に向けた事業の展開	大阪市	オリンピックを大阪から輩出するため、トップアスリートを育成する団体の支援や、障がいのある人もない人も誰もが楽しめる大規模なスポーツイベントの開催などによる機運の醸成を図る。	東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運の醸成	大阪から東京オリンピック代表選手を輩出、機運醸成イベントの開催	3競技団体を通じて選手の強化育成を実施するとともに、オリンピック、パラリンピアとともにジャパンウォークを10月に開催した。	本市スポーツ競技力向上のため、競技大会の開催や人材育成に資する団体等への支援を実施するとともに、昨年度に引き続き、トップアスリートの育成のため、3競技団体を通じて選手の強化育成のため、補助事業を実施。また、計画どおり機運醸成イベントを開催した。	事業の拡大・継続	本市スポーツ競技力向上のため、競技大会の開催や人材育成に資する団体等への支援を実施するとともに、昨年度に引き続き、トップアスリートの育成のため、3競技団体を通じて選手の強化育成のため、補助事業を実施した。各競技において大阪から日本代表クラスが育成され、順調に進捗している。また、オリンピック、パラリンピアとともに歩くジャパンウォークの開催により、機運醸成に寄与した。	-	競技力向上事業（予算：19,363千円、決算：17,815千円）
78	関西ワールドマスターズゲームズ開催に向けた事業の展開	大阪市	大規模なスポーツ大会の開催時に合わせて、一般参加型のスポーツイベント開催による機運の醸成を図るとともに、ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催に伴う機運醸成を図る。	ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催に伴う機運醸成を図る	閉会式開催の準備に向けた実施体制の検討及び課題（会場選定・内容等）の整理・精査を、組織委員会と連携して行う	組織委員会と連携して閉会式開催候補地の視察を実施。（5か所）	関西マスターズスポーツフェスティバルを開催し機運を醸成するとともに、閉会式開催に向けてオーランド大会を視察するなど、開催に向けた準備を着実に進めている。	事業の拡大・継続	3月に閉会式実行委員会の体制を決定し、閉会式開催候補地の視察を実施のうえ、会場選定及び内容等の整理及び調整を実施した。	-	市長杯各種大会の開催（予算：32千円、決算：32千円） 関西ワールドマスターズゲームズ2021（予算：6,973千円、決算：6,973千円）
79	プロスポーツとの連携事業	大阪府、大阪市、大阪観光局、民間事業者	大阪を拠点に活動するプロスポーツチームと連携して、スポーツの振興や産業創出に向け取り組むとともに、都市魅力の発信、観光振興につなげる。	・プロスポーツ観戦を目的とした観光客の誘客促進<府・市> ・プロスポーツチームとの連携によるスポーツ振興及び都市魅力向上<市>	・大阪にゆかりのあるプロスポーツチームの年間主催試合での観客者合計数300万人<府> ・舞洲プロジェクトの事業実施体制の確立<市>	・大阪にゆかりのあるプロスポーツチームの年間主催試合での観客者合計数280万人<府> ・舞洲プロジェクトの事業実施体制を確立した。<市>	・プロスポーツチームと連携したイベントやポスター等の配布は完了。今後も、様々な機会を通じて、大阪の都市魅力を発信する。<府> ・プロスポーツチームと連携し主催試合の招待や舞洲プロジェクトとして情報発信・商品開発・スポーツ教室などを実施し、都市魅力の創出及び観光振興に寄与している。引き続き、スポーツの振興や産業創出に向け、事業を実施していく。<市>	事業の拡大・継続	・目標の観客者数には達しなかったものの、プロスポーツチームと連携したイベントの実施、ポスター等の配布を行うなど、様々な機会を通じて、大阪の都市魅力を発信することができた。<府> ・プロスポーツチームと連携し主催試合の招待や、プロスポーツ3チームと大阪市の4者が議論を行い舞洲プロジェクトとして情報発信・商品開発・スポーツ教室などを実施し、4者協働による付加価値の高い事業を実施することができた。<市>	予算事業なし	舞洲スポーツ振興事業（予算：15,000千円、決算：15,000千円）
80	スポーツ情報ネットワークシステム推進事業	大阪府	府民の様々なスポーツニーズに対応するため、スポーツイベント情報、スポーツ施設利用情報、スポーツ団体情報、ボランティア情報等、スポーツに関する様々な情報を提供	スポーツに親しむ府民が増える	アクセス件数：280,000件	アクセス件数：282,950件	・アクセス件数は、目標の7割弱となっており、概ね順調に推移している。 ・掲載情報は、随時更新している。	事業の拡大・継続	・アクセス件数は、目標を達成した。 ・掲載情報は、随時更新している。	スポーツ情報ネットワークシステム推進事業（予算：2,358千円、決算：2,358千円）	-
81	オリンピック・パラリンピック・ボランティア教育の推進	大阪府、大阪市、市町村	オリンピックやパラリンピアなどのトップアスリートを学校に派遣し、オリ・パラ等の開催に向けた機運醸成やスポーツマンシップの普及	オリンピック・パラリンピック・ボランティア教育の推進を通じた機運醸成<府・市>	・派遣小学校数：延べ18校<府> ・トップアスリート等による「夢授業」を219校（小中学校及び高等学校）で実施予定。 そのうち100校でオリパラ教育を実施できるよう取り組む。<市>	・オリンピック・パラリンピア派遣事業として15校（小学校及び支援学校小学部）に述べ16人のオリンピック・パラリンピアの派遣を実施。<府> ・トップアスリート等による「夢授業」およびオリパラ教育を219校（小中学校及び高等学校）で実施。<市>	・今年度新規事業の「オリンピック・パラリンピア派遣事業」について、事業スキームの検討、派遣講師の選定、派遣先の選定、プログラムの調整等、円滑に事業を実施している。<府> ・オリパラ教育を踏まえたトップアスリート等による「夢授業」を実施しており、計画どおり進捗している。<市>	事業の拡大・継続	・オリンピック・パラリンピアを小学校等15校（述べ16人）派遣した。<府> ・228人のアンケート結果から、84%の児童がオリンピック・パラリンピックに興味を持ったという回答があった。さらに、76%の児童が運動・スポーツに興味・関心を持ったと回答。<府> ・児童から、普段なかなか直接触れ合える機会のないオリンピック選手から講話や実技を指導してもらい貴重な体験となったなどの感想があった。<府> ・オリパラ教育を踏まえたトップアスリート等による「夢授業」を計画どおり実施することができ、市内の小・中学生に対してオリパラの機運醸成を高めることにつながった。<市>	オリンピック・パラリンピア小学校派遣事業（予算：920千円、決算：824千円）	トップアスリート交流事業（予算：6,743千円、決算：5,390千円）

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
82	トップアスリート等との連携事業	大阪府、市町村	トップアスリートとの直接的な触れ合いを通じて、子どもたちの運動やスポーツに対する興味・関心を向上	学校の授業以外にスポーツをする児童が増える	協力チーム数：12チーム、派遣校数：150校、参加児童数：12,000名	協力チーム数：11チーム、派遣校数：142校、参加児童数：11,055名	・派遣校数については目標の7割弱と順調に推移しているものの、参加児童数については目標の5割強に留まっている。引き続き協力チームに派遣校数の拡大を要請するとともに、小学校に複数学年での受講を働きかける。	事業の拡大・継続	目標数値は達成できなかったものの（参加児童数で92%）、チームの協力により、前年度と比較して派遣小学校数で増加した。また、いずれの派遣先小学校でも高い評価を得ている。	予算事業なし	-
83	スポーツボランティア養成及び派遣事業	大阪府	関係団体との連携により、スポーツボランティアを養成し、要請に応じて各種スポーツ大会に派遣する。	スポーツを「ささえる」機運が醸成される	大阪府登録スポーツボランティアの派遣（35事業、840名）	大阪府登録スポーツボランティアの派遣（32事業、568名）	・派遣事業数・参加人数は目標の7割強（参加人数は約6割）と概ね順調に推移している。 ・研修を通じてボランティアの資質向上を図った。	事業の拡大・継続	・各種スポーツ大会に大阪府登録スポーツボランティア（もずやんV・Sクラブ）を派遣 32事業の内、大阪府視覚障害者福祉協会が主催した7つのスポーツ大会では、もずやんV・Sクラブが唯一のボランティア協力団体であり、大会運営上非常にありがたいと、感謝をいただいている。 ・雨天等により派遣事業数が減少したことから参加者数が減少	スポーツボランティア養成及び派遣事業（予算：685千円 決算：322千円）	-
84	府民スポーツ・レクリエーションフェスティバル	大阪府	広く府民にスポーツ・レクリエーション活動を紹介し、実践する場を提供することにより、スポーツへの参加意欲を喚起する。	成人の運動実施率の向上、健康の保持増進	府民スポーツ・レクリエーションフェスティバルへの参加者（発表交流会、スポーツ体験会、体力測定会）：15,000名	・体力測定会：12回、参加人数2,168人 ・小学生を対象としたスポーツ体験会：参加人数426人 ・生涯現役スポーツ賞：個人：64名、団体：9 ・発表交流会：参加人数約7,000人	・事業への参加人数は目標の6割強となっている。	事業の拡大・継続	・体力測定会：12回（参加人数2,168人）、スポーツ体験会：7回（参加人数約2,300人） ・府民スポーツ・レクリエーション事業への参加者（発表交流会、スポーツ体験会、体力測定会）：約12,000名	府民スポーツ・レクリエーションフェスティバル事業（予算：6,571千円 決算：4,737千円）	-
85	グローバル人材育成事業	大阪府	・おおさかグローバル塾Plusや留学費用の一部助成により若者の海外留学を支援する。 ・グローバル体験プログラムを通じて海外に興味を持つ若者の裾野を広げる。 ・友好交流先であるインドネシア・東ジャワ州及びベトナム・ホーチミン市との間で高校生を相互派遣し、国際的な視野を持った国際人材を育成する。	グローバルな視野をもった若者の育成	・おおさかグローバル塾修了者の海外留学実績：2017年度までの累計100人 ・グローバル体験プログラム参加者のうち、世界に関心を持った割合：90%以上 ・相互派遣された高校生のうち、派遣された国への再訪を希望する者の割合：70%以上	・おおさかグローバル塾修了者の海外留学実績：2017年度までの累計97人 ・グローバル体験プログラム参加者のうち、世界に関心を持った割合：98.3% ・相互派遣された高校生のうち、派遣された国への再訪を希望する者の割合：100%	おおさかグローバル塾及びグローバル体験プログラムについて、2018年度の国際化戦略アクションプログラム事業の府への一元化に伴い、効果検証及び事業改善が必要	事業の拡大・継続	おおさかグローバル塾修了者の海外留学実績が目標値をほぼ達成するなど、着実にグローバル人材育成の取組みを進めた。	高校生相互派遣・交流事業（予算：9,026千円）	-
86	英語イノベーション事業	大阪府	大阪府立小中学校において、英語教育の強化を図ることにより、自分の考えや意見を英語で伝えることができるコミュニケーション能力を育み、グローバル社会において活躍し貢献できる人材を育成する。	・英語でのコミュニケーション能力育成 ・グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成	中学校卒業段階で英検3級程度以上の英語力を有する生徒の割合：40%以上	中学校卒業段階で英検3級程度以上の英語力を有する生徒の割合：52.2%以上	・小学校低学年からの英語教育の実施について、2017年度中に全小学校で開始した。また、小学校低学年からの英語教育を推進するため、本市英語教育アドバイザーを講師とした訪問研修を2017年12月下旬までに、のべ173回実施する予定である。各小学校において、全学年でより円滑に英語教育を推進していくために、教材整備、指導案配付を進めていく必要がある。	事業の拡大・継続	・小学校低学年からの英語教育の実施について、2017年度中に全小学校で開始した。また、小学校低学年からの英語教育を推進するため、本市英語教育アドバイザーを講師とした訪問研修を2017年12月下旬までに、のべ173回実施する予定である。各小学校において、全学年でより円滑に英語教育を推進していくために、教材整備、指導案配付を進めていく必要がある。 ・外部判定試験による英語力調査（2017年11月上旬実施）の結果、中学校卒業段階での英語力は目標値を上回った。 ・しかし、ネイティブ・スピーカーを活用した授業は目標の年平均17時間以上に届かず（16.1時間）、各校への指導とともに活用時間を再検討する必要がある。	英語イノベーション事業（予算：563,744千円、決算：528,271千円）	-

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
87	公設民営学校(国際バカロレア等)の設置	大阪市	国家戦略特区を活用した公設民営学校として、国際バカロレア認定コースを持つ中高一貫教育校を設置する。	国際社会でリーダーシップを発揮して活躍し、大阪の経済成長を牽引する人材の育成	指定管理法人の選定・指定議決及び平成31年4月開校のための開校準備事務の実施	・学校法人大阪YMCAを指定管理法人に指定 ・国際バカロレア認定手続きの前倒し	・2019年4月の開校に向け、5月に指定した指定管理法人とともに教育課程編成等の開校準備事務を行っており、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	2019年4月開校に向けて、国際バカロレア認定手続きを当初予定よりも前倒して実施することができた。また2018年2月に学校説明会を開催したところ、多数の参加希望があった。引き続き開校に向けて受験希望者数の増加に繋がる取組みを実施していく必要がある。	-	公設民営学校(国際バカロレア等)の設置(予算:6,277千円、決算:66,736千円)
88	留学生の住まい確保に向けた公的賃貸住宅事業者と大学連携事業	大阪府、民間事業者	留学生受入を実施・予定している大学や大学コンソーシアムと、公的賃貸住宅事業者の間で、公的賃貸住宅をまとめて、賃貸借契約し、大学側が留学生に住宅を提供、これにより住居確保が困難な留学生に対して、安定した住環境の提供が可能となる。	・住環境整備により来訪留学生の利便性の向上	・賃貸借契約等を締結する大学法人1法人(契約戸数1戸以上)	・賃貸借契約等を締結する大学法人0法人(現在、話を打診されている学校法人は1法人)。	大学法人及び大学コンソーシアムに対して制度改正に伴う周知と、具体的な留学生数や、留学生の居住状況について聴取した。今後、モデル地区における事業開始に向け、制度の活用を推奨する。	事業の拡大・継続	1法人から寮としての使用を打診されているが、現在のところ、契約締結まで至っていない。また、「府内大学との連携」を活用して、大学法人に情報提供を行ったが、制度活用にはいたらなかった。今後は、さらに認知度の向上に向け情報発信等の充実に努める。	予算事業なし	-
89	外国人留学生との連携拡大及び起業支援	大阪市	国際的な視点・能力をもつ留学生に、大阪市等が開発企画する協働・交流プログラム(ポテンティアプログラム)に参加してもらい、地域の国際化・活性化を図るとともに、留学生の地域への愛着を醸成する。 また、起業のきっかけとなるよう支援セミナーを開催し、国際人材の定着を促進する。	地域の国際化、国際人材の定着	・交流プログラム 開催数 2件 参加者総数 50名 参加者アンケート満足度 80% ・協働プログラム 開催数 22件 参加者アンケート満足度 80% ・起業支援セミナー 開催数 2件 参加者総数 70名 参加者アンケート満足度 80%	・交流プログラム 開催数 2件 参加者総数 8名 参加者アンケート満足度 100% ・協働プログラム 開催数 22件 参加者アンケート満足度 93% ・起業支援セミナー 開催数 2件 参加者総数 46名 参加者アンケート満足度 97%	協働プログラムの年間目標開催件数22件に対して、11月末時点で13件と、おおむね計画通りのペースで開催できているが、交流プログラムについては、開催のめどが立っていないため、2件の開催に向けてプログラムの発掘に取り組み必要がある。	事業の拡大・継続	各プログラム・セミナーの開催件数・アンケート満足度については目標を達成しているが、参加者数については目標値を下回る結果となった。今後、参加者数増加を図るため、アンケート等からニーズを反映した、各プログラム・セミナーの実施内容の改善や、さらなる事業周知の強化が必要である。	-	外国人留学生との連携拡大及び起業支援(予算:4,485千円、決算:2,177千円)
90	企業における高度外国人材の積極的受入・活用や留学生の就職支援	大阪府、民間事業者	留学生が卒業後に大阪で就職し、高度外国人材として企業のグローバル化や競争力強化につながる活躍ができるよう、企業の積極的な受入促進や留学生の円滑な就職支援等を実施する。	外国人高度専門人材の受入れ拡大	留学生向け企業見学会、企業との交流会等の実施回数:4回以上	留学生向け企業見学会:2回、企業との交流会等:2回 計4回	・2018年度の国際化戦略アクションプログラム事業の府への一元化に伴い、効果検証及び事業改善が必要	事業の拡大・継続	2018年度より府への一元化を図り、就職対策講座・企業見学会を実施することとし、内容のリニューアルを行った。	予算事業なし	-
91	外国人相談事業の充実	大阪市、大阪府	外国人が安心して快適に生活をおくり、大阪を住みやすい都市として認識し、定着を促すため、在住外国人を対象とした専門分野の相談会を実施する。	外国人住民の定着	【大阪府】来場者アンケート(満足度):95%以上 来場者数:104名以上	【大阪府】外国人相談件数:1,429件 【大阪府】来場者アンケート(満足度):88%、来場者数:124件	【大阪府】計画どおり事業進捗している。 【大阪府】今年度より、遠隔地に住んでいる外国人でも相談できるよう、電話相談を導入し、4件の実績があった。開催日であった7月9日(日)は、台風の接近による悪天候の影響で相談者(来場者)数が伸び悩んだ結果となった。	事業の拡大・継続	【大阪府】大阪府国際交流財団に委託し外国人相談事業を実施した。 【大阪府】今年度より、遠隔地に住んでいる外国人でも相談できるよう、電話相談を導入し、4件の実績があったことから、一定のニーズが確認できた。台風の接近による影響で相談者(来場者)数が伸び悩んだものの、目標は上回った。また来場者の母語の多様化もあり、満足度は下回った。	外国人行政サービス体制推進委託料(決算:2,581千円)	一日インフォメーションサービス(大阪国際交流センター事業交付金の一部)(予算:200千円、決算:200千円)
92	災害時多言語支援センター設置・運営訓練	大阪市、大阪府	災害時に多言語で外国人向けに情報発信を行う多言語支援センターの設置・運営に関する訓練を実施する。	外国人が安心して生活できる社会を実現し、都市魅力の向上を図る	【大阪府】災害ボランティア新規登録者数:30名 【大阪府】防災組織計画の策定 防災訓練・研修会の実施件数2回以上 市関係局会議の開催回数3回以上	【大阪府】OFIX災害時通訳・翻訳ボランティア新規登録者数:37名 【大阪府】防災訓練2回、研修会1回、市関係局会議2回	【大阪府】計画どおり進捗している。 【大阪府】おおむね計画どおり進捗しており、防災訓練・研修会については、2~3月の実施に向けて取り組んでいる。	事業の拡大・継続	【大阪府】OFIX災害時通訳・翻訳ボランティアの新規登録者数は目標を上回った。 【大阪府】概ね計画通り訓練等を開催することができ、災害時ボランティア及び訓練参加者の防災意識向上が図れた。今後も大規模地震等の発生に備え、関係機関や大阪国際交流センター、ボランティア等と継続実施が必要。	-	災害時外国人支援ネットワーク整備(大阪国際交流センター事業交付金の一部)(予算:947千円、決算:821千円)

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
93	府内大学連携型災害時多言語支援人材確保事業	大阪府	災害時に多言語支援に従事できる語学ボランティア人材を確保するため、府内大学との協定締結を進め、平時から協力が得られるボランティアの登録と研修を実施する。	府内大学と災害時多言語支援に関する協定を締結	災害時多言語支援に関する協定を締結した大学数：1大学	—	・大阪府国際交流財団の次期中期経営計画(案)において、ボランティア人材登録に関する大学との協定締結を取組目標として設定した。	事業の拡大・継続	大阪府国際交流財団の新中期経営計画に、取組目標として、ボランティア人材登録に係る大学との連携を定めた。	予算事業なし	—
94	在住外国人に対する情報発信の充実	大阪市	在関西総領事館に対し、防災関連施設の視察案内や取組紹介等による情報提供を行い、各総領事館を通じて在住外国人に対する防災情報の発信を推進する。	情報提供による総領事館等との連携強化	情報提供1回	情報提供1回	計画どおり進捗している。	事業の拡大・継続	在住外国人住民や外国人旅行者への効果的な情報発信やそれらの接点となる総領事館等との連携強化を図った。	—	関西領事団との連携(予算：458千円 決算：234千円)
95	多文化共生施策の推進	大阪市	多言語等による情報提供・流通経路を充実し、外国籍住民に行政情報等が伝わるようにする。 また、区役所やNPO等との連携を図り、地域住民と外国籍住民の交流の場づくり等を行い、地域住民の多文化共生に関する理解促進や外国籍住民の地域参加のきっかけをつくる。	「大阪市は外国籍住民が地域社会の一員として、様々な相談や情報提供を受けられることができるなど、充実した生活が営めるまち」と思ってもらい、外国籍住民の割合が増えること。	・「大阪市の多言語資料一覧」「やさしい日本語を使ったお知らせを集めたページ」等による情報発信。 ・多文化共生の場づくり・人づくり推進事業が取り組まれている区の拡大	・「やさしい日本語を使ったお知らせを集めたページ」等を更新し、各所属の具体的情報発信の働きかけを行った。 ・新たに3区で、多文化共生の場づくり・人づくり推進事業の取組を進めるための研修を実施。(同事業が取り組まれている区は、前年17区から20区に拡大)	・多言語資料等の情報提供に関しては、計画通り情報更新を進めており、また、多文化共生の場づくり・人づくり推進事業の実施区も計画通り拡大しており、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	「やさしい日本語を使ったお知らせを集めたページ」等での情報発信、多文化共生の場づくり・人づくり推進事業の実施区の拡大等により、外国籍住民への情報提供、地域住民の多文化共生に関する理解促進や外国籍住民の地域参加のきっかけづくりが進んだ。	—	多文化共生施策の推進(予算：481千円、決算：242千円)
96	グローバルイノベーション創出支援事業	大阪市	うめきた先行開発区域の知的創造拠点「ナレッジキャピタル」内に開設した「大阪イノベーションハブ」において、世界から人材・資金・情報を引き込み、人材発掘、起業家マインド醸成、国内外ネットワーク構築、プロジェクト創出支援、海外ワークショップ、国際会議等のイノベーション創出を支援する事業を実施する。	・拠点の趣旨に賛同し新たに活動に参画又はSNS等でつながる人数：50,000人 ・グローバル展開を見込まれるプロジェクト創出・推進支援件数：50件	ピッチイベント開催回数：40回	ピッチイベント開催回数：45回	海外ピッチイベントの日本予選を誘致するなど、着実にプログラムを実施している。また、大阪イノベーションハブのWEBサイトのリニューアルやメルマガの毎週配信など、情報発信の強化にも取り組んでいる。	事業の拡大・継続	年間290本のプログラムを実施し、大企業や関係機関等との連携を通じてプロジェクトを生み出したほか、海外とのグローバル規模でのネットワークを構築することができた。また、WEBサイトのリニューアル等により、情報発信の強化を図ることができた。今後、創出したプロジェクトをさらに成長・進化させるとともに、英語での情報発信の強化等に取り組む。	—	グローバルイノベーション創出支援事業(予算：198,160千円、決算：197,240千円)
97	大阪トプランナー育成事業	大阪市	医療・介護・健康分野等において、新たな需要の創出が期待できる製品・サービスのプロジェクトに対して市が認定を行い、市場投入から販路拡大まで担当コーディネータが伴走し、必要に応じたオーダーメイド型の継続的サポート(ハズオン支援)を実施する。	認定プロジェクトにおける新たな売上の創出19億円(2017～2019年度)、プロジェクト認定を受けた企業のうち、新製品・サービスの事業化促進に効果があったと回答した割合：95%	プロジェクト新規認定件数：10件	プロジェクト新規認定件数：10件	今年度10件のプロジェクト新規認定を行い、9月には認定証授与式並びに報道関係者向けブレイクセッションを実施した。	事業の拡大・継続	各プロジェクトの課題や状況に応じたサポートの実施、新規事業創出のためのワークショップ・セミナー等の開催、展示会への出展などにより、新製品・サービスの事業化の促進を支援し、認定企業からも「事業化促進に効果があった」との回答を得ることができた。	—	大阪トプランナー育成事業(予算：70,984千円 決算：66,623千円)

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

								年度		2017	
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額	
98	水・環境分野における大阪関西企業の海外展開支援	大阪市	海外都市の多様な水・環境問題の解決に向けて、行政が持つ都市経営のノウハウ及び民間が持つ先進的な要素技術を活用しながら、大阪・関西企業の技術にかかる案件形成・事業化支援に向けた活動等により企業の海外展開を支援し、地域経済の活性化を図る。 (大阪水・環境ソリューション(OWESA)による官民連携の取組)	官民連携による海外の水・環境問題への貢献と大阪・関西企業の海外展開を支援。	海外現地調査：3回、海外からの視察・見学受け入れ：1回 海外技術セミナー：3回	海外現地調査：9回、海外からの視察・見学受け入れ：6回 海外技術セミナー：6回	国・JICAなどの事業に参画し、官民連携による現地調査、本邦研修の実施などの取組みを進めており、引き続き大阪・関西企業の海外展開を支援していく。	事業の拡大・継続	国・JICAなどの事業に参画し、官民連携による現地調査、本邦研修の実施など目標以上の取組みにより、大阪・関西企業の海外展開を支援することができた。	—	水・環境ソリューション機構への分担金 (建設局 予算：3,500千円、決算：3,499千円) (水道局 予算：3,500千円、決算：3,499千円) (環境局 予算：3,500千円、決算：3,499千円)
99	ビジネスパートナー都市交流事業	大阪市	大阪府がアジア太平洋地域の13の主要経済都市と締結しているビジネスパートナー都市(BPC)提携のネットワークを活用し、在阪中小企業に対する国際ビジネス活動の支援を行う。 また、年1回、BPC各都市が一堂に集まるラウンドテーブルを開催し、同期間に併せて現地での商談会を実施するとともに、海外見本市への出展支援、海外企業との国内商談会、セミナーを実施する。	海外見本市出展・商談会：4回、国内商談会・セミナー：3回(商談会)/2回(セミナー)	【海外見本市出展・商談会】支援対象企業数：12社以上、販売成約数：40件以上目標、支援企業のビジネスモチベーション高揚の割合：80%以上 【国内商談会・セミナー】大阪での商談会：3回以上実施、大阪企業の参加数：各回10社以上、支援企業のビジネスモチベーション高揚の割合：80%以上目標、支援企業の海外展開が企業経営に貢献した割合：70%以上目標	【海外見本市出展・商談会】支援対象企業数：21社、販売成約数：98、支援企業のビジネスモチベーション高揚の割合：100、支援企業の海外展開が企業経営に貢献した割合：100% 【国内商談会・セミナー】大阪での商談会：3回実施、大阪企業の参加数：計61社(26社、24社、11社)、支援企業のビジネスモチベーション高揚の割合：97.4%、支援企業の海外展開が企業経営に貢献した割合：100%	海外見本市出展・商談会の開催、国内商談会・セミナーの開催により、ビジネスパートナー都市(BPC)提携のネットワークを活用し、在阪中小企業に対する国際ビジネス活動を支援するため、おもむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	ビジネスパートナー都市(BPC)提携のネットワークの活用により、海外見本市出展支援、海外商談会及び国内商談会・セミナーを実施し、在阪中小企業に対する国際ビジネス活動を支援することができた。	—	ビジネスパートナー都市等交流事業(予算：59,112千円、決算：58,486千円)
100	外国企業誘致推進事業	大阪府、大阪市、大阪商工会議所	大阪府・大阪府・大阪商工会議所で平成13年度に立ち上げた「大阪外国企業誘致センター(O-BIC)」事業により、オール大阪としての対外的なプロモーション活動や立地サポート及び外国経済団体等とのネットワークを活用するなど、大阪への外国企業等の誘致活動を行う。	大阪への外国企業等の誘致促進	誘致件数：27件	誘致件数：42件	大阪外国企業誘致センター(O-BIC)において、ジェトロ等主催の対日投資セミナーでのPRや、サンディエゴでのライフサイエンス分野の展示会への出展、大規模展示会での企業ヒアリングなど、国内外で積極的なプロモーション活動を展開しており、今年度の誘致件数も順調に推移している。	事業の拡大・継続	大阪外国企業誘致センター(O-BIC)において、JETRO等主催の対日投資セミナーへの参加、米・サンディエゴでのライフサイエンス分野の展示会への出展、中国・深センでのセミナー主催といったプロモーション活動を展開、平成29年度の外国企業等の誘致件数は過去2番目に高い42件となった。	大阪外国企業誘致センターの運営(予算：7,600千円、決算：7,590千円)	大阪外国企業誘致センターの運営(予算：7,600千円、決算：7,590千円)
101	トップセールスによる戦略的プロモーション	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局	海外ネットワークの戦略的な活用、関係機関等との連携を通じ、知事・市長等が、国内外に向け大阪の魅力や強みを効果的に発信し、経済・観光等の分野における交流促進を図る。	・大阪への投資促進 ・大阪と海外企業交流の促進 ・市内各地に観光客を誘致	・現地政府や大手企業等とのビジネス機会創出のための関係構築、商談機会提供。(府) ・各都市の特徴に合わせ、プロモーションや商談会、セミナー等最も効果的な経済交流のあり方をめざし事業を展開し、姉妹都市と本市の交流促進に資するネットワークをさらに深化させる。(市)	市長がH29.6月にフランス共和国、イタリア共和国、同年7月に上海、同年11月にドイツを訪問し、行政レベルでのネットワークの新規構築、連携強化を行うとともに、観光・港湾分野においてトップセールスを実施。	海外ネットワークの戦略的な活用、関係機関等との連携を通じ、外国政府機関・企業等に効果的に大阪の魅力や強みを発信している。今後、プロモーション活動やビジネス交流等の各種交流をより効果的なものとするために、国内外の関係機関・関係部署等との連携を強化していく。	事業の拡大・継続	姉妹都市ネットワークを活用し、効果的に大阪のビジネスポテンシャルをアピールした。今後、プロモーション活動やビジネス交流等の各種交流をより効果的なものとするために、局内外及び他局関係部署、経済関連団体等との連携を強化していく。	海外トッププロモーション事業(予算：5,899千円)	姉妹都市ネットワークを活用した経済交流の推進(予算：18,159千円、決算：7,054千円)



大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2017
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
102	JICA（国際協力事業団）との連携事業	大阪市	JICAと連携し、都市上下水道維持管理、都市廃棄物、大気汚染対策、救急救助等の分野で研修コースを設置し、開発途上国・地域から研修員を招聘するとともに、技術協力としてこれらの国・地域への職員派遣を実施する。 また、受入れた人材を本市の国際化に対するアドバイザー及び海外における情報発信・海外の最新情報の収集拠点として位置づけ、ネットワークを形成する。	JICAと連携した開発途上国・地域との人材交流促進	・開発途上国・地域からの研修員の招聘人数：65人 ・研究員の大阪国際交流協力員の参加率：80%	・開発途上国・地域からの研修員の招聘人数：8382人 ・研究員の大阪国際交流協力員の参加率：98%	都市上下水道維持管理等の開発途上国・地域の課題に応じて、大阪市の最新事例等の研修を実施することにより、都市間交流都市外交を推進し、「大阪国際交流協力員」を活用することにより、海外における本市の情報発信等につなげている。	事業の拡大・継続	都市上下水道維持管理等の開発途上国・地域の課題に応じて、大阪市の最新事例等の研修を実施することにより、都市間交流都市外交を推進し、「大阪国際交流協力員」を活用することにより、海外における本市の情報発信等につなげられた。	-	-

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度 2018

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額	
1	夢洲での I R を含む国際観光拠点形成	大阪市、大阪府、民間事業者	MICE機能や国際的なエンターテインメント機能を備えた統合型リゾート (I R) の誘致など、民間の創意・工夫や意見を取り入れながら、国際観光拠点の形成をめざす。	夢洲での I R を含む国際観光拠点形成	I R 整備法の成立を踏まえ、大阪 I R 基本構想をとりまとめ I R 整備法の内容やスケジュール等に合せて、事業者公募に向けた準備を実施	-	3月に契約したアドバイザーも活用しながら、事業者公募に向けた準備を進めるとともに、国の動向等を踏まえ、IR推進会議を開催し、大阪 I R 基本構想 (案) の検討を進めるなど、概ね予定どおり進んでいる。	事業の拡大・継続	-	I R 事業化推進事業 (予算: 88,383千円)	I R を含む国際観光拠点の形成に向けた立地推進事業 (予算: 47,401千円)
2	水と光のまちづくりの推進 > 水辺の魅力空間づくり	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	・ 舟運をはじめ水辺も楽しめる観光メニューが集結するターミナルの整備 ・ 水辺魅力の向上や、舟運活性化に資する空間・景観整備	水都大阪の更なる「成長」へ向けた取組みを着実に推進	舟運利用者数: 125万人	-	・大阪城港に新たな公共船着場を整備するための測量、土質調査、詳細設計の実施に向けて、関係機関と検討を進めている。 ・本町橋周辺の水辺整備工事の発注手続き中であり、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	-	水辺にぎわい空間づくり事業 (予算: 29,500千円)	水辺の魅力向上 (東横堀川 本町橋周辺の水辺整備) (予算: 131,000千円)
3	水と光のまちづくりの推進 > 舟運活性化	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	舟運の共同運航体制の構築や係留環境の充実などによる旅行者ニーズに対応した観光メニューとしてのクルーズ商品の多様化促進	水都大阪の更なる「成長」へ向けた取組みを着実に推進	舟運利用者数: 125万人	-	魅力ある舟運の創出に向け、民間のアイデアやノウハウを活用するための「舟運創造推進事業」や、水辺のイベントと連携したクルーズ開発支援により、観光メニューとしてのクルーズ商品化に向けた事業を行っている。	事業の拡大・継続	-	水都大阪コンソーシアム事業 (予算: 35,500千円)	水と光のまちづくり推進事業 (予算: 35,500千円)
4	水と光のまちづくりの推進 > シンポレイベントの実施	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	オリバライヤーに水辺を舞台にしたシンポレイベントを開催し、水都大阪の魅力国内外へ発信、ブランディングと集客力を強化	水都大阪の魅力を国内外へ発信、ブランディングと集客力を強化	舟運利用者数: 125万人	-	「水都大阪フェス2018」の開催を通じて、効果的なイベントのあり方について、関係者の共通認識を深めると共に、シンポレイベントについてオール大阪での機運醸成が図られるように努めている。	事業の拡大・継続	-	予算事業なし	予算事業なし
5	水と光のまちづくりの推進 > 水辺のランドマークの創出	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	水の回廊ならではのランドマークやコンテンツを創出し、回廊全体の集客力アップや、クルーズをはじめとした観光メニューにおける新たな付加価値による魅力の向上	水の回廊全体の集客力アップや、クルーズをはじめとした観光メニューにおける新たな付加価値による魅力の向上	舟運利用者数: 125万人	-	舟運活性化、イベント開催などの実施を通じ、水の回廊ならではのランドマークやコンテンツ創出について、関係者の共通認識を深めている。 また、民間主導によるランドマーク創出に向け、行政と民間を繋ぐコーディネートを行っている。	事業の拡大・継続	-	予算事業なし	予算事業なし
6	水と光のまちづくりの推進 > 淀川の魅力推進	大阪府、市町村、経済団体、民間事業者	淀川舟運の活性化に向けた沿川地域の魅力づくり	淀川沿川などにおいて、広域連携型のまちづくりの推進に向けた取組を進める。	淀川沿川広域連携型まちづくり戦略の8つの取組を推進する。このうち、魅力ある景観形成については、淀川の魅力ある景観づくりのための方針、景観資源を活用するための実施方策のとりまとめを行う。また、将来の広域エリアマネジメント組織化に向け、勉強会を開始する。	-	淀川沿川まちづくりプラットフォームの取組みとして、淀川沿川広域連携型まちづくり戦略に基づく8つの取組を推進している。このうち、サイクルルートの活用については、平成30年8月よりお風呂道 (オフロード) 事業として開始している。また、魅力ある景観形成については、有識者や舟運事業者で構成する検討会を設立し、検討を開始するとともに、府民目線で景観資源を発掘するため、景観コンテストを実施している。(平成30年7月~9月)	事業の拡大・継続	-	淀川沿川の景観形成事業 (予算: 809千円)	-
7	大阪光のまちづくり2020構想の推進	経済団体、民間事業者、大阪府、大阪市	「水と光のまちづくり推進会議」のもと、公民連携による圧倒的な光景観の形成により一層の魅力と賑わいに満ちた「水と光の首都大阪」の実現に取組む「光のまちづくり推進委員会」が策定した「大阪光のまちづくり2020構想」の情報共有を図り、大阪における光のまちづくりを推進	「水と光の首都・大阪」の実現	「大阪光のまちづくり2020構想」アクションプランの第3フェーズ (2017~2019年) の推進	-	4月13日開催の「光のまちづくり推進委員会」において、2018年度の活動内容について承認され、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	-	予算事業なし	予算事業なし

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

											年度	2018
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市	
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額	
8	万博記念公園の魅力創出	大阪府	2020年に迎える大阪万博50周年に向けた取組を進める。 万博記念公園駅南側の事業者誘致に向けた取組を進め、新たな魅力づくりを行う。	公園の魅力・観光価値を高め、来訪者が増加。	自然文化園入園者数：300万人(2020年度)	-	2020年に迎える50周年に向けた取組を引き続き進める。 駅南側の事業者誘致に向けた取組を引き続き進める。	事業の拡大・継続	-	万博記憶展企画運営事業(予算：95,972千円) 万博記念公園駅前地区事業者誘致業務(予算：5,098千円)	-	
9	百舌鳥・古市古墳群の魅力創出	大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市	2010年に世界遺産暫定一覧表に記載された「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録の早期実現に向けた取組を進める。	2019年度の世界文化遺産登録	2018年1月に、世界文化遺産としてユネスコに推薦された「百舌鳥・古市古墳群」について、イコモス審査の対応など、2019年の世界文化遺産登録の実現に向けた取組を進める	-	2018年9月頃のイコモス現地調査に向けて、二回のリハールを行い、国内外の専門家のご意見を参考にしながら、準備を進めてきた。	事業の拡大・継続	-	百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進事業(予算：24,582千円、決算：千円)	-	
10	ストーリー性をもたせた大阪魅力の再編集・発信	大阪府、市町村、民間事業者	大阪の魅力スポットやそれらを巡るルートにストーリー性を持たせて再編集し、地域における観光資源の磨き上げや受入環境の整備等を支援する事業を実施。	国内外からの集客・周遊性の向上をめざした環境整備	①平成29年度構築したストーリー：補助事業者が掲げる目標数値を達成した事業の割合70%以上 ②新たに構築するストーリー数：2本以上	-	補助事業の決定及び進捗管理については、概ね当初の予定どおりに進んでいる。	事業の拡大・継続	-	大阪ストーリープロジェクト事業(予算：44,926千円)	-	
11	大阪城・森之宮・大手前地区の魅力向上 > 歴史拠点の創出	大阪市(経済戦略局、建設局)	・豊臣期に築かれた初代大坂城の石垣を掘り起こし、公開する施設を整備 ・特別史跡大坂城跡保存管理計画を推進し、文化財を整備・活用 ・難波宮跡公園のハード・ソフト両面からの魅力向上等	まちの魅力向上	【大阪城公園関連】豊臣石垣公開施設の建築工事を着工する。 【難波宮跡公園関連】年度内に「史跡等保存活用計画」を作成する。	-	【大阪城公園関連】 ・豊臣石垣公開施設の整備に向け、施設整備費積算業務及び展示の実施設計を発注するなど、おむね計画通り進んでいる。 【難波宮跡公園関連】 ・府市連携して年度末までに「史跡等保存活用計画」の策定に向け作業を進めている。	事業の拡大・継続	-	経済戦略局大阪城観光拠点化事業(予算：16,618千円) 建設局 難波宮跡公園整備事業(予算：305,574千円)	-	
12	大阪城・森之宮・大手前地区の魅力向上 > 世界的観光拠点化	大阪市	・2015年度に導入した大阪城公園PMO事業を推進し、民間活力を活用した公園の新たな魅力を創出	大阪城公園の魅力向上	各施設の利用者(件)数：天守閣262万人、野球場900件、西の丸庭園35万人、豊松庵120件、音楽堂100件 満足度調査：85%	-	計画通り進んでいる。	事業の拡大・継続	-	大阪城エリア観光拠点化事業(予算：115千円)	-	
13	中之島地区の魅力向上 > 新しい美術館の整備	大阪市	大阪市が所蔵する第一級のコレクションを活用して、市立美術館や東洋陶磁美術館とは異なる新たな魅力にあふれる「(仮称)大阪新美術館」を、2021年度の開館をめざして整備する。 また、「(仮称)大阪新美術館」の整備に取り組むことにより、中之島地区の魅力向上に貢献していく。	中之島地区の魅力向上に貢献し、来訪者が増加	開館後の年間入場者数 約60万人	-	・2021年度の開館に向け、設計業務を進めるとともに、運営型PFI実施方針(案)の検討やコレクションの魅力向上をすすめており、おむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	-	新しい美術館の整備事業(予算：590,507千円)	-	
14	中之島地区の魅力向上 > 大阪市中央公会堂100周年を契機とした魅力発信	大阪市	2018年に開業100周年を迎える国指定文化財・大阪市中央公会堂の魅力幅広く伝える行事を実施することで、引き続き大阪の誇る資産として魅力を発信していく。	中央公会堂開館100周年の機運醸成による中之島地区の魅力向上	連携事業数 7件 開館100周年記念メイン事業参加者数 3000人	-	メイン事業の広報開始に向けて委託事業者の決定等、概ね計画通り進捗している。指定管理者と連携して年間を通じたPRを実施し機運醸成につながっている。	事業のスクラップ	-	大阪市中央公会堂開館100周年記念事業(11,000千円)	-	
15	御堂筋地区の魅力向上 > 御堂筋の空間再編	大阪市、民間事業者	側道を活用した御堂筋の歩行者空間化に向けた道路空間再編を行う。	御堂筋における歩行者の安全性向上	整備後の御堂筋を通行することに満足している歩行者の割合(歩行者の安全性向上)：2013年度45%→2021年度55%	-	側道閉鎖社会実験の実施に向け、関係機関と調整中であり、概ね予定通り進捗できている。	事業の拡大・継続	-	御堂筋の道路空間再編(予算：155,000千円) 御堂筋の活性化(予算：10,000千円)	-	

大阪市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度 2018

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
16	御堂筋地区の魅力向上 > 御堂筋活性化事業	大阪府、大阪市、国土交通省近畿地方整備局、経済団体、大阪観光局	大阪のシンボルストリートである御堂筋を歩行者に開放し非日常的なイベントを実施。御堂筋・大阪の魅力国内外に発信する。	御堂筋を国内外に発信できる集客装置として活用して、国内外からの話題を集め、御堂筋・大阪の魅力を発信する。	・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 90回以上 うち首都圏メディアでの掲載取上げ回数 30回以上 ・Web掲載回数 600回以上	-	11月4日の開催に向け、警察、消防局、関係機関等と協議を行っており、概ね計画通り事業進捗している。	事業の拡大・継続	-	御堂筋開放事業（予算：18,000千円）	御堂筋活性化事業（予算：18,000千円）
17	御堂筋地区の魅力向上 > クオリティの高いにぎわい空間や官民協働によるブランドの創出	大阪市、民間事業者	御堂筋地区計画に沿って、きめ細かな建築デザイン、低層部へにぎわい用途等を誘導するとともに、御堂筋側道歩行者空間化による新たな利活用に向けた支援、彫刻ストリートの保全・修景等エリアマネジメントの推進に取組む。 また、市内の御堂筋・梅田・中之島地区を中心とするエリアマネジメント団体の交流や情報交換を目的とする会議を開催し、大阪都心部のエリアマネジメント活動の推進を図ることを目的としたガイドラインの策定に向けた検討を行う。	・上質なにぎわい空間の創出と、芸術性の高い通りの実現 ・ガイドラインに基づく民間事業者等の取組の促進	・沿道美化活動の継続（一斉清掃年1回以上） ・エリアマネジメント団体による壁面後退部分等を活用したにぎわい創出の取組み ・大阪エリアマネジメント活性化会議の開催（2回）	-	・エリアマネジメント団体と連携して彫刻、歩道の美化活動と、彫刻を彩るべく御堂筋コンテナガーデンへの花植活動を実施した。	事業の拡大・継続	-	-	御堂筋沿道開発事務（予算：1,315千円） 御堂筋の景観整備（彫刻ストリート）（予算：3,757千円） エリアマネジメント活動促進制度関係事務（予算：2,613千円）
18	2017年度終了事業										
19	天王寺・阿倍野地区の魅力向上 > 天王寺・阿倍野地区の魅力発信・集客促進	大阪市	天王寺公園・動物園を核として、周辺観光施設等と連携しながら、地区全体の魅力発信・集客促進に取り組む	天王寺・阿倍野地区の魅力向上	インバウンド向けフリーペーパーの活用など、地区の魅力を発信し、回遊性の向上を図る。	-	現時点では、概ね戦略上のスケジュールどおり事業進捗が図られている。	事業の拡大・継続	-	-	予算事業なし
20	天王寺・阿倍野地区の魅力向上 > 天王寺公園・動物園の魅力向上	大阪市	天王寺・阿倍野地区において、地区の核となる天王寺公園・動物園の官民連携等による魅力向上・活性化、ひいては天王寺・阿倍野地区全体の集客力・ブランド力の向上を図る。	天王寺公園・動物園の魅力向上、来園者数の増加	・公園来園者数：2012年度129万人（実績）を2017年度に260万人にする ※ゲートエリア開業に向けて2018年度中に見直し予定。 ・動物園来園者数：2012年度124万人（実績）を2019年度に175万人にする	-	ゲートエリアでの新たな官民連携の取組みや動物園での改革・改善の実行など、地区の核としておおむね計画どおり事業進捗が図られている。	事業の拡大・継続	-	-	【経済戦略局】天王寺公園・動物園の魅力向上事業（予算：171千円） 【建設局】天王寺公園・動物園の魅力向上事業（予算：公園5,876千円、動物園402,533千円、道路9,500千円）
21	大阪市立美術館の魅力向上	大阪市	・市立美術館は世界的レベルの所蔵作品を誇り、建物は登録有形文化財に指定された日本を代表する美術館で、天王寺・阿倍野地区の観光集客拠点である。80周年を迎え、その役割を十分に果たすために必要な機能強化やサービス向上にむけた大規模改修を実施するにあたり、基本計画の策定や最適な事業手法を検討する。また、大規模改修までに計画的な所蔵作品の修復を進め、鑑賞機会を増加させるとともに、観光集客拠点としての、より一層の魅力向上を図る。	・大規模改修に関する基本計画の策定 ・リニューアル後の展示会の柱となる美術品の充実（補修）	・大規模改修に関する基本計画の策定 ・リニューアル後の展示会の柱となる美術品の充実（補修）	-	現代の美術館として必要な機能強化やサービス向上等を内容とした大規模改修計画の策定のため、事業手法調査を行いつつ、計画的な所蔵作品の修復を進め、鑑賞機会の増加や展示品の充実に取り組んでいる。	事業の拡大・継続	-	-	大阪市立美術館の魅力向上事業（予算：32,128千円）

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度 2018

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予算額	予算事業名・予算額
22	築港・ベイエリア地区の魅力向上 > クルーズ客船の母港化	大阪市、大阪観光局	・クルーズ客船の母港化により内外集客力を強化 ・新たなウォーターフロントのまちづくりに挑戦し、集客観光拠点化を図り、世界にアピール	クルーズ客船の母港化に向け、観光客増につながる大阪港への寄港回数の増加	2018年寄港数：50隻以上	-	概ね予定どおり進んでいる。	事業の拡大・継続	-	-	クルーズ客船の誘致・受入事業（予算：25,595千円）
23	2017年度終了事業										
24	大阪駅周辺地区の魅力向上	大阪市、大阪府、民間事業者	うめきた2期まちづくりの推進 ・世界の人々を惹きつける魅力を備えた「みどり」、世界をリードする「イノベーション」の融合拠点形成に向けた取組の実施	うめきた地区の魅力向上、にぎわい創出 うめきた2期まちづくりの機運醸成	「うめきた2期みどり」と「イノベーション」の融合拠点形成推進協議会」によるイノベーションイベントなど、イノベーションの融合拠点形成に向けた取組の実施。 うめきた2期区域暫定利用にかかる事業：12事業、参加者数：前年度以上 基盤整備事業の着実な推進	-	U R 都市機構により昨年12月から実施されていた、うめきた2期区域の開発事業者募集において、本年7月に開発事業者が決定された。また、暫定利用事業も継続して実施しており、まちづくりの機運醸成、にぎわい創出が図られている。基盤整備事業についても順調に進捗しているところ。	事業の拡大・継続	-	うめきたまちづくり推進事業（予算：5,000千円） ※参考 その他うめきた2期区域基盤整備事業費（432百万円）	うめきた2期「みどり」と「イノベーション」の融合拠点形成推進事業（予算：5,000千円） ※参考 その他うめきた2期区域基盤整備事業費（8,715百万円 上記、大阪府事業費を含む全体事業費）
25	なんば駅周辺道路空間再整備	民間事業者、経済団体、大阪市、大阪観光局、大阪府	なんば駅周辺の道路空間を、車中心の空間から人中心の空間へと再編し、地元組織等のエリアマネジメント活動により、世界を惹きつける観光拠点として上質で居心地の良い空間の創出を図る。	大阪のおもてなし玄関口として、世界をひきつける観光拠点を整備し、居心地の良い空間を生み出すとともに回遊性を高める。	なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本設計を実施する。	-	2017年度に作成した実施計画に基づき、地元協議会・関係機関と設計内容について協議中であり、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	-	-	なんば駅周辺における空間再編推進事業（予算：47,000千円）
26	国内外の人々を惹きつけるキラコンテンツの創出	大阪府	大阪のメインストリートである御堂筋を集客装置として活用して、非日常的なオンラインコンテンツを通じて大阪の魅力を国内外に発信し、多くの方に大阪を訪問していただくための起爆剤となるイベントを実施。	御堂筋を国内外に発信できる集客装置として活用して、国内外からの話題を集め、御堂筋・大阪の魅力を発信する。	・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 90回以上 うち首都圏メディアでの掲載取上げ回数 30回以上 ・Web掲載回数 600回以上	-	11月4日の開催に向け、警察、消防局、関係機関等と協議を行っており、概ね計画通り事業進捗している。	事業の拡大・継続	-	国内外からの誘客促進事業（予算：60,000千円）	-
27	大阪・光の饗宴の魅力向上	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局、民間事業者	「御堂筋イルミネーション」と「OSAKA光のルネサンス」をコアプログラムとし、地域の活性化に取り組む団体等が大阪府内各エリアで展開する光のプログラムをエリアプログラムとして、一体的にプロモーション展開することにより、大阪の冬を代表する観光コンテンツとして、官民の連携・協働により都市魅力の創造・発信や都市ブランドの向上や国内外からの多くの観光誘客を図り、大阪の活力向上につなげる。	御堂筋イルミネーションについて、イチョウ並木を中心にインパクトあるイルミネーションを施した「大阪・光の饗宴2018」を実施し、国内外からの更なる誘客につなげる。	大阪・光の饗宴全体の来場者数：1,400万人以上 大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数：20団体	-	11月4日から開始する「大阪・光の饗宴」に向け、警察等関係機関と協議を行っており、概ね計画通り事業進捗している。	事業の拡大・継続	-	ナイトカルチャー魅力創出事業（大阪・光の饗宴事業）（予算：236,878千円）	大阪・光の饗宴事業（予算：179,939千円）

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2018
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
28	大阪マラソンの魅力向上	大阪府、大阪市、民間事業者	世界トップレベルの市民マラソンを目指すためのさらなる魅力づくりを目指すとともに、大会の国際化を推進	大阪マラソンの魅力向上を図り、海外ランナーのエントリー数を増加	・海外ランナーエントリー数：前年度並み（14,000人） ・平成31年2月 大阪マラソン組織委員会において、新コース発表	-	大阪マラソン公式ホームページでの多言語ページ（英語・ハングル・中国語（繁体字・簡体字））の作成など、海外ランナーの誘客増加につながる取り組みを行った結果、国外エントリー数は前年度より1,043人増加し、過去最高の15,005人となった。	事業の拡大・継続	-	大阪マラソン開催事業（予算：115,000千円）	大阪マラソン開催事業（予算：90,000千円） 大阪マラソン魅力向上事業（予算：25,000千円）
29	スポーツツーリズムの推進	大阪府、大阪市、大阪観光局、民間事業者	ランドマークなど大阪のブランド力を活用したスポーツイベントを誘致・開催する。また、プロスポーツチームと連携した都市魅力の発信、観光振興につながる取組を推進	・観光集客を通じて地域を活性化する<府・市> ・スポーツを活かした都市魅力創出、誘客促進<市>	・大阪にゆかりのあるプロスポーツチームの年間主催試合での観客者合計数 320万人<府・市> ・国際競技大会・イベント等の誘致・開催：2件以上<市>	-	・プロスポーツチームと連携したイベントの実施や、様々な機会を通じて小学校等へのチラシやポスター等の配布。<府> ・国際競技大会等を計画どおり開催するとともに、プロスポーツチームと連携し主催試合の招待や舞洲プロジェクト事業としてスポーツ教室を実施するなど、都市魅力の創出及び観光振興に寄与している。引き続き、スポーツ都市大阪の魅力を発信するため、事業を実施していく。<市>	事業の拡大・継続	-	予算事業なし	スポーツ競技大会の開催（予算：19,200千円） 舞洲スポーツ振興事業（予算：21,000千円）
30	大阪の食の魅力の創出・発信	大阪観光局、民間事業者、経済団体、大阪府	府内の飲食店が利用できる多言語メニュー作成支援システムを構築し、多言語メニュー設置店を増やすことで外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える。	・外国人旅行者の利便性向上	・府内の飲食店のシステム登録数：2,500件（府内の飲食店の5%以上）	-	件数増加に向けた普及啓発を実施中（8月末時点登録件数 318）	事業の拡大・継続	-	大阪の「食」でおもてなし受入環境整備事業費（予算：11,200千円）	-
31	民間との連携による食の魅力発信	大阪市、民間事業者	民間事業者等との連携により、大阪の食の魅力を活用した新たな大阪ならではの観光コンテンツを開発する。	観光魅力の向上	・株式会社ぐるなびとの包括連携協定に基づく協働事業の実施 ・食を活かした着地型観光コンテンツの実施	-	株式会社ぐるなびとの包括連携協定に基づく協働事業を実施。食を活かした着地型観光コンテンツの実施準備が進捗している。	事業の拡大・継続	-	-	食を活用した観光魅力開発事業（予算：2,609千円）
32	天満・天神橋地域の魅力発信	大阪市	大阪天満宮・大阪くらしの今昔館・天満天神繁昌亭・天神橋筋商店街など、地域の都市魅力資源を活かし、天満・天神橋地域の魅力を広く発信する。	観光客の誘致強化	大阪くらしの今昔館入館者数：500千人	-	・天満・天神橋地域の特性を活かした様々なイベントを実施するとともに、大阪くらしの今昔館では、インバウンドの受入環境を整備するなど、観光客の誘致強化に向けておおむね順調に進んでいる。	事業の拡大・継続	-	-	住まい情報センター事業のうち今昔館分経費（予算：61,258千円）
33	観光魅力向上のための歴史・文化的まちなみ創出事業	大阪市	船場地区において、歴史的・文化的な建築資源周辺の無電柱化や周辺景観と調和した道路整備を実施するとともに、回遊性向上の取組み等を実施する。	観光魅力の向上	・芝川ビル周辺、大阪俱樂部周辺の2箇所の周辺景観と調和した道路整備及び道修町通の1箇所の無電柱化 ・民間団体によるイベント等、周遊性を促す事業の実施を支援	-	・芝川ビル周辺、大阪俱樂部周辺の2箇所の道路整備を実施 ・道修町通の無電柱化工事を実施 ・有識者会議を実施するため関係機関と調整中	事業の拡大・継続	-	-	観光魅力向上のための歴史・文化的まちなみ創出事業（予算：435,163千円） 【参考】経済戦略局（予算：163千円） 建設局（予算：435,000千円、前年度からの繰越額：183,431千円）
34	恒常的なまちの魅力向上支援事業補助金	大阪府	大阪ミュージアムの取組みの一環として、住民参加によるまちの魅力向上とホスピタリティの向上に資することを目的に、地域が主体となった恒常的なまちの魅力向上及び景観形成の取組みを支援する。	住民参加によるまちの魅力向上・景観形成	補助事業実施団体数：2団体以上	-	概ね当初の計画通りに進んでいる。	事業の拡大・継続	-	大阪ミュージアム推進事業（うち まちの魅力づくり支援）（予算：6,000千円）	-

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度 2018

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額	
35	Wi-Fi設置の拡充	大阪府、大阪市、大阪観光局、民間事業者、市町村	大阪観光局において、Osaka Free Wi-Fiの整備を促進する。 また、府においては、大阪観光局が設置を促進しているOsaka Free Wi-Fiについて、府内で外国人旅行者をはじめ、多数の旅行者を呼び込む意欲のある地域について、エリアを限定して集中的に整備を実施するため、補助金を交付する。	・まちの魅力向上 ・観光客の利便性・回遊性の向上	2019年3月終了時 認証数：2,400万認証	-	府の補助事業については、Osaka Free Wi-Fiの整備に係る補助申請に対し、補助金の交付決定を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	-	Osaka Free Wi-Fi設置促進事業 (予算：46,000千円)	大阪観光局事業（予算：320,000千円）の一部
36	公共交通機関等と連携した受入環境の整備	大阪府、民間事業者	乗継利便性の向上を図るため、乗継ぎ駅における案内モニターの設置や経路床面における表示等、旅行者の利便性向上に向けた環境整備を促進。	外国人利用者の利便性が向上し、来訪者が増加	目標補助実施箇所数 3 駅	-	鉄道事業者により、乗継利便性向上を図る案内モニターの設置や床面案内表示等を整備中。	事業の拡大・継続	-	公共交通機関等と連携した受入環境整備事業 (予算：24,300千円)	-
37	観光公衆トイレの整備促進	大阪府、民間事業者、市町村	市町村が実施する観光公衆トイレの設置及び洋式化のための改修に係る経費について補助金を交付する。	・まちの魅力向上	・来阪外国人旅行者数 1,181万人 ・延べ宿泊者数：3,392万人	-	市町村が実施する観光公衆トイレの設置及び洋式化のための改修に係る補助申請に対し、補助金の交付決定を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	-	市町村観光振興支援事業 (予算：80,000千円)	-
38	宿泊施設における「おもてなし」環境の整備事業	大阪府、民間事業者	府内の宿泊施設を対象に、施設内の案内表示等の多言語化やトイレの洋式化など、宿泊客の利便性や満足度の向上に繋がる取組みに対し支援を行うとともに、特区民泊施設については、認定促進につなげるため、消防設備の整備等についても支援を行う。	・宿泊客の利便性や満足度の向上	・来阪外国人旅行者数 1,181万人 ・延べ宿泊者数：3,392万人	-	現在、交付決定審査中であるが、概ね予定どおり。	事業の拡大・継続	-	宿泊施設のおもてなし環境整備促進補助金 (予算：40,000千円)	-
39	歩行者案内標識整備	大阪市	鉄道駅から主要集客施設までのルート上に歩行者案内標識を整備することを基本とし、特に魅力向上を図る地域（重点エリア）においては、各地域の特性を踏まえたサイン計画を策定し、都市魅力の発展へとつなげる。	来街者の回遊性・利便性の向上	歩行者案内標識の整備	-	事業計画に基づく整備を今年度より行うために、各関係先と調整中。 次年度以降の整備予定箇所について、整備計画の検討および各関係先との調整を実施中。	事業の拡大・継続	-	-	交通安全施設等整備（歩行者案内標識） (予算：40,000千円)
40	「トラベルサービスセンター大阪」の運営	大阪府、大阪観光局、民間事業者	来阪旅行者の多様化するニーズに応えるため、民間が実施するサービスと連携し、観光案内のみならず旅行時のトラブルにも対応するなど、旅行者の利便性向上と安心・安全をワンストップで提供する「トラベルサービスセンター大阪（愛称：おもてなしステーション）」をJR大阪駅構内において運営。	・観光客の利便性や満足度の向上、府内各地への誘客 ・リピーターの確保	・「トラベルサービスセンター大阪」の円滑な運営	-	大きく相談件数が伸びた平成29年度並みの来所状況であり、引き続き観光客の利便性向上に資することとなっている。	事業の拡大・継続	-	トラベルサービスセンター大阪運営事業 (予算：35,202千円)	-
41	観光案内所の運営	大阪府・大阪市・大阪観光局・民間事業者・市町村	大阪観光局において、観光案内所（大阪観光案内所・難波観光案内所）の運営を行うとともに、府域の観光案内所のネットワーク化に向けた検討を行う。	観光案内機能の充実	大阪観光案内所及び難波観光案内所の機能充実による来所件数の増加	-	大阪観光案内所については、「トラベルサービスセンター大阪」として移転拡張を行い、運営している。 難波観光案内所については、難波駅周辺空間開発に合わせた方向性を検討中。	事業の拡大・継続	-	大阪観光局運営事業（予算：180,000千円） 大阪観光局運営事業（大阪版DMO）（予算：140,000千円）の一部 トラベルサービスセンター大阪運営費負担金（予算：35,202千円）	大阪観光局事業（予算：320,000千円）の一部

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度 2018

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
42	観光客への情報提供機能の充実	大阪府	日本人旅行者を含む多くの来阪旅行者に、本国語若しくは使用言語による観光マップを見ていただくことで、大阪の「おもてなし」精神を伝えるとともに、大阪府内全域をスムーズかつ安心して移動してもらうため、多言語マップを作成、配布する。	・観光客の利便性や満足度の向上、府内各地への誘客 ・リピーターの確保	多言語マップの配布	-	大阪観光局事業として、府内の案内所への配布などにより、観光客の利便性向上に寄与している。	事業の拡大・継続	-	-	
43	観光案内板等の整備促進	大阪府、市町村、民間事業者	市町村が実施する多言語による観光案内板の設置・改修に係る経費について補助金を交付する。	・まちの魅力向上	・来阪外国人旅行者数 1,181万人 ・延べ宿泊者数：3,392万人	-	市町村が実施する多言語による観光案内板の設置改修に係る補助申請に対し、補助金の交付決定を行うなど、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	-	市町村観光振興支援事業 (予算：80,000千円)	
44	観光案内板等の掲載情報の更新等	大阪市	外国人観光客にとって需要のある場所に設置した観光案内板を、より分かりやすく、利便性の高いものへと更新し、観光情報の提供や周辺案内の充実を図る。	観光客の回遊性・利便性の向上	観光案内表示板の地図等掲載情報を適宜更新	-	現在設置している22基の盤面更新について、年度末の完了に向けて作業を行う。	事業の拡大・継続	-	観光案内表示板の整備事業 (予算：3,037千円)	
45	観光ボランティアの育成	大阪府、民間事業者	市町村が実施する観光ボランティアの育成事業（研修等）に係る経費について補助金を交付する。	・まちの魅力向上	・来阪外国人旅行者数 1,181万人 ・延べ宿泊者数：3,392万人	-	市町村が実施する観光ボランティアの育成に係る補助申請を市町村に対し呼びかけを行っている。	事業の拡大・継続	-	市町村観光振興支援事業 (予算：80,000千円)	
46	観光ボランティアガイドとの連携	大阪市	大阪観光局及び大阪観光ボランティアガイド協会との連携により、大阪城公園内での観光案内を行い、大阪のホスピタリティの醸成を図る。	ガイド利用の促進	大阪城内外ガイド利用人数 前年度比同数以上（2017年度：184,158人）	-	ボランティアガイドを30人増員し、通常ガイド・イベントガイドの継続実施のほか、9月にまち歩きガイドを予定している。	事業の拡大・継続	-	大阪城エリア観光拠点化事業 (大阪城公園内特設案内所における観光案内業務の分担金) (予算：2,200千円)	
47	多言語対応の強化	大阪府、民間事業者、大阪観光局	府内の宿泊施設等を対象に、施設内の案内表示等の多言語化などの取組みを支援するとともに、府内の飲食店が利用できる多言語メニュー作成支援システムを構築し、多言語メニュー設置店を増やすことで外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える。	・外国人旅行者の利便性や満足度の向上	・来阪外国人旅行者数 1,181万人 ・延べ宿泊者数：3,392万人 ・府内の飲食店のシステム登録数：2,500件（府内の飲食店の5%以上）	-	宿泊施設に対する補助制度については、現在、交付決定審査中であるが、概ね予定どおり。多言語メニューシステムについては、件数増加に向けた普及啓発を実施中（8月末時点登録件数 318）	事業の拡大・継続	-	宿泊施設のおもてなし環境整備促進補助金 (予算：40,000千円) 大阪の「食」でおもてなし受入環境整備事業費 (予算：11,200千円)	
48	観光バス乗降場環境整備	大阪市	観光バスを利用して中央区ミナミエリアを訪れる国内外からの観光客が、ミナミエリアを円滑に周遊できるよう、日本橋観光バス乗降スペース付近に観光案内表示を設置し、案内を充実する。 また、観光客の滞留スペースや安全・安心を確保するため、日本橋において歩道拡幅を行う。	観光客の利便性・安全性の向上	案内板の掲載情報の更新等。 日本橋歩道拡幅工事を2018年8月末までに完了する。	-	日本橋歩道拡幅工事について、計画通り、2018年8月末に工事完了予定。	事業のスクラップ	-	外国人等観光客受入環境整備事業 ・建設局：日本橋歩道拡幅工事費（予算：0千円、前年度からの繰越額：28,064千円）	
49	外国人旅行者の災害時における安全確保	大阪府・市町村・民間事業者	外国人旅行者が災害発生時に必要な情報入手できる環境の整備及び行政、観光施設・宿泊施設等、関係者の役割分担によるサポート体制の構築	災害情報を入力しやすい仕組みづくりとともに、災害時の円滑な支援体制を構築し、外国人旅行者が安心して旅行できる環境づくりをめざす	・府内観光案内所等で緊急時お役立ち情報ポータルサイトの広報カードを配布 ・市町村及び観光関連事業者に対して、「府内観光関連事業者向け災害時における外国人旅行者支援フロー（案）」及び「外国人旅行者の安全確保・帰国支援に関するガイドライン」の周知啓発を実施	-	昨年度策定した「府内観光関連事業者向け 災害時における外国人旅行者 支援フロー（案）」及び「外国人旅行者の安全確保・帰国支援に関するガイドライン」の周知啓発を実施するため、府内で市町村や観光関連事業者を対象とした説明会を開催する予定。また、情報発信機能を強化するため、ポータルサイトの見直しを図るとともに、広報カード等を活用し、周知啓発の取組みを一層推進する。	事業の拡大・継続	-	外国人旅行者安全確保事業 (予算：914千円)	



## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

										年度	2018		
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市		
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額		
50	文化・観光、商業施設等の開館・営業時間の延長	大阪府・民間事業者	国内外からの観光客の要望の多いナイトカルチャーを発掘・創出するため、主にインバウンドの観光客を対象とした夜間公演等のナイトカルチャー事業に取り組む事業者に対し、事業の立ち上げ等に必要経費を補助する。	夜間公演等の充実支援等を通じて、国内外からの旅行者の要望の多いナイトカルチャーを発掘・創出する。			夜間公演等の事業の立ち上げや継続に向けた取組みに対し、補助を実施	-	概ね当初の計画通りに進んでいる。	事業の拡大・継続	-	ナイトカルチャー発掘・創出事業 (予算：38,060千円)	-
51	イベント・公演等の開演時間の繰り下げ	民間事業者	国内外からの観光客の要望の多いナイトカルチャーを発掘・創出するため、主にインバウンドの観光客を対象とした夜間公演等のナイトカルチャー事業に取り組む事業者に対し、事業の立ち上げ等に必要経費を補助する。	夜間公演等の充実支援等を通じて、国内外からの旅行者の要望の多いナイトカルチャーを発掘・創出する。			夜間公演等の事業の立ち上げや継続に向けた取組みに対し、補助を実施	-	概ね当初の計画通りに進んでいる。	事業の拡大・継続	-	ナイトカルチャー発掘・創出事業 (予算：38,060千円)	-
52	ランドマークのライトアップの時間延長・創出	大阪府、民間事業者	ランドマークのライトアップの時間延長・創出による夜間のまち歩きやナイトクルージングの魅力向上のため、ランドマークのライトアップの現状把握に努め、民主導の取組みを推進する。	ランドマークのライトアップの時間延長・創出による夜間のまち歩きやナイトクルージングの魅力向上			ランドマークのライトアップの時間延長・創出	-	4月13日開催の「光のまちづくり推進委員会」において、2018年度の活動内容について承認され、概ね予定どおり進捗している。	事業の拡大・継続	-	-	-
53	MICE誘致の推進	大阪府・大阪市・大阪観光局・経済団体・民間事業者	官民が一体となって、ターゲット等を明確にした方針に基づき戦略的にMICE誘致を展開するとともに、大阪におけるMICE受入体制の充実を図る。	誘客促進			MICE推進委員会の開催とともに、MICE誘致推進に向けた関係機関によるネットワーク強化	-	ソフトマナーに関する国際会議の大阪への誘致の成功のほか、大阪への戦略的なMICE誘致の推進に取り組むため、府・市・経済団体と連携して「大阪MICE推進委員会」開催にむけて、調整中。また、グローバルMICE都市・都市力強化対策本部（事務局：観光庁）へ参加（6月）し、国、他都市の取組状況など情報収集を行った。	事業の拡大・継続	-	大阪観光局運営事業 (予算：180,000千円、決算：-千円) 大阪観光局運営事業 (大阪版DMO) (予算：140,000千円、決算：-千円)の一部	大阪観光局事業 (予算：320,000千円、決算：-千円)の一部
54	大阪観光局運営事業（大阪版DMO推進事業）	公益財団法人大阪観光局（大阪版DMO）	大阪観光局において、観光のプロ組織による観光振興事業を展開し、新たな観光関連産業の振興や地域の活性化、交流を通じたにぎわいづくりに取り組むとともに、大阪観光局を「大阪版DMO」とし、戦略的なマーケティング、情報ネットワークや観光案内機能のワンストップ化、効果的なプロモーションや地域と連携したMICE誘致などの事業に取り組む、大阪への来訪者・宿泊者数を増加させ経済効果の向上を図る。	誘客促進			大阪版DMO戦略の本格実施	-	国地方創生交付金を活用し、閑空アンケート調査を継続して行うとともに、観光関連ビッグデータやWebマーケティングデータの活用、DMO事業戦略に沿ったプロモーションなどを行った。	事業の拡大・継続	-	大阪観光局運営事業 (予算：180,000千円、決算：-千円) 大阪観光局運営事業 (大阪版DMO) (予算：140,000千円、決算：-千円)	大阪観光局事業 (予算：320,000千円、決算：-千円)
55	都市魅力をみんなで支えるネットワークづくり	大阪府、経済団体、民間事業者	文化及び都市魅力創造をみんなで支える仕組みとして、行政、経済界、在阪メディア及び文化・都市魅力創造関係団体が連携し、観光、文化、スポーツ、国際化など様々な都市魅力活動を支えるネットワークづくりの取り組みを行う。	都市魅力活動を支えるネットワークづくり			府城市町村及び関係団体との情報共有・意見交換の場として、おおさか都市魅力・観光ネットワーク会議総会を開催した（平成30年度開催実績1回（H29.8未現在））。	-		事業の拡大・継続	-	-	-

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度 2018

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市		
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額		
56	大阪市版TID (Tourism Improvement District) モデル創出事業	大阪市	地域が自らの資金を原資として観光地域まちづくりに取り組む仕組みである「大阪市版TID (Tourism Improvement District)」の構築に向け、モデル創出に向けた事前調査を実施することにより、翌年度以降のモデル事業実施につなげ、将来的に、地域内の滞在者数・宿泊者数の増加及びそれに伴う地域内経済の活性化をめざす。	地域内の滞在者数・宿泊者数の増加及びそれに伴う地域内経済の活性化	モデル実施計画の策定	-	-	・大阪・光の饗宴における大阪市版TIDモデル事業実施計画案策定業務委託を発注し検討調査するとともに、引き続き大阪市版TID制度検討会を開催するなど制度構築に向け詳細検討を進めている。おおむね計画通りに進捗している。	事業の拡大・継続	-	-	大阪市版TID (Tourism Improvement District) モデル創出事業 (予算：8,000千円)	
57	国内外への戦略的なプロモーションの展開	大阪府・大阪市・大阪観光局	大阪観光局において、マーケティングに基づき、観光客や市場ごとのターゲットに応じた効果的なプロモーション活動を展開し、国内外からの誘客の促進を図る。	誘客促進	来阪外国人旅行者数：1,181万人 (2018年)	-	-	DMO事業戦略に基づき、ターゲット国に対して、現地旅行博への参加やSNSを活用した観光プロモーションを実施。また、市場別プロモーション以外にも、クルーズの誘致活動や、ムスリム観光客への受入推進やプロモーションのためのPRツールの制作、ナイトツーリズム振興のための夜の観光体験プログラムを紹介するPRツールの制作など、テーマや特定市場に向けたプロモーションを実施した。	事業の拡大・継続	-	-	大阪観光局運営事業 (予算：180,000千円、決算：-千円) 大阪観光局運営事業 (大阪版DMO) (予算：140,000千円、決算：-千円)の一部	大阪観光局事業 (予算：320,000千円、決算：-千円)の一部
58	各種プロモーションツールを活用した大阪の情報発信の強化	大阪府・大阪市・大阪観光局	大阪観光局において、インターネットやSNS、ガイドブックやマップなどの各種プロモーションツールを活用し、多言語による効果的な情報発信を展開する。	誘客促進	来阪外国人旅行者数：1,181万人 (2018年)	-	-	7月より、「OSAKA-INFO」において人工知能AIチャットボットを用いた大阪周遊バスに関する案内を開始。	事業の拡大・継続	-	-	大阪観光局運営事業 (予算：180,000千円、決算：-千円) 大阪観光局運営事業 (大阪版DMO) (予算：140,000千円、決算：-千円)の一部	大阪観光局事業 (予算：320,000千円)の一部
59	大阪ミュージアムの推進	大阪府、市町村	大阪府全体を屋根のないミュージアムに見立て、魅力あるまちなみや自然、祭りやイベントなどを「展示品」や「館内催し」として登録し、その魅力を磨き・際立たせ、内外に発信し、府域への集客促進を図る。	①ホームページ等での情報発信、コンテンツの充実 ②府域での周遊・集客の促進 ③住民参加によるまちの魅力向上・景観形成 (No.34再掲)	①ホームページのアクセス件数：月2万件以上 ②参加者満足度：90%以上 (No.61再掲) ③補助事業実施団体数：2団体以上 (No.34再掲)	-	-	概ね当初の計画通りに進んでいる。	事業の拡大・継続	-	-	大阪ミュージアム推進事業 予算：31,951千円 ※No.34とNo.63を含む。	-
60	大阪都市景観建築賞 (大阪まちなみ賞)	大阪府、大阪市	<目的> 美しく、個性と風格のあるまちの景観づくりを進めていくために、府民、市民等から周辺景観の向上に質し、かつ、景観上優れた建物や建物を中心としたまちなみを募集し、表彰することで地域資源を生かした大阪の魅力発信及び府民の景観に対する意識向上を図る。(設計者による自薦応募も可) <運営> 大阪府・大阪市・(公社)大阪府建築士会・(公社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部・(公社)日本建築協会の共催で行い、運営資金は建築関係団体及び屋外広告物業団体等による協賛による。	・景観に対する意識向上 ・美しく、個性と風格のあるまちの景観づくりの推進による都市の魅力向上	景観に対する意識向上を図るため、府民や市民による推薦応募を促進し、賞の周知を図る。	-	-	推薦募集に対して広く大阪府下の建物・まちなみに対する推薦があった。 現在、表彰案件について整理中。	事業の拡大・継続	-	-	予算事業なし	予算事業なし

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

										年度	2018
整理 番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト 概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予決額		予算事業名・予決額	
61	フィルムカウンシル 事業の充実	大阪府、大阪 市、経済団体、 大阪観光局、 民間事業者	大阪観光局において、大阪への映画・ドラマ等のロ ケーションを誘致するとともに、ロケ地紹介やボラン ティアエキストラを募集する等、各種撮影支援を行 う。	大阪の知名度 向上	・ロケ誘致・支援数目標：147件 ・大阪FCのHP閲覧数(PV)： 130,000件	-	6月末支援作品数：30件、6月末HP閲覧数：44,052 件 『バンク侍・斬られて候』のロケ地におけるパネル展示、北大 阪急行駅へのポスター貼付を実施。ロケーション誘致部会 向けに勉強会を開催(5月)。	事業の拡大・継 続	-	大阪観光局運営事業 (予算：180,000千 円、決算：-千円) 大阪観光局運営事業 (大阪版DMO) (予 算：140,000千円、決 算：-千円)の一部	大阪観光局事業(予 算：320,000千円)の 一部
62	観光バス駐車場の 確保・充実	大阪市	観光バスの利用が多いミナミエリアへアクセスしやす い場所に観光バス駐車場を設け、外国人観光客の 急増に伴う受入環境の整備を図る。	外国人観光客 の受入環境の 整備	浪速区幸町において、民間事業者 による観光バス駐車場運営を行い、 10台分の駐車場を確保する。	-	幸町用地について、民間事業者による駐車場運営を継 続。	事業の拡大・継 続	-	-	外国人等観光客受入環 境整備事業 (予算：17,626千円)
63	魅力資源の結び つけによる府内 各地の周遊性 向上事業	大阪府	大阪ミュージアム登録物を活用して、地域魅力を府 内外に発信するとともに、府域への集客・周遊を促 す事業を展開する「地域魅力発信事業」を実施。	府域での集客・ 周遊の促進	集客事業の参加者数：3,000人 以上	-	国内外からの観光客を対象とする企画・内容を求めるな ど、今年度から新たな展開に取り組んでいる。	事業の拡大・継 続	-	大阪ミュージアム推進事業 (うち 地域魅力の発 信) (予算：7,141千円)	-
64	世界に発信する 「大阪文化の祭 典」	大阪府、大阪 市、経済団体 等	大阪の都市魅力を創造し、文化を核とした大阪 発展のムーブメントを起こすため、平成29年度に初 開催。府内のホール・劇場や公園に、上方伝統 芸能、上方演芸等の国内外のコンテンツを一堂に 集め、合わせて実施することで、文化を楽しむ機会 を創出するとともに、府内全域に多くの観光客を呼 び込む。 大阪が持つ多彩で豊かな文化の魅力を積極的に 発信するほか、国内外から注目されるコンテンツを呼 び込むなど、国際エンターテインメント都市の実現を 目指すとともに、大阪の都市格の向上を図り、 2025年大阪万博につなげていく。	大阪の魅力を 発信、誘客促 進	伝統芸能、演劇、音楽など、府内 外のコンテンツを一堂に集め、万博 記念公園をはじめ、府内全域で各 種公演等を集中的に実施する。	-	事業実施に向け、選定事業者と準備を進めるとともに、 在阪放送局9社とも連携した取り組みを進めている。	事業の拡大・継 続	-	大阪文化フェスティバル事 業費 (予算：160,556千 円)	-
65	アートのスポット の創出・発信	大阪府	公共の空間や施設内において、都市魅力を向上 させ、観光集客につながるようなアート 作品を設置することにより、大阪に新たな名所 (アートのスポット)の創出を目指す。	大阪の魅力を 発信、誘客促 進	設置作品(1点)の選定	-	作品選定手法等について調整を進めている。	事業の拡大・継 続	-	予算事業なし	-
66	留学生への大阪 文化の魅力発 信	大阪府	留学生や海外からの旅行者に大阪文化の魅力 を伝えていくためのプログラムを企画し、提供する。	留学生や海外 からの旅行者の 大阪文化に対 する理解の促進	留学生や海外からの旅行者が大阪・日本 の文化を鑑賞・体験できる、魅力的な プログラムの展開	-	大阪文化芸術フェス2018での実施に向けて調整中。	事業の拡大・継 続	-	大阪文化フェスティバル事 業費の中で実施 (予算：160,556千 円)	-

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2018
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市	
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額	
67	美術館・博物館の魅力向上(一部再掲)	大阪市	市立美術館、東洋陶磁美術館、歴史博物館、自然史博物館、科学館において、博物館の魅力向上に向けた展示環境の改善など、計画的な施設の改修整備の取り組みを進める。 市立美術館他4館において、『大阪市ミュージアムビジョン』に掲げる、①大阪の知を拓く、②大阪を元気にする、③学びと活動の拠点へを目標に、「都市のコアとしてのミュージアム」を実現することを通じて、都市魅力の向上と新たな文化・人材の創出に貢献する。(No.20「大阪市立美術館の魅力向上」を含む) あわせて、ビジョンの実現に最適の経営形態として地方独立行政法人設立(2019年4月予定)をめざし、その制度設計を行う。	・ミュージアムビジョンに定める戦略やアクションプランの実現による博物館魅力の向上。 ・2019年度からの、対象施設の地方独立行政法人による運営の確実な実現。		・所蔵作品の計画的な修復や展示環境の改善・魅力的な展示の実現を行う。 ・ビジョンの「戦略的な広報を展開する」ため、国内外に情報を発信。 ・アクションプランの地方独立行政法人中期目標への反映。	－	・計画的な所蔵作品の修復を進め、鑑賞機会の増加や展示品の充実に取り組んでいる。《再掲》 ・2019年4月1日の地方独立行政法人設立に向け、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	－	－	・博物館施設の地方独立行政法人化(予算:169,079千円) ・博物館施設指定管理代行料等(大阪城天守閣にかかる事務費等を除く)(予算:1,576,936千円) ・大阪市立美術館の魅力向上(予算:32,128千円)
68	文化魅力の情報発信	大阪府、大阪市、経済団体等	「大阪ならではの」リーディング事業の実施等を通じて、大阪文化の魅力を発信していく。	大阪の文化魅力を発信		伝統芸能、演劇、音楽など、府内外のコンテンツを一堂に集め、万博記念公園をはじめ、府内全域で各種公演等を集中的に実施する。	－	大阪文化芸術フェス2018において、大阪文化の魅力が発信できるよう調整を進めている。	事業の拡大・継続	－	大阪文化フェスティバル事業費の中で実施(予算:160,556千円)	－
69	大阪らしい芸術文化の魅力の創出	大阪市	国が主導する文化プログラムの動きを踏まえた取組みとして、大阪の文化資源である伝統芸能を観光資源として活用するためのコンテンツ創造、並びに地域の魅力を発信する事業を実施する。	大阪文化の活性化等をめざすとともに、大阪市内へのビクター増による大阪の経済の成長を促す	モデル公演への来場者数 450人/年		－	今年度は、H29実施の国内ビジター向けモデルプログラムのブラッシュアップに加え外国人向けモデルプログラムの試行実施にも取組む。モデルプログラムの試行実施(3回)及び有識者会議の開催を行うこととなり、概ね事業進捗は図られている。	事業の拡大・継続	－	－	伝統芸能を活用した大阪の魅力開発促進事業(予算:4,396千円)
70	アーツカウンシルの機能強化	大阪府、大阪市	大阪の文化力の向上につなげるため、アーツカウンシルの運営体制強化を図り、府市文化事業を評価・審査するとともに、企画や調査機能を高め、アーティスト等へのサポート、府内での文化プログラムの推進や効果検証等に取り組む。	大阪文化にふさわしい文化施策の推進	大阪府市に対する新たな施策の企画の提案等に向けた調査・検討の実施		－	府市の文化事業や補助事業の審査・評価等を随時実施している。	事業の拡大・継続	－	大阪アーツカウンシル運営等事業(予算:11,593千円)	大阪アーツカウンシル等による文化行政の推進(予算:6,999千円)
71	若手アーティストらの発表機会の提供	大阪府	芸術文化の担い手を発掘育成するため、若手プロデューサー等のネットワークの構築や、作品発表の機会の拡大を目指す。	芸術文化の担い手の育成・支援	芸術文化の担い手を発掘育成するための新たな方策の検討。		－	芸術文化の担い手を発掘育成するための新たな方策について、既存事業の再構築等も含めた検討を進めている。	事業の拡大・継続	－	－	－
72	芸術文化を将来へ継承させる青少年の育成	大阪市	大阪市における各区の特性に応じた質の高い芸術文化メニューを青少年対象に実施することを通じて、中長期的に芸術文化にかかる青少年育成が定着することをめざす。	芸術文化を将来へ継承発展させる青少年の育成	各区の特性や文化資源を活用した特色ある事業を実施できたと考えられる区長の割合:60%以上		－	計画どおり事業が進捗している。今年度実施していない区に対しては、次年度に参画しやすくなるため、随時の相談や情報提供を行っている。	事業の拡大・継続	－	－	区と連携した芸術文化青少年育成事業(予算:25,500千円、決算:一千円)

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

										年度	2018
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績	次年度方針案	予算事業名・予算額		予算事業名・予算額	
73	ラグビーワールドカップ2019の大阪開催	大阪府、市町村	ラグビーワールドカップ2019大会準備推進組織を設置し、大会運営に係る関係機関との協議・調整や大会に向けた機運醸成を図るための取組みを展開	2019年9月のラグビーワールドカップに向けた開催機運の醸成を図る	トップリーグの試合会場等でのプロモーション活動：30回 ラグビーワールドカップの花園ラグビー場開催に対する府民認知度：75%以上	-	大会1年前となる2018年度については、5月に大会開催500日前に合わせた大会開催PRプロモーションを行った。 9月の1年前、10月26日の花園ラグビー場での日本代表戦に向けて、大会開催のプロモーションを展開するとともに、府域全体で、ホスター展開、マスコミを通じた情報提供、SNSによる情報発信を実施中。	事業の拡大・継続	-	ラグビーワールドカップ2019開催準備事業 (予算：201,360千円) ※全国自治体協賛宝くじ収益金に係る組織委員会拠出金(133,330千円)を含む	-
74	国際的なスポーツイベントなどの誘致	大阪府、大阪市、市町村、民間事業者	大阪のスポーツ都市としてのブランド力を高めるため、注目度の高い国際的なスポーツイベントや合宿を誘致	大阪のスポーツ都市としてのブランド力の向上<府・市>	・合宿誘致活動：20件<府> ・国際競技大会・イベント等の誘致・開催：2件以上<市>	-	・オリ・パラ等事前キャンプ誘致を希望する市町村の活動を適宜支援している。<府> ・国際競技大会やイベント等を計画どおり開催し、大阪のスポーツ都市としてのブランド力向上に寄与している。<市>	事業の拡大・継続	-	オリパラ等事前キャンプ誘致事業(予算：200千円)	スポーツ競技大会の開催(予算：19,200千円)
75	オリ・パラ等事前キャンプ誘致の推進	大阪府、大阪市、市町村	市町村と連携した事前キャンプの誘致やホストタウン登録を推進するため、競技施設等の情報を掲載した広報媒体を作成するとともに、府内競技団体や総領事館等へプロモーションを実施する。	・事前キャンプ誘致の実現<府、市> ・ホストタウン登録の追加<府>	・合宿誘致活動：20件<府> ・ホストタウン登録に係る市町村の取組の支援件数：20件<府> ・既登録市町村間の情報交換の場の設定<府> ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等の事前キャンプ地として決定<市>	-	・オリ・パラ等事前キャンプ誘致を希望する市町村の活動を適宜に支援している。<府> ・市町村に対してホストタウンに関する情報を提供したり、国との連絡調整を図った結果、新規登録2件が実現した。<府> ・イギリス(パラ水泳)オーストラリア(水泳)チームから問合せがあったが、事前キャンプ地として決定には至らなかった。<市>	事業の拡大・継続	-	オリ・パラ等事前キャンプ誘致事業(予算：200千円)	予算事業なし
76	ホストタウンへの登録	大阪市、市町村	大阪市内において、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加する国・地域のホストタウンとして、国に登録し、相互交流を図る。	スポーツによる地域活性化	ホストタウン登録国とスポーツ分野のみならず、文化や国際交流を行い、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催効果を開催後も継承し、交流事業の継続などレガシーを創出する	-	昨年度に引き続き、平成31年2月に開催予定のオーストラリアとの交流会に向けた、関係部署や団体との事前調整を進めている。	事業の拡大・継続	-	-	ホストタウン関係交流事業(予算：1,000千円)
77	オリ・パラ開催に向けた事業の展開	大阪市	オリンピックを大阪から輩出するため、トップアスリートを育成する団体の支援や、障がいのある人もない人も誰もが楽しめる大規模なスポーツイベントの開催などによる機運の醸成を図る。	東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運の醸成	大阪から東京オリンピック代表選手を選出、機運醸成イベントの開催	-	本市スポーツ競技力向上のため、競技大会の開催や人材育成に資する団体等への支援を実施するとともに、昨年度に引き続き、トップアスリートの育成のため、3競技団体を通じて選手の強化育成のため、補助事業を実施。また、パラリンピック競技チームを支援する施策も実施。機運醸成イベントも実施。	事業の拡大・継続	-	-	競技力向上事業(予算：19,456千円)
78	関西ワールドマスターズゲームズ開催に向けた事業の展開	大阪市	大規模なスポーツ大会の開催時に合わせて、一般参加型のスポーツイベント開催による機運の醸成を図るとともに、ワールドマスターズゲームズ2021関西の閉会式開催に向けて取り組む。	ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催に伴う機運醸成を図る	閉会式開催に向け、基本計画を策定する。	-	関西マスターズスポーツフェスティバルを開催し機運を醸成するとともに、大阪市実行委員会を設立するなど、閉会式開催に向けた準備を進めている。	事業の拡大・継続	-	-	市長杯各種大会の開催(予算：29千円) ワールドマスターズゲームズ2021関西(予算：5,475千円) 閉会式実行委員会に係る本市分担金(予算：2,000千円)

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度 2018

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
79	プロスポーツとの連携事業	大阪府、大阪市、大阪観光局、民間事業者	大阪を拠点に活動するプロスポーツチームと連携して、スポーツの振興や産業創出に向け取り組むとともに、都市魅力の発信、観光振興につなげる。	・プロスポーツ観戦を目的とした観光客の誘客促進<府・市> ・プロスポーツチームとの連携によるスポーツ振興及び都市魅力向上<市>	・大阪にゆかりのあるプロスポーツ7チームの年間主催試合での観客者合計数 320万人<府> ・プロスポーツチームが舞洲において管理している施設の集客数68万人<市>	-	・プロスポーツチームと連携したイベントの実施、ポスター等の配布を行っており、現在、様々な機会を通じて、大阪の都市魅力を発信している。<府> ・プロスポーツチームと連携し主催試合の招待や舞洲プロジェクトとして情報発信やスポーツ体験教室などを実施し、都市魅力の創出及び観光振興に寄与している。<市>	事業の拡大・継続	-	予算事業なし	舞洲スポーツ振興事業 (予算：21,000千円)
80	スポーツ情報ネットワークシステム推進事業	大阪府	府民の様々なスポーツニーズに対応するため、スポーツイベント情報、スポーツ施設利用情報、スポーツ団体情報、ボランティア情報等、スポーツに関する様々な情報を提供	スポーツに親しむ府民が増える	アクセス件数：290,000件	-	・アクセス件数は、目標の4割弱となっており、目標達成に向け鋭意努力する。 ・掲載情報は、随時更新している。	事業の拡大・継続	-	スポーツ情報ネットワークシステム推進事業 (予算：2,358千円)	-
81	オリンピック・パラリンピック・バランビクムープメント教育の推進	大阪府、大阪市、市町村	オリンピックやパラリンピックなどのトップアスリートを学校に派遣し、オリ・パラ等の開催に向けた機運醸成やスポーツマンシップの普及	オリンピック・パラリンピック・バランビクムープメント教育の推進を通じた機運醸成<府・市>	・派遣回数：10回程度 学校以外にも地域のスポーツイベント等にも派遣予定。<府> ・トップアスリート等による「夢授業」およびオリパラ教育を281校（小中学校及び高等学校）で実施予定。<市>	-	・「オリンピック・パラリンピック派遣事業」について、事業スキームの検討、派遣講師との調整、派遣先市町村との調整、派遣先とのプログラムの調整等、円滑に事業を実施している。<府> ・オリパラ教育を踏まえたトップアスリート等による「夢授業」を実施しており、計画どおり進捗している。<市>	事業の拡大・継続	-	オリンピック・パラリンピック小学校派遣事業（予算：920千円）	トップアスリート交流事業 (予算：6,391千円)
82	トップアスリート等との連携事業	大阪府、市町村	トップアスリートとの直接的な触れ合いを通じて、子どもたちの運動やスポーツに対する興味・関心を向上	学校の授業以外にスポーツをする児童が増える	協力チーム数：12チーム、派遣校数：150校、参加児童数：12,000名	-	・派遣校数及び参加児童数については、共に目標の3割弱に留まっており、引き続き、協力チームに派遣校数の拡大を要請するとともに、小学校に複数学年での受講を働きかける。	事業の拡大・継続	-	予算事業なし	-
83	スポーツボランティア養成及び派遣事業	大阪府	関係団体との連携により、スポーツボランティアを養成し、要請に応じて各種スポーツ大会に派遣する。	スポーツを「ささえる」機運が醸成される	大阪府登録スポーツボランティアの派遣（35事業、840名）	-	・派遣事業数・参加人数は目標の3割強（参加人数も約3割）に留まっている。 ・研修を通じてボランティアの資質向上を図った。	事業の拡大・継続	-	スポーツボランティア養成及び派遣事業（予算：685千円）	-
83	府民スポーツ・レクリエーション事業	大阪府	広く府民にスポーツ・レクリエーション活動を紹介し、実践する場を提供することにより、スポーツへの参加意欲を喚起する。	成人の運動実施率の向上、健康の保持増進	府民スポーツ・レクリエーション事業への参加者（発表交流会、スポーツ体験会、体力測定会）：15,000名	-	・体力測定会 208人（計2回） ・キッズスポーツ体験会 377人（計2回）	事業の拡大・継続	-	府民スポーツ・レクリエーション事業（予算：6,152千円）	-
85	グローバル人材育成事業	大阪府	・高校生等海外進学支援事業（おおさかグローバル塾）により若者の海外進学を支援する。 ・実践的英語体験活動推進事業（グローバル体験プログラム）を通じて外国人に対する英語でのコミュニケーション感覚・能力の必要性に気付かせ、海外に興味を持つ若者の裾野を広げる。	グローバルな視野をもった若者の育成	・おおさかグローバル塾修了者の海外進学レベルの英語力の習得：90%以上 ・グローバル体験プログラム参加者のうち英語の習得意欲が高まった割合：95%以上、海外に関する関心が高まった割合：95%以上	-	・おおさかグローバル塾については、現時点で約半数が海外進学レベルの英語力を身につけており、引き続き英語力の向上を図る。 ・グローバル体験プログラムについては、概ね参加者に好評を得ており、今後、アンケートの検証を実施する。	事業の拡大・継続	-	高校生等海外進学支援事業（予算：33,499千円） 実践的英語体験活動推進事業（予算：7,885千円）	-

## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

		年度		2018							
整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
86	英語イノベーション事業	大阪市	大阪市立小中学校において、英語教育の強化を図ることにより、自分の考えや意見を英語で伝えることができるコミュニケーション能力を育み、グローバル社会において活躍し貢献できる人材を育成する。	・英語でのコミュニケーション能力育成 ・グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成	中学校卒業段階で英検3級程度以上の英語力を有する生徒の割合：50%以上	-	・小学校低学年からの英語教育を全289校で実施している。 ・小学校英語授業力向上研修を141校（8月末現在）で実施している。今年度内には全ての小学校で研修を実施する予定である。	事業の拡大・継続	-	-	英語イノベーション事業（予算：654,172千円）
87	公設民営学校（国際バカロレア等）の設置	大阪市	国家戦略特区を活用した公設民営学校として、国際バカロレア認定コースを持つ中高一貫教育校を設置する。	国際社会でリーダーシップを発揮して活躍し、大阪の経済成長を牽引する人材の育成	入学者選抜において、中学校は定員の5.0倍以上、高等学校は定員の1.2倍以上の志願者数をめざす	-	・2019年4月の開校に向け、指定管理法人とともに開校準備を進めるとともに、入学希望者数の増加のため、学校説明会の開催などを行っており、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	-	-	公設民営学校（国際バカロレア等）の設置（予算：1,108,403千円）
88	留学生の住まい確保に向けた公的賃貸住宅事業者と大学連携事業	大阪府、民間事業者	留学生受入を実施・予定している大学や大学コンソーシアムと、公的賃貸住宅事業者の間で、公的賃貸住宅をまとめて、賃貸借契約し、大学側が留学生に住宅を提供。これにより住居確保が困難な留学生に対して、安定した住環境の提供が可能となる。	・住環境整備により来訪留学生の利便性の向上	・賃貸借契約等を締結する大学法人1法人（契約戸数1戸以上）	-	契約締結に向けた具体的な話はなくなったものの、大学法人だけでなく代行サービス業者（大学生協等）と賃貸契約ができるよう住宅供給公社法施行規則が現在改正中であるため、改正後、大学生協等に対しても制度の活用を推奨する。	事業の拡大・継続	-	予算事業なし	-
89	外国人留学生との連携拡大及び起業支援	大阪市	国際的な視点・能力をもつ留学生に、大阪市等が開発企画する協働・交流プログラム（ボランティアプログラム）に参加してもらい、地域の国際化・活性化を図るとともに、留学生の地域への愛着を醸成する。 また、起業のきっかけとなるよう支援セミナーを開催し、国際人材の定着を促進する。	地域の国際化、国際人材の定着	・交流プログラム 開催数 2件 参加者総数 50名 参加者アンケート満足度 80% ・協働プログラム 開催数 22件 参加者アンケート満足度 80% ・起業支援セミナー 開催数 2件 参加者総数 70名 参加者アンケート満足度 80%	-	協働プログラムについて、年間目標開催件数22件に対して8月末時点で5件と、開催ペースの遅れは感じられるものの、9月以降の開催件数については順調に確保できている。 交流プログラム及び起業支援セミナーについて、各2件の開催に向けて現在調整中である。	事業の拡大・継続	-	-	外国人留学生との連携拡大及び起業支援（予算：2,928千円）
90	企業における高度外国人材の積極的受入・活用や留学生の就職支援	大阪府、民間事業者	留学生が卒業後に大阪で就職し、高度外国人材として企業のグローバル化や競争力強化につながる活躍ができるよう、大学や経済団体等との連携により、企業の受入促進や留学生の就職支援を実施する。	外国人高度専門人材の受入れ拡大	留学生向け就職対策講座・企業見学会：8回	-	・留学生向け就職対策講座・企業見学会、計8回のうち6～8月に6回実施し、概ね計画どおり進んでいる。9月に2回実施予定。	事業の拡大・継続	-	外国人留学生就職支援事業（予算：1,971千円）	-
91	外国人相談事業の充実	大阪市、大阪府	外国人が安心して快適に生活を営み、大阪を住みやすい都市として認識し、定着を促すため、在住外国人を対象とした専門分野の相談会を実施する。	外国人住民の定着	【大阪府】来場者アンケート（満足度）：90%以上 相談件数：165件以上	-	【大阪府】計画どおり事業進捗している。 【大阪市】電話相談時間を昨年度より延長したことにより8件の実績となり昨年度より増える結果となったが相談件数は伸び悩む結果となった。次年度に向け原因を分析し、その結果次第では再構築も検討する。	事業の拡大・継続	-	外国人行政サービス体制推進委託料（予算：2,581千円）	一日インフォメーションサービス（大阪国際交流センター事業交付金の一部）（予算：200千円）
92	災害時多言語支援センター設置・運営訓練	大阪市、大阪府	災害時に多言語で外国人向けに相談や情報発信を行う多言語支援センターを設置することとし、設置・運営に関する訓練を実施する。また、市町村などの災害時多言語支援体制の充実を図ることにより、外国人が安心して過ごせる社会を実現する。	外国人が安心して安全に生活できる社会を実現し、都市魅力の向上を図る	【大阪府】OFIX災害時通訳・翻訳ボランティア新規登録者数：30名、市町村における災害時多言語ボランティア確保事業：5市町村 【大阪市】災害時通訳・翻訳ボランティア研修会の実施件数1回以上、防災訓練の実施件数2回以上 市関係局会議の開催回数3回以上	-	【大阪府】6月18日の地震発生により、災害時多言語支援センターを初めて設置し、外国人への多言語での情報発信や24時間相談対応を実施。外国人への迅速で適切な情報提供について検証が必要。 【大阪市】おおむね計画どおり進捗しており、防災訓練・研修会については、1～3月の実施に向けて取り組んでいる。また、関係局会議は年内に2回実施予定である。	事業の拡大・継続	-	市町村災害時多言語ボランティア確保支援事業（予算額：500千円）	災害時外国人支援ネットワーク整備（大阪国際交流センター事業交付金の一部）（予算：947千円）

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2018
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
93	府内大学連携型災害時多言語支援人材確保事業	大阪府	災害時に多言語支援に従事できる語学ボランティア人材を確保するため、府内大学との協定締結を進め、ボランティアの登録と研修を実施する。	府内大学と災害時多言語支援に関する協定を締結	災害時多言語支援に関する協定を締結した大学数：1大学	-	引き続き協議を進める。	事業の拡大・継続	-	予算事業なし	-
94	在在外国人に対する情報発信の充実	大阪市	在関西総領事館に対し、防災関連施設の視察案内や取組紹介等による情報提供を行い、各総領事館を通じた在在外国人に対する防災情報の発信を推進する。	情報提供による総領事館等との連携強化	情報提供1回	-	計画どおり進捗している。	事業の拡大・継続	-	-	関西領事団との連携（予算：458千円）
95	多文化共生施策の推進	大阪市	多言語等による情報提供・流通経路を充実し、外国籍住民に行政情報等が伝わるようにする。また、区役所やNPO等との連携を図り、地域住民と外国籍住民の交流の場づくり等を行い、地域住民の多文化共生に関する理解促進や外国籍住民の地域参加のきっかけをつくる。	「大阪市は外国籍住民が地域社会の一員として、様々な相談や情報提供を受けられることなど、充実した生活が営めるまち」と思われる市民及び外国籍住民の割合が増えること。	・大阪市ホームページや区役所窓口における「やさしい日本語」や多言語での案内の充実。 ・多文化共生の場づくり・人づくり推進事業実施区における防災等生活に密着した学習会の実施に向けた区役所への支援等の実施。	-	・多言語等による情報発信及び窓口業務における手続き案内の多言語化について、計画通り進捗している。 ・識字・日本語交流教室での「やさしい日本語」による防災学習会の実施に向けて計画通り調整を進めている。	事業の拡大・継続	-	-	多文化共生施策の推進（予算：457千円）
96	グローバルイノベーション創出支援事業	大阪市	うめきた先行開発区域の知的創造拠点「ナレッジキャピタル」内に開設した「大阪イノベーションハブ」において、世界から人材・資金・情報を引き込み、人材発掘、起業家マインド醸成、国内外ネットワーク構築、プロジェクト創出支援、海外ワークショップ、国際会議等のイノベーション創出を支援する事業を実施する。	・拠点の趣旨に賛同し新たに活動に参画又はSNS等でつながる人数： 50,000人 ・グローバル展開を見込まれるプロジェクト創出・推進支援件数：50件	ピッチイベント開催回数：50回	-	新たに海外のエンジニアコミュニティを大阪に誘致するなど、着実にプログラムを実施している。また、支援してきた起業家をロールモデルとしてWEBサイトに掲載する「起業家ライブラリ」を充実させるなど、情報発信の強化に取り組んでいる。	事業の拡大・継続	-	-	グローバルイノベーション創出支援事業（予算：203,426千円）
97	大阪トッパーナー育成事業	大阪市	医療・介護・健康分野等において、新たな需要の創出が期待できる製品・サービスのプロジェクトに対して市が認定を行い、市場投入から販路拡大まで担当コーディネーターが伴走し、必要に応じたオーダーメイド型の継続的サポート（ハンズオン支援）を実施する。	認定プロジェクトにおける新たな売上創出19億円（2017～2019年度）、プロジェクト認定を受けた企業のうち、新製品・サービスの事業化促進に効果があったと回答した割合：95%	プロジェクト新規認定件数：10件	-	今年度のプロジェクト新規認定に向け、1次審査、セミナー、フレッシュアップディスカッション、2次審査を実施するなど、着実に事業を進めている。	事業の拡大・継続	-	-	大阪トッパーナー育成事業（予算：70,792千円）



## 大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

											年度	2018	
整理 番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト 概要	アウトカム	成果指標		中間評価		期末評価	(参考)大阪府		(参考)大阪市	
					目標	実績		次年度方針案		予算事業名・予決額	予算事業名・予決額		
98	水・環境分野における大阪関西企業の海外展開支援	大阪市	海外都市の多様な水・環境問題の解決に向けて、行政が持つ都市経営のノウハウ及び民間が持つ先進的な要素技術を活用しながら、大阪・関西企業の技術にかかる案件形成・事業化支援に向けた活動等により企業の海外展開を支援し、地域経済の活性化を図る。(大阪 水・環境ソリューション(OWESA)による官民連携の取組)	官民連携による海外の水・環境問題への貢献と大阪・関西企業の海外展開を支援。	海外現地調査：3回、海外からの視察・見学受け入れ：1回 海外技術セミナー：3回	-	国・JICAなどの事業に参画し、官民連携による現地調査、本邦研修の実施などの取組みを進めており、引き続き大阪・関西企業の海外展開を支援していく。	事業の拡大・継続	-	-	水・環境ソリューション機構への分担金 (建設局 予算：3,500千円) (水道局 予算：3,500千円) (環境局 予算：3,500千円)		
99	ビジネスパートナー都市交流事業	大阪市	大阪府がアジア太平洋地域の13の主要経済都市と締結しているビジネスパートナー都市(BPC)提携のネットワークを活用し、在阪中小企業に対する国際ビジネス活動の支援を行う。 また、年1回、BPC各都市が一室に集まるラウンドテーブルを開催し、同期間に併せて現地での商談会を実施するとともに、海外見本市への出展支援、海外企業との国内商談会、セミナーを実施する。	海外見本市出展・商談会：4回、国内商談会・セミナー：4回(商談会)/1回(セミナー)	【海外見本市出展・商談会】支援対象企業数：12社以上、販売成約数：40件以上目標、支援企業のビジネスモチベーション高揚の割合：80%以上目標、支援企業の海外展開が企業経営に貢献した割合：70%以上目標 【国内商談会・セミナー】大阪での商談会：4回以上実施、大阪企業の参加数：各回10社以上、支援企業のビジネスモチベーション高揚の割合：80%以上目標、支援企業の海外展開が企業経営に貢献した割合：70%以上目標	-	海外見本市出展・商談会の開催、国内商談会・セミナーの開催により、ビジネスパートナー都市(BPC)提携のネットワークを活用し、在阪中小企業に対する国際ビジネス活動を支援するため、おおむね計画どおり事業進捗している。	事業の拡大・継続	-	-	ビジネスパートナー都市等交流事業(予算：61,744千円)		
100	外国企業誘致推進事業	大阪府、大阪市、大阪商工会議所	大阪府・大阪府・大阪商工会議所で平成13年度に立ち上げた「大阪外国企業誘致センター(O-BIC)」事業により、オール大阪としての対外的なプロモーション活動や立地サポート及び外国経済団体等とのネットワークを活用するなどし、大阪への外国企業等の誘致活動を行う。	大阪への外国企業等の誘致促進	誘致件数：27件	-	大阪外国企業誘致センター(O-BIC)において、ポストンでのライフサイエンス分野の展示会への出展、大規模展示会での企業ヒアリングなど、国内外で積極的なプロモーション活動を展開しており、今年度の誘致件数も順調に推移している。	事業の拡大・継続	-	大阪外国企業誘致センターの運営(予算：7,600千円)	大阪外国企業誘致センターの運営(予算：7,600千円)		
101	トップセールスによる戦略的プロモーション	大阪府、大阪市、経済団体、大阪観光局	海外ネットワークの戦略的な活用、関係機関等との連携を通じ、知事・市長等が、国内外向け大阪の魅力や強みを効果的に発信し、経済・観光等の分野における交流促進を図る。	大阪への投資促進 大阪と海外企業交流の促進 市内各地に観光客を誘致	各都市の特徴に合わせ、プロモーションや商談会、セミナー等最も効果的な経済交流のあり方をめざし事業を展開し、姉妹都市と本市の交流促進に資するネットワークをさらに深化させる。(市)	-	大阪企業と現地企業との現地での商談促進に向けて、政府関連機関、外国政府機関等への協力要請を行うとともに、代表団・企業団派遣の調整中。(府) 海外ネットワークの戦略的な活用、関係機関等との連携を通じ、外国政府機関・企業等に効果的に大阪の魅力や強みを発信している。今後、プロモーション活動やビジネス交流等の各種交流をより効果的なものとするために、国内外の関係機関・関係部局等との連携を強化していく。(市)	事業の拡大・継続	-	海外トッププロモーション事業(予算：5,533千円)	姉妹都市ネットワークを活用した経済交流の推進(予算：13,815千円)		
102	JICA(国際協力事業団)との連携事業	大阪市	JICAと連携し、都市上下水道維持管理、都市廃棄物、大気汚染対策、救急救助等の分野で研修コースを設置し、開発途上国・地域から研修員を招聘するとともに、技術協力としてこれらの国・地域への職員派遣を実施する。 また、受入れた人材を本市の国際化に対するアドバイザー及び海外における情報発信・海外の最新情報の収集拠点として位置づけ、ネットワークを形成する。	JICAと連携した開発途上国・地域との人材交流促進	・発展途上国・地域からの研修員の招聘人数：65人 ・研究員の大阪国際交流協力員の参加率：80%	-	都市上下水道維持管理等の開発途上国・地域の課題に応じて、大阪市の最新事例等の研修を実施することにより、都市間交流を推進し、「大阪国際交流協力員」を活用することにより、海外における本市の情報発信等につなげている。	事業の拡大・継続	-	-	-		

大阪都市魅力創造戦略2020 事業調査、評価表

年度	2018
----	------

整理番号	プロジェクト名	取組の主体	プロジェクト概要	アウトカム	成果指標		中間評価	次年度方針案	期末評価	(参考)大阪府	(参考)大阪市
					目標	実績				予算事業名・予決額	予算事業名・予決額
新規	鶴見緑地の再生・魅力向上事業	大阪市、民間事業者	管理運営事業者の更新時期でかつ、「国際花と緑の博覧会開催後30周年」となる2020年にむけ、民間事業者の参入を促進し、鶴見緑地の再生・魅力向上を図る	鶴見緑地の再生・魅力向上	・「鶴見緑地再生・魅力向上計画」を策定する ・新たな管理運営事業者の公募条件を整理する	-	・有識者委員会の意見を踏まえながら、「鶴見緑地再生・魅力向上計画」の策定に向け、検討を進めている。	事業の拡大・継続	-	-	鶴見緑地の再生・魅力向上事業（予算：26,871千円）
新規	2019年G20大阪サミット開催に向けた取組みの推進	大阪府・大阪市・経済団体	日本が議長国となる2019年G20サミット成功のため、府・市・経済界による推進組織を設置し、オール大阪で会議の開催支援等を実施するなど、大阪・関西の強み・魅力を世界に発信する。	・G20大阪サミットへの理解・協力機運の盛り上げ。～平成30年8月：知ってもらおう(周知)～平成31年1月：ともめざす(理解促進)～平成31年6月：もてなす(参画) ・国や関係機関等と連携した防災・危機管理、保健医療面等、安全・安心なサミット開催に向けた万全な準備 ・大阪・関西の食の魅力、伝統文化等を活用した各国代表団等への最高のおもてなしの実現	・ポスター、チラシ、ホームページや市町村・関西広域連合構成府県市・経済団体などの協力による広報活動。 ・サミット開催時の対応を見据えた訓練の実施等、個別検討課題プロジェクトチームによる体制構築と取組支援。 ・サミット関係者等の配宿・客室確保の円滑な実施のための宿泊予約センターの設置・運営。 ・市町村、関西広域連合、経済界の協力のもと、大阪・関西の魅力ある食材・訪問場所等の国への提案等。 ・多言語ホームページや海外メディアプレスツアー等を通じた大阪・関西の世界への発信。	-	・2019年G20大阪サミット宿泊予約センターの設置や、G20大阪サミット開催1年前キックオフフォーラムを開催するなど、サミット開催成功に向けた取組みを推進している。	事業の拡大・継続	-	2019年G20サミット推進事業費 (予算：228,567千円)	2019年G20大阪サミット開催支援事業費 (予算：82,688千円)